378
238

378
238

社會政策資料 27

國際勞働事務局編

生産調査法

378-238

序

本書は國際勞働事務局の發刊に係る「Introduction Memorandum to the Enquiry into Production」を我外務省臨時平和條約事務局に於て飜譯したるものを讓り受けたるものなり

茲に外務省臨時平和條約事務局の好意を感謝す

大正十一年一月

大正 11. 2. 10 内交

目次

緒言

一、調査ノ由來……（一）

二、調査方法……（九）

第一編　事實……（一三）

一、調査ノ範圍……（一三）

二、生產統計……（一五）

三、勞働者一人ノ生產……（三五）

四、需要ノ變動……（四一）

五、物價調査……（四三）

第二編　原因……（四七）

目次

一、原料問題……（四七）
二、運送ノ澁滯……（五二）
三、設備ノ不完全……（五七）
四、爲替ノ不安……（六〇）
五、信用ノ危機……（七〇）
六、勞働ニ關スル原因……（七一）
（一）動員セラレタル勞働者……（七一）
（二）失ハレタル勞働者……（七一）
（三）勞働者ノ生產能力減退ノ原因……（七二）
（四）勞働時間ノ短縮——八時間制……（七六）
（五）同盟罷業及鎖出……（九三）
（六）勞力ノ逼迫……（九四）
（七）失業ノ急迫……（九五）
（八）個人的又ハ團體的生產ニ對スル比例的賃銀制度ニ對スル勞働者ノ反對……（九九）

七、心理的竝道德的要素……（一〇〇）

第三編　解決法……（一〇三）

一、產業ノ民衆化……（一〇三）
二、出來高拂賃銀制ノ問題……（一一八）
三、勞働調節……（一二三）
四、器具ノ改良……（一二八）
五、爲替率竝原料……（一三一）

第四編　調査計畫竝質問書……（一三三）

一、調査計畫……（一三三）
二、勞働者竝使用者團體ニ對スル質問書……（一五〇）
三、產業組合ニ對スル質問書……（一五四）
附錄
第一　產業ニ於ケル生產增進委員會……（一五九）

第二　産業ニ於ケル生産增進委員會ニ依リ發セラレタル質問書……（一六一）
第三　勞働時間制合同調査委員會……（一六五）
第四　白耳義經濟狀態調査委員會說明書……（一七四）
第五　白耳義産業委員會議事規則……（一八一）
第六　一九二〇年ニ於ケル作業復舊ニ對スル主要障害……（一八四）
第七　「ヂャッカート」氏立案質問書案……（一八六）
第八　「マハイム」氏ノ質問書ニ對スル說明書……（一九一）
第九　「ヂャッカート」氏ノ質問書ニ對スル「ヴュプルケール」氏ノ修正……（一九八）
第十　失業ニ關スル調査詳細案……（二〇二）
第十一　商船ト生産トノ關係……（二〇五）
第十二　戰時事變ノ使用狀態ニ及ホシタル影響ニ關スル統計……（二一一）
第十三　一九二〇年「ブラッセル」國際財政會議……（二二三）
第十四　一九一四年、一九一八年及一九一九年ノ「マサチュセッツ」州ニ於ケル勞働生産力（二五二）
第十五　救濟信用及輸出增進……（二五六）

生産調査法

緒言

一、調査ノ由來

「ジェノア」理事會ニ於ケル動議

國際勞働事務局ノ理事會ハ客年六月九日「ジェノア」會議ノ際世界各國ノ工業生産調査ヲ爲スノ任務ヲ事務局ニ付託スルコトヲ決議シタリ該調査綱目ノ作成ニ當リ吾人ノ依準シタル原則ヲ說明スルニハ先右理事會ニ於ケル該提議ノ如何ナル辭令ヲ以テセラレタルカヲ詳ニシ更ニ決議ヲ採用スルニ至リタル意見交換ノ跡ヲ回想スルコト根本的ニ必要ナリト思考セラル

之カ爲――右短簡ナレトモ根本的ナル議論ノ價値ヲ明白ニ評價シ且其ノ形狀ヲ的確ニ描寫スルカ爲――ニハ吾人ハ其ノ速記錄ヲ玆ニ再錄スルヲ以テ最適當ナリト思考スルモノナリ卽チ左ノ如シ

「ビレリー氏」目下一九二一年勞働總會ノ事項ノ審議中ナルニ付テハ余ハ左ノ希望ヲ發表スルノ提案ヲ

使用者側ノ名ニ於テ理事會ノ好意アル考慮ニ付セラレンコトヲ希望ス

「理事會ハ勞働條件及生活費ニ關係アリト認メラルル世界各國ノ工業生産ニ關スル調査ヲ爲スノ任務ヲ事務局ニ付託スルコトヲ決議ス」

右調査ノ成績ハ理事會ノ審査ニ付セラルヘク然ル後次期總會ニ於ケル局長ノ報告中ニ加ヘラルヘシ

生産ノ問題ハ既ニ八時間勞働ノ問題ニ牽連シテ同僚「シンドラー」氏ヨリ提議セラレタル所ナルカ吾人ハ今日又別ノ見地ヨリ之ヲ攻究センコトヲ提議スルモノナリ生活費ハ何レノ國ニ於テモ異常ノ騰貴ヲ爲シタリ此ノ現象ハ種多ノ原因ニ依ルト雖其ノ一ハ必然生産ノ減退ニ在リ生産ノ減退ハ又種多ノ原因ニ基クモノニシテ其ノ原因中ノ或者（原料及船舶ノ缺乏陸上運送ノ亂脈等）ハ本理事會所管事項ニ非サルモ八時間制ノ適用、同盟罷業ノ頻出竝鎖出、個人的若ハ團體的生産高ニ對スル比例賃銀制度ニ對スル反對等ノ如キ勞働條件カ生産上影響スル所アリヤ又如何ナル程度ニ於テ影響アリヤヲ攻究スルハ興味アルコトナリトス然ルニ若干ノ例外ヲ除ケハ原料産出國ニ於テ所用ニ供セラルヘキ原料ノ量ハ勞働ノ現狀態ニ於テ工業ノ使用力ヲ超ヘ而シテ他方傭船ノ便宜ハ日ニ增加セルコトヲ信スルノ理由アルコトハ一層興味アラシムルモノナリトス

諸君本動議ハ使用者側ノ提出シタル所ナリ雖然一般ノ利害問題ニ觸ルルモノタリ直接經濟的利益ノ見地ヨリシテハ「生産ノ缺乏」ハ又多數ノ工業ニ於テ價格競爭ノ減少ト贏利ノ可能トヲ意味スルモノナリト謂フコトヲ得雖然吾人ハ産業上ノ一階級ノ責任アル代表者トシテ此處ニ出席セルモノニシテ又此ノ卓ヲ圍ミ共ニ一般ノ利益ヲ念トスル吾人ハ皆世界ノ需要ニ對シ充分ナル生産ヲ期スルヨリ緊要ナル問題ナキカ故ニ右目的ノ愼重攻究ヲ拒ム能ハサルナリ尙生産カ物價ノ低下ト競爭ノ再現トニ依リ品質ノ改善ヲ促スニ充分ニ潤澤ト爲ルヲ希望ス余ハ此最後ノ點ヲ力說ス蓋シ余ハ生産者カ生産品ノ技術的完全ト消費者ノ種々ノ要求ヲ滿足セシムルトニ付從來拂ヒタル注意ヲ回顧シテ遺憾ノ念ナキ能ハサルヲ以テナリ

余ノ提案ハ右ノ一切ノ懸念ニ答ヘ而シテ一方生活費ノ騰貴及他方各國財政難ノ繼續シ或ハ更ニ其ノ度ヲ加ヘ又其ノ或國民ノ存立ヲモ脅威セントスルノ虞アルニ應スル所アラントスルナリ

余ハ諸君ニ上來述フルノ光榮ヲ有シタル理由ト之ヲ宣明シタル提案トカ理事會ノ一般ノ贊成ヲ得ンコトヲ切望ス

「フォンティーヌ」氏（會長）「ビレリー」氏ノ提案ハ國際勞働事務局カ「ジュネーヴ」總會ニ於テ八時間制ノ適用ニ關スル報告ヲ爲スニ當リ同時ニ且右ニ關連シテ世界ノ各國ニ於ケル工産及農産ニ

關スル報告ヲモ爲スヘシトノコトナリ

余ハ右ハ次期理事會ニ報告セラルヘキモノト思考ス

「ジューオー」氏　原則トシテ余ハ「ビレリー」氏ノ提案ニ同意ナリ但シ氏ノ說明ニハ若干ノ要件ヲ逸脫セリ

氏ハ原料ノ問題、運送ノ問題及一般組織ノ弛廢ハ吾人ノ所管事項ニ非スト謂ヒ又單ニ勞働條件ニ關係アル事項ノミ國際勞働事務局ニ於テ攻究セラルヘシトセルカ如シ余ヲ以テスレハ右ハ問題ノ根本ヲ謬レルモノニシテ斯タテハ何ノ結果ニモ到達スルコトヲ得サルモノナリト信ス

戰爭ハ生產條件ニ著シキ影響アル事態ヲ殘シタリ其處ニハ物質的條件ノミナラス吾人ノ考慮スヘキ精神的條件モ亦存ス而シテ若シ此ノ條件ヲ考慮セサルトキハ正シク單ナル八時間制誹謗ノ報告ヲ得ルニ至ルヘシ吾人ハ斯ル傾向ノアルヘキ調査ヲ承認スルコト能ハス

原料ノ問題ハ華府總會ニ提出セラレタル處問題ノ重要ナルコトハ理解セラレサリシカ問題ハ日々ニ諸國政府ノ論議ニ上リ來レリ余ニ於テハ右ハ國際勞働事務局ノ所管事項ナリト思考ス蓋シ原料及運送ノ問題ヲ研究スルコトナクシテ一般生產問題ヲ攻究シ得サレハナリ右ノ二要素ハ生產トノ關係上重要ナルモノナリトス

余ハ事務局カ右調査ノ委託ヲ受ケンコトヲ望ム而モ專ラ勞働條件ニ關係アルモノニ限ラス一般的方法ニ於テ委託セラレンコトヲ求ムルナリ

「ビレリー」氏「ジューオー」氏ニ答ヘン原料ノ問題ハ余ニ於テ深ク同感ニシテ余ハ個人トシテ該問題ヲ巴里會議ニ提議センコトヲ努メタリシナリ余ハ本問題カ吾人ノ所管事項タリ且生產ニ關スル調査ハ原料、船舶等ヲモ參酌スヘキモノナリト思考ス余ハ全然同意ナリ

吾人ハ生產ノ進步、增加、世界的競爭及品質ノ改善ニ付一般ニ考慮セサルヘカラス

「アルベール、トマ」氏　余ハ「ビレリー」氏ノ提案ニ關シ又同氏ト「ジューオー」氏トノ間ニ生シタル議論ニ付一言致シタシ

余トシテハ事務局カ喜ンテ生產ノ問題ニ關シ付託セラレタル任務ヲ引受クヘキコトヲ言明スヘシ實ニ法制ノ問題ハ其ノ者ノミヲ擇リテ攻究シ得ヘキモノトハ認メ難シ全體ノ一部トシテ視ルニ非サレハ之ヲ詳ニスルコトヲ得サルナリ八時間制ノ問題ハ其ノ社會生活ニ對スル反響竝該制度樹立ノ條件カ如何ナルモノナルヤヲ同時ニ研究スルコトナクシテハ之ヲ論議スルコト能ハサルヘシ

八時間問題カ佛國議會ニ於テ議セラレタル當時余ハ此ノ二ツノ意味ニ於テ述ヘタルコトアリ

「ジューオー」氏ノ所言ハ生產ノ問題ハ八時間問題ヲノミ考慮ニ置キテ研究スルコトヲ得スト謂フニ

在リ雖然使用者側ノ意思ハ如斯ニ非ス

生活費ノ騰貴又ハ生産ノ減少ニ於ケル各種働因ノ範圍如何ヲ測定スルコトヲ要ス是正ニ吾人ノ所管問題ナリ

吾人カ調査ヲ引受ケ得ルハ右ノ條件ニ於テナリ若シ事務局ニシテ此第一ノ事業ニ協力スルコトヲ得ハ事務局ハ汎ク世界ニ貢獻スルコトヲ得ルモノタリ若シ之ヲ成就セハ吾人ハ一般勞働社會ノ期待セル結論ヲ國際勞働總會ニ提出スルコトヲ得ヘキナリ

「フォンテーヌ」氏　余ハ「ビレリー」氏ノ提案ヲ採決セントス尤モ或働因ヲ除外シテ調査ヲ爲スコトハ不可能ナリト思考ス

「ソカール」氏　余ハ「ビレリー」氏ノ提案ニ贊ス但シ問題ハ結局確乎タルモノニ非スト信ス本日午後之ヲ一層正確ニスルコトヲ得サルカ

「アルベール、トマ」氏　余ハ理事會カ此ノ點ニ止メラレンコトヲ望ム今日午後ニ右ノ範圍ヲ卽決スルハ困難ナルヘシ如斯ハ八日乃至十日ヲ要スル事業ナリ理事會カ諸事項中或數者ヲ採リテ議決セラルルトキハ吾人ハ吾人ノ事業ヲ進メ得サルヘシ原則ノ表決ニ止ムルコトヲ要ス

「ソカール」氏　余ハ余ノ提案ヲ撤回ス

（決ヲ採ル）

「ビレリー」氏ノ動議ハ採用セラル

數多ノ點ハ右ノ討議ニヨリ頗ル明白ナリ

第一ニ理事會ノ意思ハ生活費ノ騰貴ヨリ一歩ヲ進メテ汎ク物價昂騰ノ趨勢ト同時ニ生産ノ減少ヲ考究スルニ在リタルコト確實ナリ「ビレリー」氏カ提案ノ理由トシテ述ヘタル演說ノ發足點ヲ成セルモノハ實ニ生活費ノ一般的騰貴ニ在ルナリ

第二ニ可決セラレタル決議ノ文言ニ依レハ調査ハ世界ノ各國ニ於ケル工業生産ニ付其ノ勞働條件及生活費ノ關係ヨリ之ヲ考察シテ行フヘシト謂フニ在ルモ「ジューオー」氏ノ說ニ次テ行ハレタル議論ニ於テ苟モ事實ノ說明ニ資スヘキ一切ノ原因ハ調査上之ヲ除外セサルコトヲ必要トスルニ付テハ理事會ニ代表セラレタル各派ノ間ニ完全ナル一致ヲ見タル所ナリ

右ノ所證ニ依リ調査ハ專ラ又ハ主トシテ八時間制ノ經濟的反響ノ研究ヲ目的トスト認ムルヲ得サルコト明カナリ而モ尙吾人ハ動議ノ文言カ特ニ勞働ノ要素ヲ重視スレトモ右ハ勞働時間ナル特殊條件ニ付テ謂フモノニ非スシテ極メテ汎キ言辭ニ於ケル勞働條件ニ付テ謂ヘルモノナルコトニ注意スルコトヲ要ス則チ生産的活動ニ關係アル一切ノ働因ハ之ヲ考慮ニ加フルコトヲ要ス例ヘハ報酬、時間、健康

狀態等ノ如キ物質的働因竝繼續使用ノ保障、勞働條件ノ監督其ノ他企業經營ニ於ケル大小ノ參加等ノ如キ道德的要件是ナリ國際勞働事務局ノ行フ調査ニ於テハ如上ノ點ヲ特ニ緊要トスルハ勿論ナリトス

最後ノ點ハ決議ノ文言ヨリ之ヲ推スコトヲ得サルモ提案者ノ演說及論議ノ全體ヨリシテ之ヲ察スヘク卽チ調査ハ單純ニ理論的ナルヘカラス實際ノ目的ニ資スヘキモノナルコトヲ要ス其ノ追ハントスル目的カ常態ニ復歸スルニ適スル方法ノ決定ナルコトハ言ヲ俟タス

右述フル所ニ依レハ事務局ノ事業ハ左ノ如クナルヘシ

(イ)生產及物價ニ關係アル諸多ノ事實ノ實在ヲ明ニスルコト

(ロ)該事實ヲ說明スル根本的原因ヲ決定スルコト

(ハ)思考ノ作用ト事實ノ趨向トヨリ同時ニ推論セラルル諸解決法ヲ擧示スルコト

吾人カ吾人事業ノ綱目ヲ作成シ又經濟團體ニ送付スヘキ質問書ヲ編成シタルハ右ノ見解ニ基ケルモノナリ

本覺書ノ目的ハ之ニ依リ同時ニ思考ヲ案出シ及主要ナル點ノ理由ヲ說明スルニ在リトス

二、調査方法

理事會カ事務局ニ爲シタル委任ヲ能フ限リ完全ニ實行セントノ念ヨリシテ吾人ハ調査ノ範圍ヲ甚シク擴大スヘキ諸種ノ事實ヲモ加フルコトニ決シタリ吾人ハ直下如何ニ又何故ニ吾人ノ事業ノ斯ル考案カ克ク吾人ヲシテ越ユルヘカラサル困難ニ至ラシメサルカヲ明カニセント欲ス

生產及物價ノ變動ニ密接ナル關係アル各種ノ事實ヲ沒却スルコトハ斯クシテハ吾人ハ片寄リタル科學的結論ニ達シ又之ニ依リ偏頗ナル實際的結論ニ達スヘキカ故ニ不可能タルナリ

雖然右不可能ト謂フノ證左ハ事務局カ付託セラレタル問題全體ニ付始メヨリ調査ヲ爲スノ義務ヲ有セリト謂フニハ非ス戰爭前既ニ汎ク右國ノ公私諸種ノ團體ハ吾人ノ一般調査ノ範圍內ニ入ルヘキ諸種ノ事實ヲ不斷ニ研究スル所アリ而シテ戰爭ハ其ノ生メル經濟的及社會的變動ノ激甚ナリシコトニ依リ資料ノ蒐集ニ關シ組織的努力ヲ誘起シタリ如斯ニシテ吾人ノ業程ノ殆ト一切ノ點ニ付多數材料ノ蒐集アリ著大ナル事業カ既ニ成就セラレ居ルナリ吾人ヲ以テスレハ之ヲ再センコトヲ想フハ之ヲ看過センコトヲ欲スルト均シク理由ニ乏シキ所ナリ吾人ハ能フ限リ之ニ依リ便宜ヲ獲ンコトヲ欲ス如斯クニシテ吾人ノ事業ハ尙重大ナルモ而モ大ニ輕減セラルヘク吾人ノ計畫ハ空想タルヲ免ルヘシ

サレハ第一ニハ考察スル諸點ニ付既ニ行ハレタル調査及右調査ノ結果ヲ知ルコトヲ必要トス

右ノ情報ヲ蒐集スルニ當リテハ吾人ハ各政府機關竝右調査ヲ爲シタル各種ノ科學研究所及協會ト交渉スルノ要アルヘクサレハ又如上ノモノト吾人トノ間ニ吾人ニ取リテ多大ノ價値アル協力ヲ樹立スルコトニ遲疑セサルヘシ

吾人カ直接自ラ調査ニ從フヘク殊ニ吾人カ一定ノ個人又ハ團體ニ對シ或少數ノ點ニ關スル質問書ヲ送付スヘキモノハ第三者ノ爲シタル以前ノ調査ニシテ吾人ノ要スル所ノモノノ供與セラレサルヲ限度トス

吾人ハ吾人カ直接ニ工業企業者ニ依賴スルハ全然例外ノ場合ニ非サレハ之ヲ見ルコトナカルヘシト信ス而モ斯ル性質ヲ有スル調査ハ寧諸國政府ノ管轄ニ在リ且少クトモ現在ノ事情ニ於テハ吾人ハ右ハ極メテ局限的ニ之ヲ扱フコトヲ要スヘシト思考ス吾人ノ請求カ好意的ニ蒐集セラルト想像セラルル特殊ノ理由アル場合ニ於テ幾分或種ノ探索ヲ爲シ得ルニ過キサルナリ而モ右ハ誇大ニ解スルコト斷シテ適當ナラサルナリ

產業組合又ハ都市若ハ國家ノ工業的企業ノ如キ或種ノ公益企業ニ付テハ恐ラクハ吾人ハ容易ニ之ト接觸スルコトヲ得ヘシ附錄ニ掲クル質問書カ大消費組合ノ店舗ヲ利用セントシテ作成セラレタルハ此ノ見解ニ因ルモノナリ

雖然此等ノ例外ノ外吾人ノ直接ノ調査ハ使用者團體、勞働者團體及國家ノ如キ團體ニ非レハ之ヲ送付スヘキモノニ非スト思考セラル吾人ハ諸國政府ノ協力及其ノ仲介ニ由ルニ非サレハ特殊ノ事業ニ直接關係アル調査ヲ遂ケ得ヘシトハ信スルヲ得サルナリ

第一編　事實

一、調査ノ範圍

「ジェノア」會議ノ動議ノ文言ニ依レハ調査ハ係リテ「世界各國ニ於ケル工業生產」ノ上ニ存スヘキモノトス

サレハ地理的見地ヨリスレハ調査ハ原則トシテ世界的性質ヲ有スルモノタルコトヲ要ス雖然吾人ハ諸般ノ事情ニ基キ或諸國ニ付テハ吾人カ調査ヲ行フコトノ不可能ナルヲ豫測セサルヘカラス

他方吾人ノ調査ハ工業生產ノ全般ニ亘ルコトヲ要スヘキヤ如斯ンハ遂ニ失敗ニ至ルヘシ斯ル事業ヲ爲スノ手段ハ吾人ノ絶對ニ有セサル所ナリ諸種ノ工業中選擇ヲ試ミ而シテ經濟上特ニ緊要ナルモノ及最容易ニ吾人ノ調査事業ニ資スヘキモノノミヲ摘出スルコトヲ必要トス

右ノ二ノ見地ヨリシテ吾人ノ事業ニ限界アルヲ知ルト雖他方「ビレリー」氏動議ノ文言上ハ除外セラレタルカ如ク見ユル區域ニ於テモ或程度ノ調査ヲ進ムルヲ適當トスルコトナキヤ該動議ハ工業生產ニ付テノ外謂フ所ナシ然ラハ吾人ハ全然農業生產ニ觸ルヘカラサルモノノ如シ現在世界ノ苦シメル經

濟上ノ恐慌ハ固有ノ工業生產ノ不安ナルト同シク食糧生產——換言セハ農業生產ノ——不安ナルニ在リ農業ハ工業ノ不安卽チ肥料、機械ノ缺乏等ニ苦メルモ雖然都會ノ民工業ノ人モ土地ノ生產物ノ不足ニ苦シミ或種ノ企業ハ農業ノ供給スル原料ノ不足ニ依リ其ノ再開ヲ阻止セラレ居レリ

吾人ニ於テ農業生產ヲ工業生產ト同一ノ尺度ヲ以テ考察スヘキニ非サルハ言ヲ俟タス後者ハ吾人固有ノ題目ナリ工業生產ハ其ノ者及該生產ニ關連シテ研究スル所アルヘシ之ニ反シ農業生產ハ一方一般ノ消費卽チ共同ノ福趾ト他方工業生產トニ關係アルモノニ付テノミ研究スル所アルヘキナリ

二、生產統計

最初ニ起ル問題ハ調査セントスル各國及生產ノ各部門ニ於テ生產額ニ付起リタル變動如何ノ問題ナリトス右調査ニ於テハ爾餘ノ調査ニ於ケルカ如ク戰前、戰時中及現時ノ三時期ニ亘リ考察スルコトヲ要ス

戰前ニ付テハ吾人ハ常態ノ最後ノ十年間卽チ一九〇四年乃至一九一三年ニ關スル材料ヲ自ラ能フ限リ蒐集センコトヲ努ムヘシ

人ヲシテ各國及各部門ニ付生產ノ趨勢ヲ明白ニシ從テ右ノ諸國及各部門ノ多數ニ關シ不安ヲ立證シ之カ程度ヲ測定スルコトヲ得シムル右ノ證左ヲ俟ツテ明ナルヘキ所ナリトス

玆ニ吾人ハ各種ノ公ノ刊行物ニ依リ第一ニ重要ナル或種ノ生產物ニ關スル統計材料ヲ整理セリ最高經濟會議ノ公表ニ係ル「統計月報」ハ數多ノ國ニ付石炭、銑鐵、粗鋼及船舶ノ生產額ヲ報告セリ右ハ玆ニ之ヲ再錄スルコト適當ナルヘシ其ノ意味スル所ヲ一層明瞭ナラシムルカ爲吾人ハ一方一九〇三年乃至一九一九年ノ生產ノ年次平均ノ趨勢ト他方最近時卽チ一九一九年乃至一九二〇年ノ月次生產ノ趨勢トヲ表示スル圖表ニ右ノ數字ヲ描出スルコトヲ要スト信スルナリ卽チ左ノ如シ

第一表　石炭産出額

單位ハ千米突噸（一千瓩）即〇〇〇ヲ省略ス

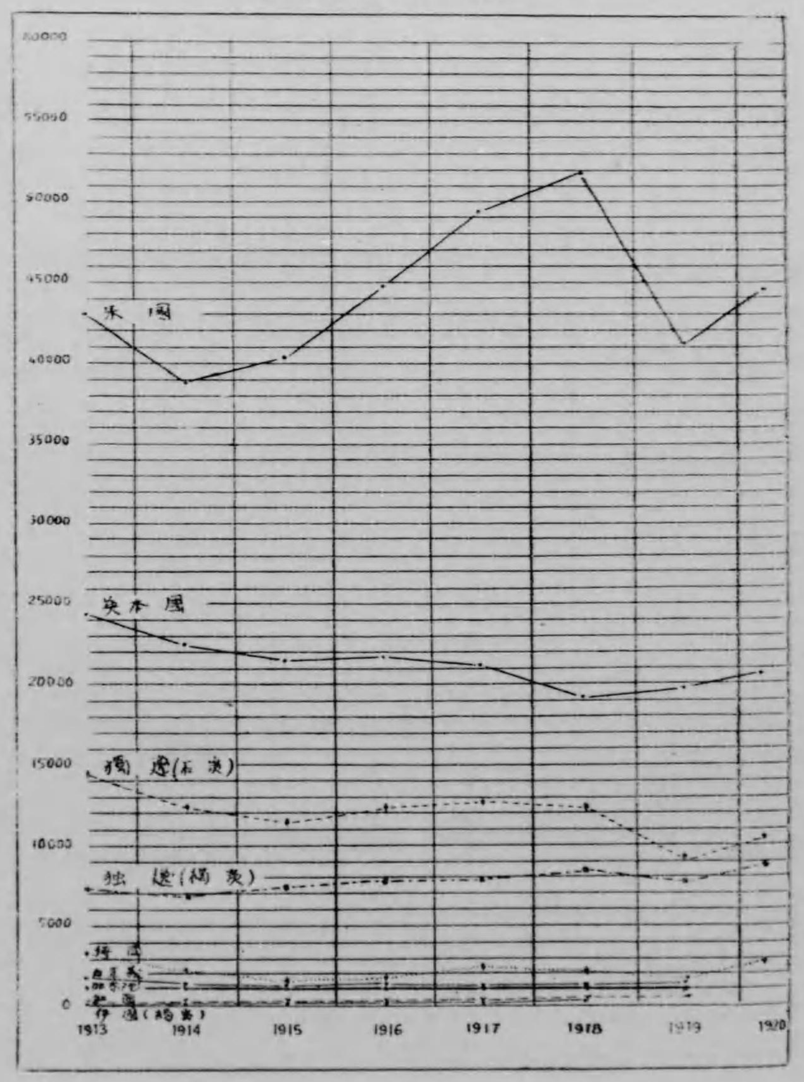
年次	英本國	米國（リ）	佛國（褐炭ヲ含ム）	伊太利（褐炭）	白耳義	加奈陀	和蘭 石炭	和蘭 褐炭	獨逸（ニ） 石炭	獨逸（ニ） 褐炭
一九一三年	二四、三四三	四三、一〇〇	二、四〇四	六五八	一、九四〇	一、一三五	一九五		一二、三八一	六、九六四
一九一四年	二二、四九九	三八、八三三	二、二九四	六五九	一、三九三	一、〇〇三	一六五		一一、三四〇	七、三六四
一九一五年	二一、四三一	四〇、〇〇一	一、六二八	一〇九	一、一八一	一、〇九五	一九四		一一、八一一	七、八六一
一九一六年	二一、七一一	四四、六二三	一、七六六	一四〇	一、四〇五	一、〇九五			一二、八二二	七、八六三
一九一七年	二一、四〇四	四八、二五九	二、一〇〇	一一八	一、二四二	一、〇六二			一三、三八〇	七、八六八
一九一八年	二〇、八二四	五一、七七八	二、四一〇		一、五一一	一、〇三三			一二、九六一	七、八六七
一九一九年	一九、九八八	四四、一七六	二、一八三		一、四二六	一、〇五五			一二、〇四九	七、八六九
一九二〇年 三月	二〇、一九八	三五、一〇七	一、八二四		一、一七四	一、〇〇三			一一、三四四	七、八六三
一九二〇年 四月	二〇、二〇四	三二、九七九	一、六二九		一、〇四四	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九二〇年 五月	二〇、二〇四	三〇、一〇七	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九二〇年 六月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九一九年 七月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九一九年 八月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九一九年 九月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九一九年 十月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九一九年 十一月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九二〇年 一月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九二〇年 二月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九二〇年 三月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九二〇年 四月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九二〇年 五月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一
一九二〇年 六月	二〇、二〇四	二九、九七八	一、七六六		一、〇〇三	一、〇〇五			一一、二四一	七、八六一

（イ）五週（ロ）四週（ホ）「ロレーヌ」ノ産出額ヲ含ム
（ハ）一九一九年ニ於ケル一日平均二、〇〇〇米突噸ニ上ル石炭滓ヲ除ク
（ニ）「ルール」、「上下「シンシヤ」、「サクソン」及「アイクス」地方ノ石炭産出額
（ヘ）假數字　（ト）「ロレーヌ」及「ザール」ノ産出額ヲ含ム
（リ）一九一九年及一九二〇年ノ一ケ月ノ數字ハ修正セラレタリ

第一圖

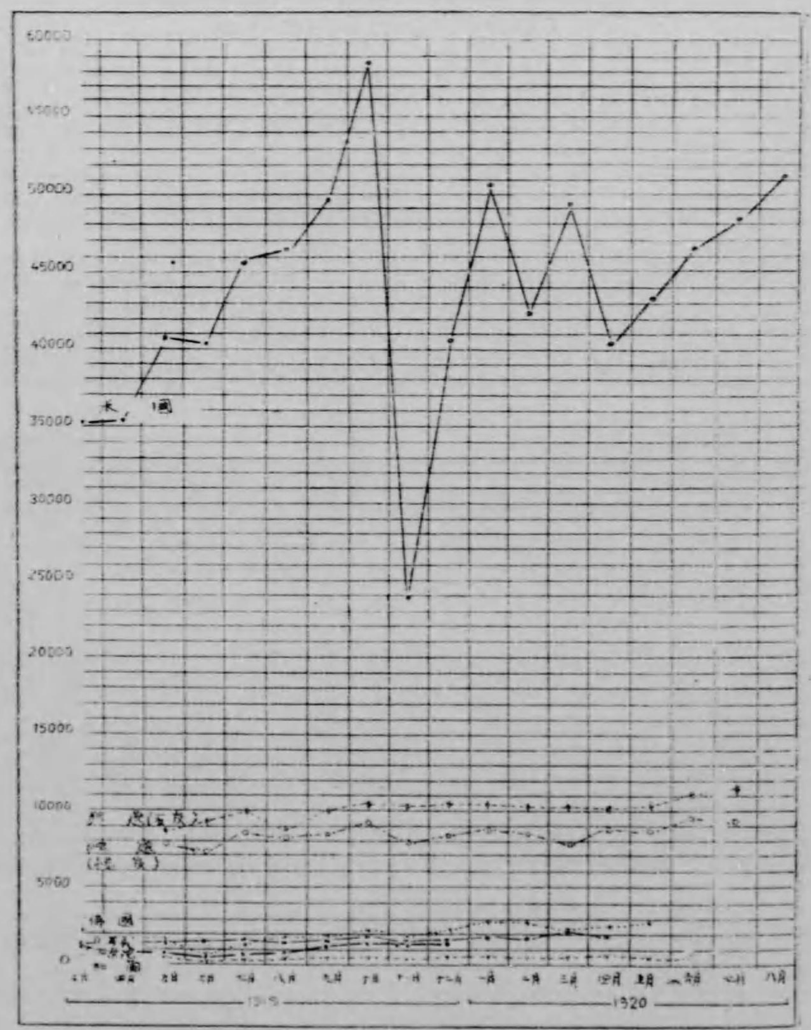
均平月毎額出産炭石均平ケル於ニ年〇二一九年〇二一九至乃年三一九一

（傾突米千一ハ位單）



第三圖

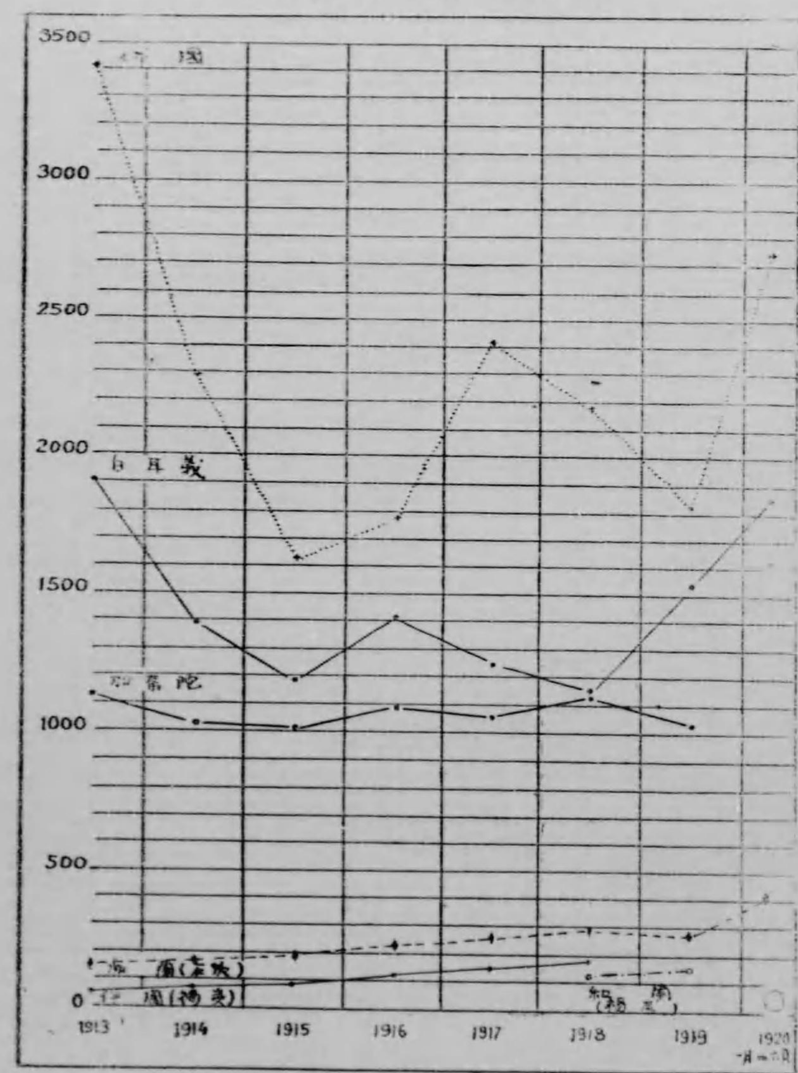
一九一九年三月乃至一九二〇年八月ニ於ケル毎月石炭產出額
（單位ハ一千米突噸）



英本國ノ產出額ハ計算ノ方法四週及五週ヲ一期トセル爲（第一表註（イ）及（ロ）參看）比較スルヲ得サルヲ以テ之ヲ示サス

第二圖

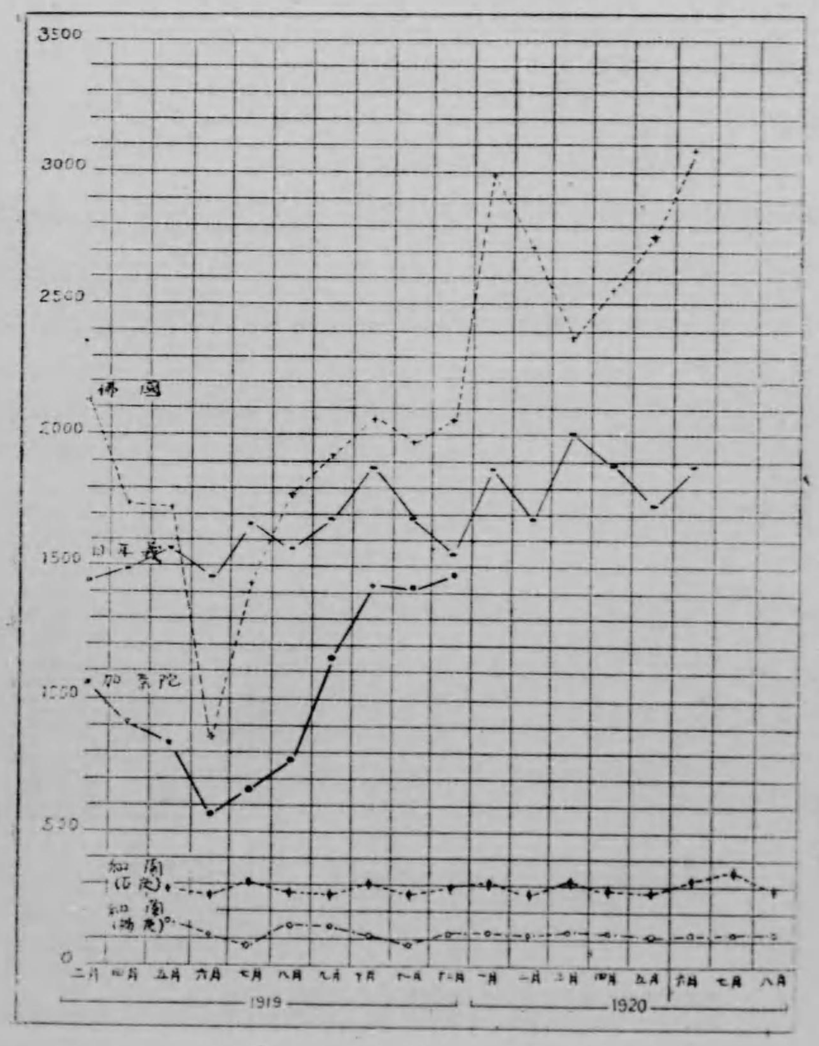
一九一三年乃至一九二〇年ニ於ケル毎月平均產出額
（單位ハ一千米突噸）（產出額低キ諸國）



第四圖

一九一九年三月乃至一九二〇年八月ニ於ケル毎月石炭産出額

（諸國ヲ低産出額）（噸突米千一八位單）



第二表　銑鐵生産額

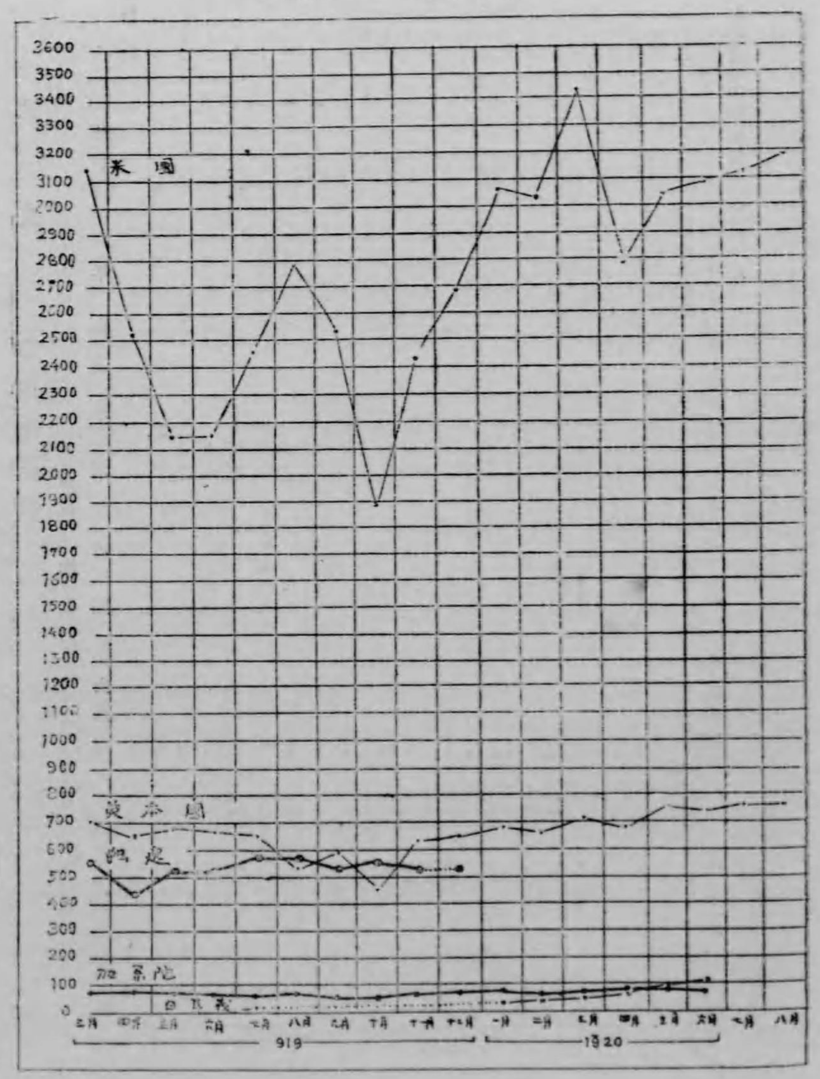
單位八千米突噸（一千瓩）即〇〇〇〇ヲ省略ス

年次	英本國	米國	佛國	伊國	白耳義	加奈陀	獨逸（ヘ）
一九一三年一ヶ月平均	八六九	二、六二三	四三四	三六	二〇七	八五	一、〇七四
一九一四年	七五六	一、九七六	二二八	三二	一二一	五九	八四三
一九一五年	七三九	二、五三四	四九	三一	六	六九	六九八
一九一六年	七五五	三、三四〇	一〇九	三九	一一	八八	七七二
一九一七年	七九〇	三、二七三	一一七	三九	一	八九	七九九
一九一八年	七六八	三、三〇七	一〇八	三六		九〇	七六五
一九一九年	六二七	二、五九〇	（ホ）二五〇			六九	五二五
一九一九年 三月	七〇二	三、一四〇				八三	五四
四月	六五八	二、一八〇				七五	五三
五月	六六八	二、一四一				六五	五五
六月	六六五	二、〇四二				五〇	五七
七月	六七一	二、六六一				四二	五二
八月	五八九	二、七六六				三五	四五
九月	四五三	二、八九八				二八	五五
十月	四五〇	二、一四九				一四	五六
十一月	三四二	二、二六七				一一	五七
十二月	二四一	二、二六六				一〇	五二
一九二〇年 一月	二六六	三、〇〇六				九	五五
二月	二七一	三、〇二八				八	五五
三月	二七〇	三、〇三八				七	五五
四月	二六五	二、七〇三				六	五五
五月	二七四	二、七八五				五	五五
六月	二七六	二、〇九三				四	五五
七月						九	五五
八月						二	五五
九月						二	五五
十月						一	五五
十一月						一	五五
十二月						一	五五
（イ）「アルサス、ロレーヌ」及「ルクサンブルグ」ノ生産額ヲ除ク							
（ロ）「アルサス、ロレーヌ」及「ザール」ノ生産額ヲ含ム見積數字							
（ハ）十一、十二兩月平均							

第六圖

一九一九年三月乃至一九二〇年八月ニ於ケル每月銑鐵生產額

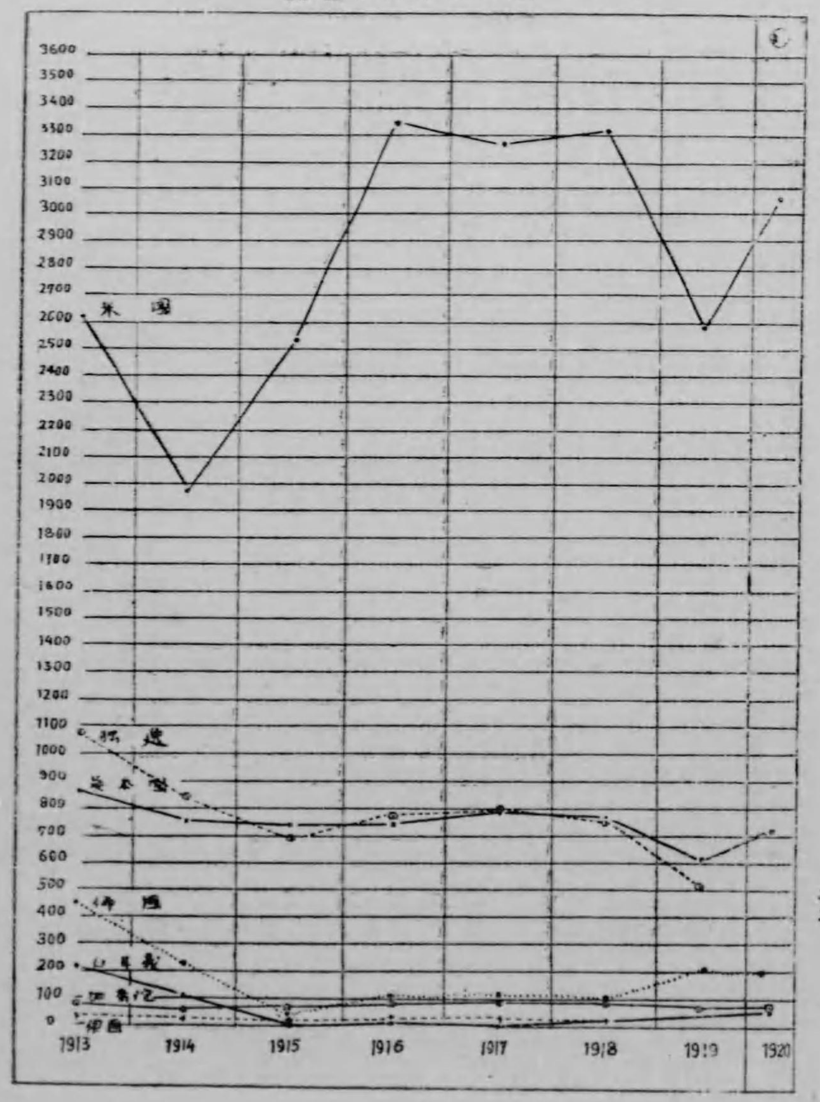
（單位ハ一千米突噸）



第七圖

一九一三年乃至一九二〇年ニ於ケル每月平均銑鐵生產額

（單位ハ一千米突噸）



第三表　粗鋼生産額

單位八千米ヶ噸（一千瓩ノ即〇〇〇ヲ省略ス

年次	英本國	米國	佛國	伊國	白耳義	加奈陀	獨逸(ホ)
一ヶ月平均							
一九一三年	(ハ)六四九	二、六五一	三六八	七八	二〇五	(ハ)八八	一、二七六
一九一四年	六六三	一、九九一	二三三	七六	一一六	(ハ)六三	一、〇二五
一九一五年	七二四	二、七二三	九三	八四	八	(ハ)七七	九二五
一九一六年	七七八	三、六二三	一四九	一〇六	八	(ハ)九六	一、一一八
一九一七年	八三〇	三、八一六	一六六	一〇八	一	(ハ)一三二	一、一六三
一九一八年	(ハ)八一二	三、六四六	一五〇	(ハ)八三		(ハ)一四二	一、〇七五
一九一九年	(ハ)六六九	(イ)二、八八〇	一八二			(ハ)七八	七〇八
一九一九年 三月	(ハ)七七〇	(ニ)二、二〇九				(ハ)一〇一	六五五
四月	(ハ)六七九	(ニ)二、七〇三				(ハ)七六	四二〇
五月	(ハ)六七〇	(ニ)二、三四九				(ハ)七九	六〇三
六月	(ハ)六四一	(ニ)二、八六四				(ハ)七〇	四七五
七月	(ハ)六二八	(ニ)二、九八四				(ハ)六九	六九〇
八月	(ハ)四八二	(ニ)三、三五九				(ハ)六五	六六九
九月	(ハ)三〇〇	(ニ)三、七三〇				(ハ)六六	六六六
十月	(ハ)四三〇	(ニ)三、五七〇				(ハ)六六	六六六
十一月	(ハ)七四〇	(ニ)三、四五九				(ハ)六六	六六六
十二月	(ハ)七〇六	(ニ)三、五五九				(ハ)六六	六六六
一九二〇年 一月	(ハ)七六三	(ニ)三、五四九				(ハ)六六	六六六
二月	(ハ)八五一	(ニ)三、四三九				(ハ)六六	六六六
三月	(ハ)八四〇	(ニ)三、一五〇				(ハ)七七	九九九
四月	(ハ)八〇六	(ニ)三、四五〇				(ハ)八八	九九九
五月	(ハ)八六〇	(ニ)三、五四〇				(ハ)八八	九九九
六月	(ハ)八八〇	(ニ)三、五四九				(ハ)八八	九九九

(イ) 見積數

報告ニ基ク見積

(ロ) 鋳鐵塊及鋳鐵

(ハ) 製鐵勞働者同盟能業中統計ヲ缺ク

(ニ) 一九一八年ニ於テ米國ノ生産總額ノ八割四分ヲ生産シタル三十ノ工場

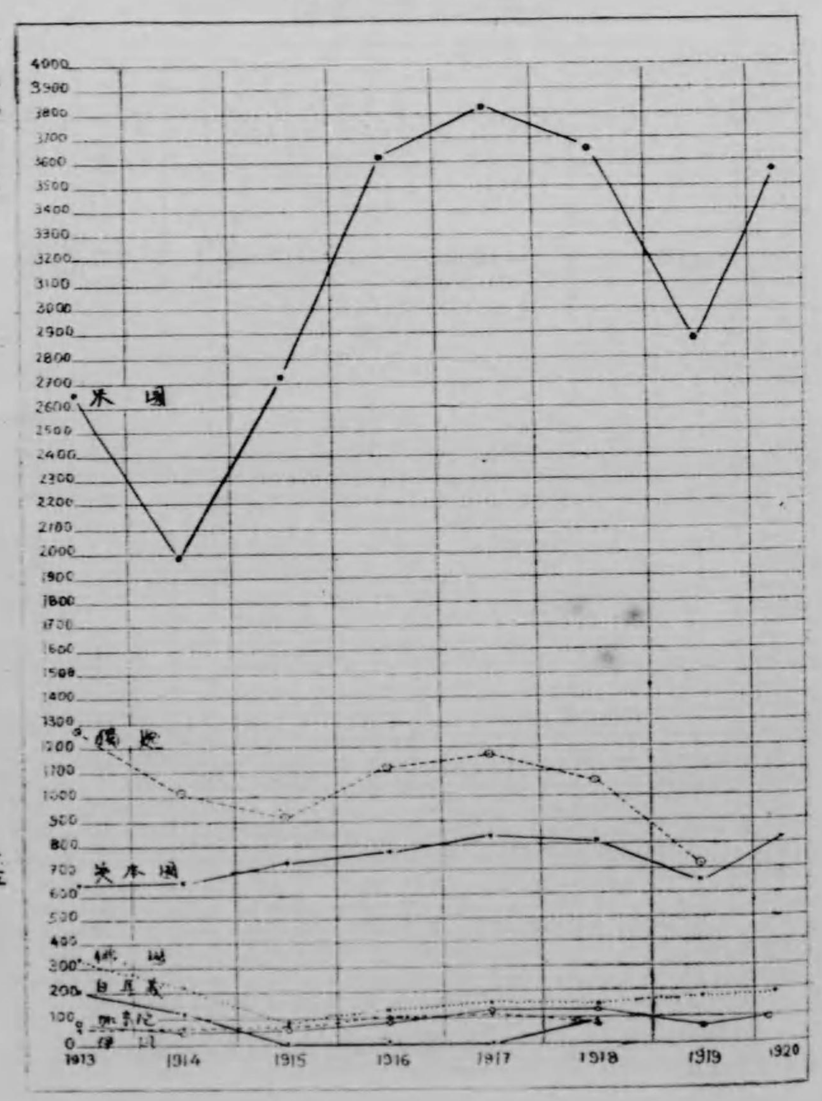
(ホ) 「アルサス、ロレーヌ」及「ルクサンブルグ」ノ生産額ヲ除ク

(ト) 十一、十二兩月平均

第七圖

一九一三年乃至一九二〇年ニ於ケル毎月平均粗鋼生産額

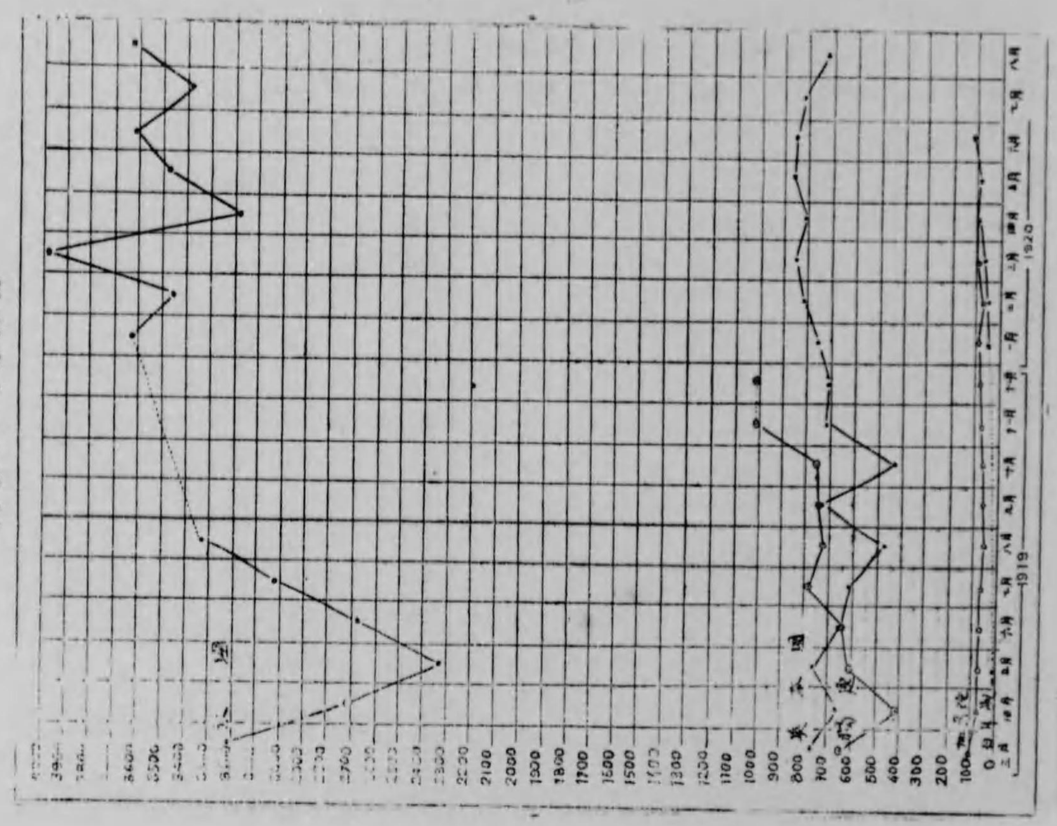
（噸突米千一ハ位單）



第八圖

一九一九年三月乃至一九二〇年八月ニ於ケル毎月租鋼生産額

（單位ハ一千米突噸）



第四表　英本國ニ於ケル造船

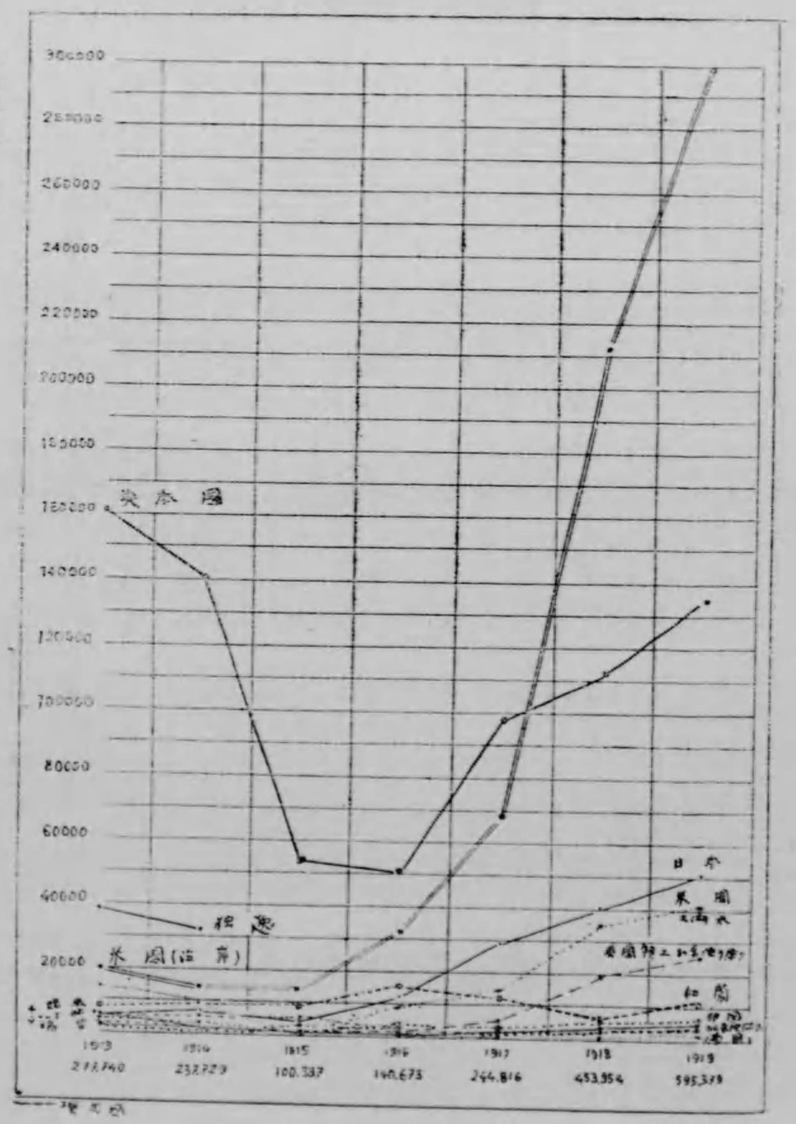
「ロイド」船舶登録ニ依リ定メラレタル期間ニ於ケル英國ノ建造中ノ、着手セラレタル及進水セラレタル總噸數

一百噸以上ノ船舶

期間	建造中ノ船	着手セラレタル船舶	進水セル船舶
夫ニ終ル三ケ月	總噸數	總噸數	總噸數
一九一七年三月三十一日	二、〇〇二、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
六月三十日	二、〇〇二、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
九月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
十二月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
一九一八年三月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
六月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
九月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
十二月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
一九一九年三月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
六月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
九月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
十二月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
一九二〇年三月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
六月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
九月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
十二月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
一九二一年三月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
六月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
九月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
十二月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
一九二二年三月三十一日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
六月三十日	一、九六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇

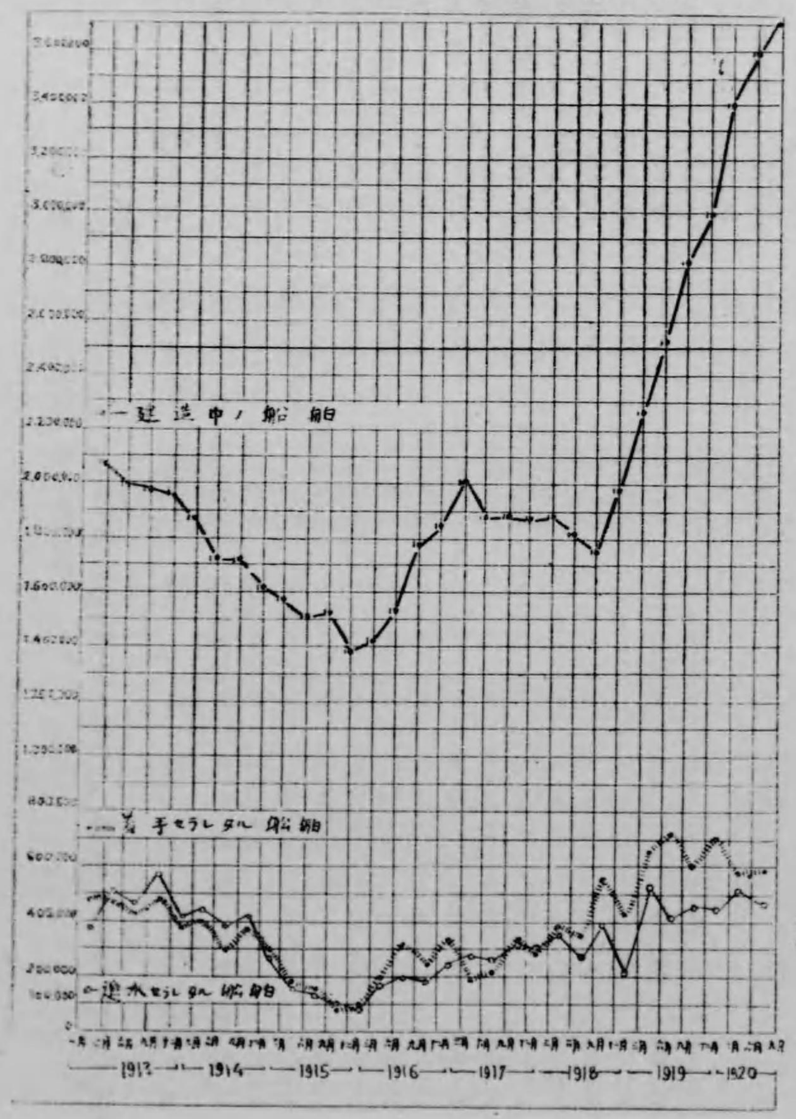
第十圖

世界ノ造船——一九一三年乃至一九二〇年ニ於テ進水シタル噸數
（總噸數一百噸以上ノ船舶）



第九圖

一九一三年乃至一九二〇年ニ於ケル英本國ノ造船
（建造中、着手セラレタル及進水セル總噸數一百噸以上ノ船舶）



第五表　世界ノ造船——進水セル及建造中ノ噸數

世界各國ニ於テ進水セラレ及指定期間内ニ於テ建造中ノ總噸數一百噸以上ノ船舶

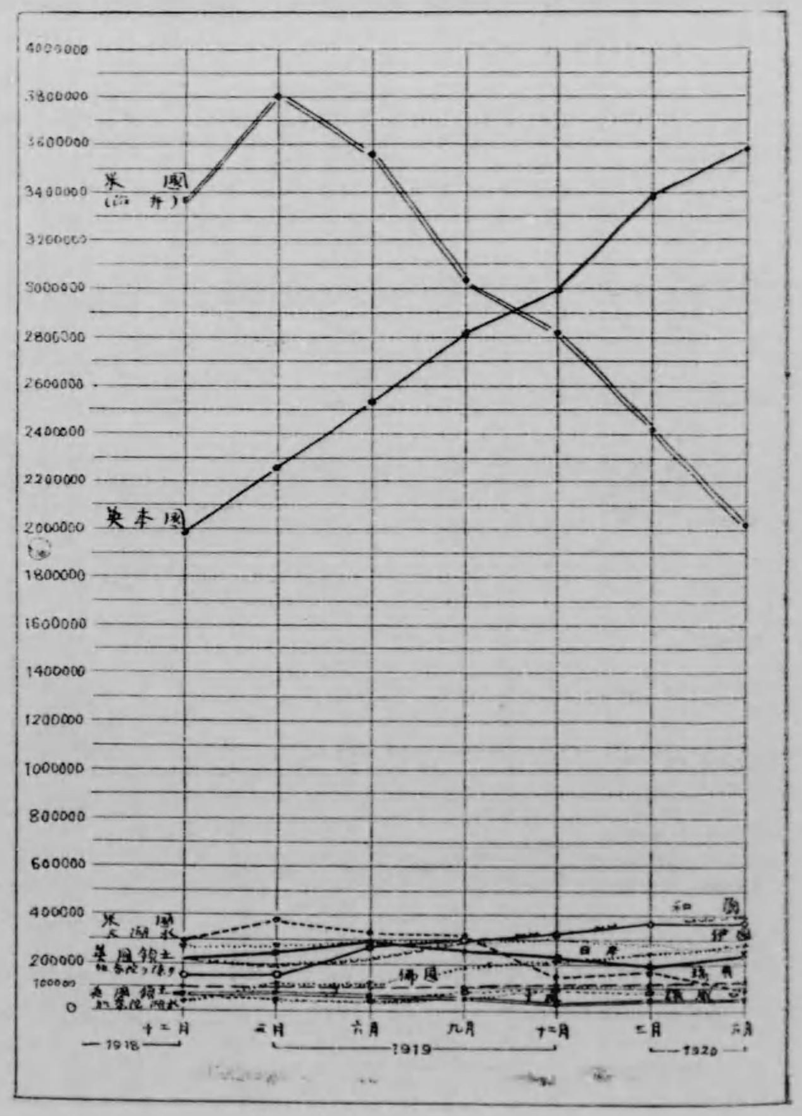
期間	英本國	英國海外屬地 湖沼ヲ除ク	英國海外屬地 湖沼ヲ除ク	米國 沿海	米國 大湖	伯國	伊國	日本
		(一) 進水セル噸數						
一ヶ月平均								
一九一三年……	一六一、〇一三	二、三二六	一、六〇〇	一六、〇一六	四、八一〇	一四、六四一	四、一六六	四、六六六
一九一四年……	一四〇、〇三六	一、六四七	二、一〇四	一六、四四一	二、一四一	九、四〇六	四、六六二	四、一四六
一九一五年……	四二、二三四	一、一〇七	六二六	一四、〇六四	一、六六一	二、一一六	一、四四六	四、一一六
一九一六年……	四〇、六六六	一、六六一	五四〇	九、二四六	四、六六六	三、四六六	四、一一一	二、一四四
一九一七年……	九六、六〇八	四〇六	二、二二四	六、四四四	一、四四四	一、六六六	二、四六六	一、六六六
一九一八年……	一一、二四四	一、六六六	二、二二二	二、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六
一九一九年……	四〇、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六	二、六六六	二、六六六	二、六六六	二、六六六
一九二〇年……	四〇、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六	二、六六六	二、六六六	二、六六六	二、六六六
一九二一年……	一一、二二二	二、四四四	二、四四四	二、六六六	二、六六六	二、六六六	二、六六六	二、六六六
一九二二年……	一一、二二二	二、四四四	二、四四四	二、六六六	二、六六六	二、六六六	二、六六六	二、六六六
建造中		(二) 建造中ノ噸數						
一九二二年十二月三十一日	一、六六六、六六六	二、四四四、四四四	二、四四四、四四四	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六
一九二三年三月三十一日	二、四四四、四四四	二、四四四、四四四	二、四四四、四四四	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六
六月三十日	二、四四四、四四四	二、四四四、四四四	二、四四四、四四四	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六
九月三十日	二、六六六、六六六	二、四四四、四四四	二、四四四、四四四	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六
十二月三十一日	二、六六六、六六六	二、四四四、四四四	二、四四四、四四四	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六
一九二四年三月三十一日	二、六六六、六六六	二、四四四、四四四	二、四四四、四四四	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六
六月三十日	二、六六六、六六六	二、四四四、四四四	二、四四四、四四四	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六

第五表——(續)

期間	和蘭	諾威	瑞典	丁抹	獨逸	英埃利地利其	諸國ノ他ノ	合計
		(一) 進水セル噸數						
一ヶ月平均								
一九一三年……	一、六六六	四、二二〇	一、四四四	二、四二二	二、六六六、六六六	二、四六六	二、六二二	四二、六六六、六六六
一九一四年……	九、六六六	四、六六六	一、四六六	二、六六六、六六六	二、六六六、六六六	一、六六六	二、〇一二	四二、六六六、六六六
一九一五年……	九、四二二	六、一四四	一、六六六	二、六六六			一、二六六	一四、六六六、六六六
一九一六年……	二、四〇六	二、六六六	二、二二二	二、六六六			一、一六六	一四〇、六六六、六六六
一九一七年……	二、二二二	一、四四四	二、二二二	二、六六六			二、二二二	二、二二二、二二二
一九一八年……	二、六六六	二、二二二	二、二二二	二、六六六			二、二二二	二、二二二、二二二
一九一九年……	二、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
一九二〇年……	二、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
一九二一年……	二、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
一九二二年……	二、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
建造中		(二) 建造中ノ噸數						
一九二二年十二月三十一日	二、二二二	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
一九二三年三月三十一日	二、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
六月三十日	二、二二二	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
九月三十日	二、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
十二月三十一日	二、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
一九二四年三月三十一日	二、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六
六月三十日	二、六六六	二、四四四	二、四四四	二、六六六			二、六六六	二、六六六、六六六

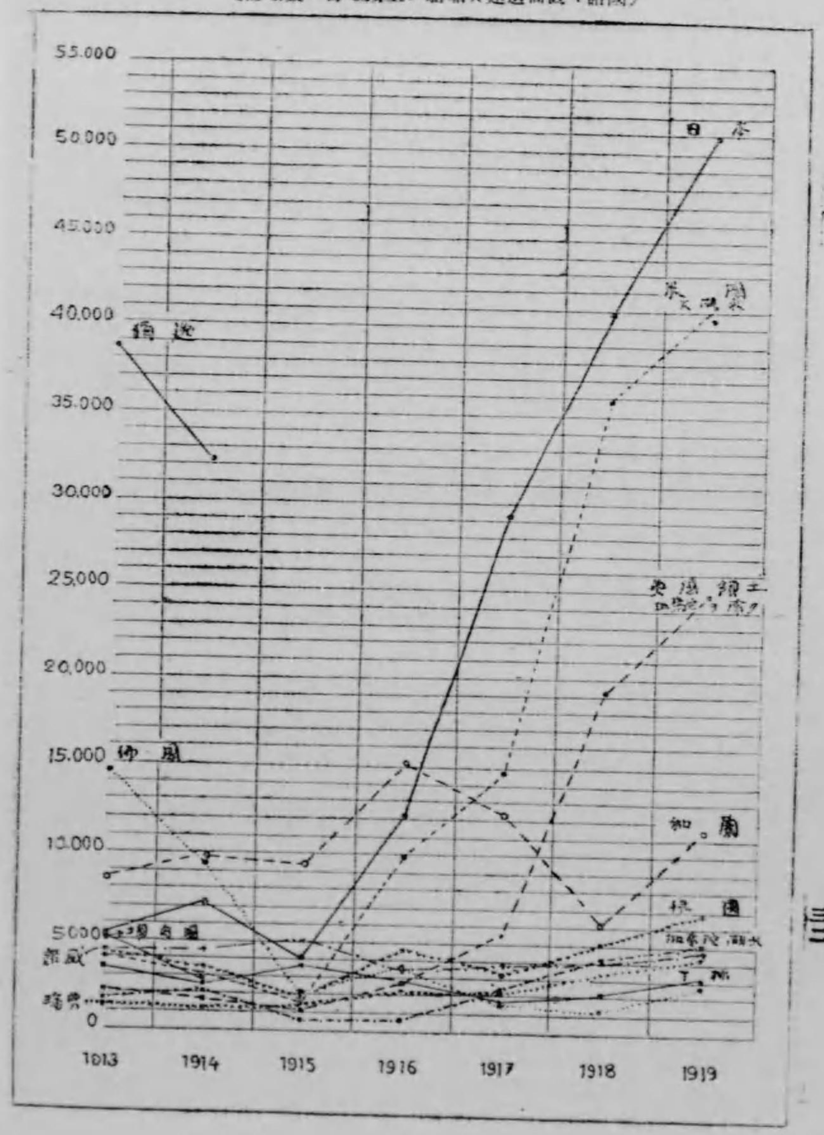
第十二圖

世界ノ造船——一九一八年乃至一九二〇年ニ於ケル建造中ノ噸數

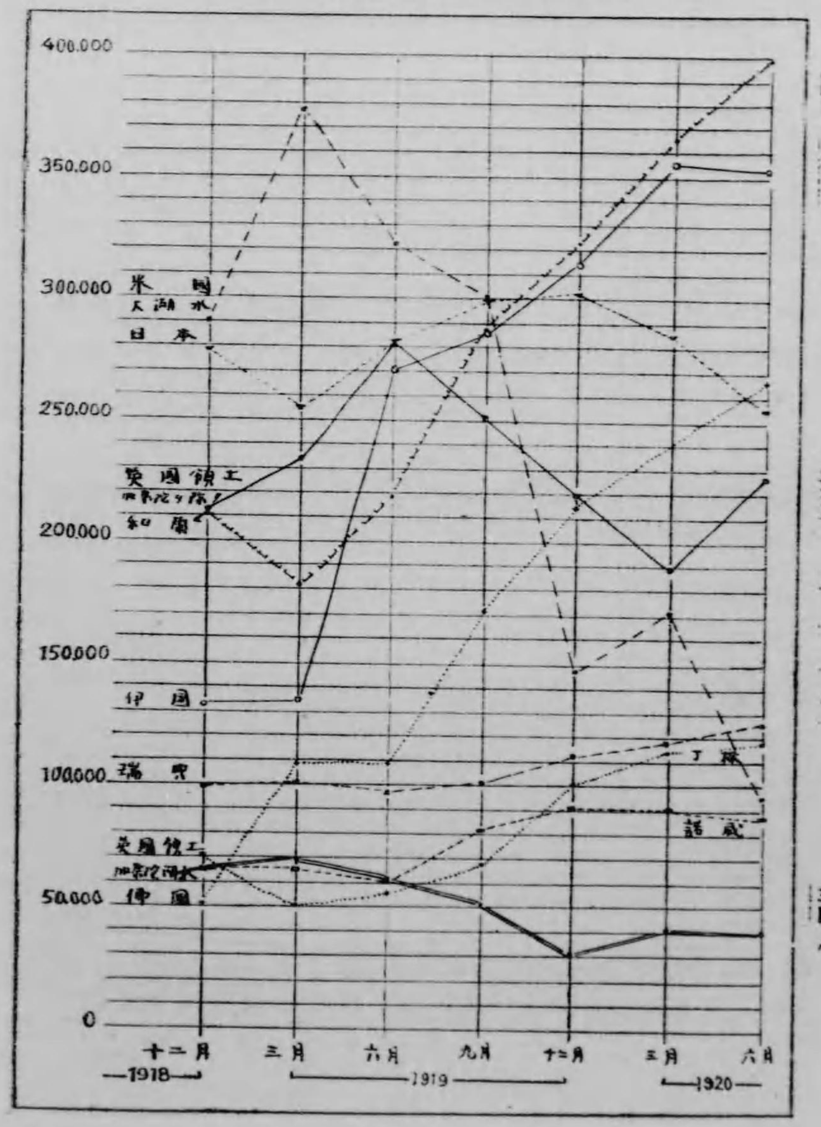


第十一圖

世界ノ造船——一九一三年乃至一九一九年ニ於テ進水シタル噸數
（總噸數一百噸以上ノ船舶ヲ建造為ス諸國）



第十三圖
世界ノ造船——一九一八年乃至一九二〇年ニ於ケル建造中ノ噸數
（諸國ニ高低ニ建造）（船舶ノ一百噸以上ノ噸數）



三、勞働者一人ノ生産

生産總額ト同時ニ勞働者一人ノ生産額ヲモ考察スルコト適當ナルヘシ

世界ニ於テ勞働ノ生産力カ一般ニ減少セリトノ事實ハ實際ニ存スル所ナリヤ此ノ點ハ諸使用者團體及政府ノ切ニ主張スル所ニシテ各種調査ノ題目トナレリ右調査ノ結果ニ付テハ如何ニシテ其ノ統計ノ作成アリタルヤヲ探究シ且數字ノ意味スル所ヲ明確ニシテ以テ周到ニ審査スルコト適當ナリトス

總體ノ平均數ヲ對照トスルトキハ之ニ包含セラルル各要素ニ付考慮スル所ナカラサルヘカラス鑛業ニ關シテハ坑夫全員ノ生産力ニ滿足スルコトナク更ニ坑夫中坑内勞働者ト地上勞働者トヲ區別スヘキモノナルカ如キナリ

加之比較カ何レノ點ニ於テモ瑕瑾ナキカ爲ニハ往々設備ニ付生シタル變動即機械ノ過度ノ磨損若ハ破壞ノ如キ又ハ反對ニ改良機械ノ利用ノ如キコトモ參酌スルコトヲ要トスヘシ

何レノ場合ニ於テモ勞働時間ニ付生シタル變動ハ之ヲ注意スルコトヲ要スヘク又勞働時間ニ付生シタル變化ノ過程ニ於テ確タル比較ヲ得ルカ爲ニハ毎日若ハ毎週ニ於ケル産額ト同時ニ毎時間ノ産額ヲモ掲ケサルヘカラス

從前ノ調査者ニ依リ集輯セラレタル材料カ右ノ測定ヲ爲スニ充分完全ナラサルトキハ事務局ハ其ノ直接調査ニ依リ補充的資料ヲ蒐集スヘキナリ

他ノ一切ノ事項ニ於ケルカ如ク此ノ場合ニ於テモ事務局ノ仕事ハ第一ニハ現存セル材料ヲ利用シ然ル後必要ノ場合ニ於テノミ缺陷ヲ充タスカ爲必要ナル企圖ニ出ツルニ在ルヘシ

吾人ハ玆ニ米國鑛山局統計官「アダムス」氏ノ作成シタル或數國ニ於ケル坑内作業ニ從事スル坑夫ノ平均產額ニ關スル統計表ヲ有ス

該統計表ハ最近數年間或數國ニ於テ產額ノ減退ノ生シタルコトヲ示シタリ雖然該表ハ尙右減退ノ普遍的ノモノニ非サルコトヲ示セリ

該表ハ他ノ點ニ於テモ尙興味アルナリ右ハ各國ノ間ニ異常ナル產額ノ差異アリ其ノ差異ハ少クトモ最大部分ハ事業ノ方法及設備ノ性質ノ相違ニ歸セサルコトヲ得サルヲ證明セリ北米合衆國ノ驚異スヘキ進步ハ此ノ點ニ付殆ト疑フノ餘地ヲ容サス斯ル立證ハ特ニ燃料ノ缺乏ニ苦シメル歐洲諸國ノ爲ニハ其ノ利益ト爲ルノ疑ナキ實際的敎訓ヲ齎スヘシ

吾人ハ以下右ノ數字表ヲ採リ且容易ニ其ノ概念ヲ得セシムル爲次ノ二ノ表圖ニ其ノ材料ヲ描出ス。

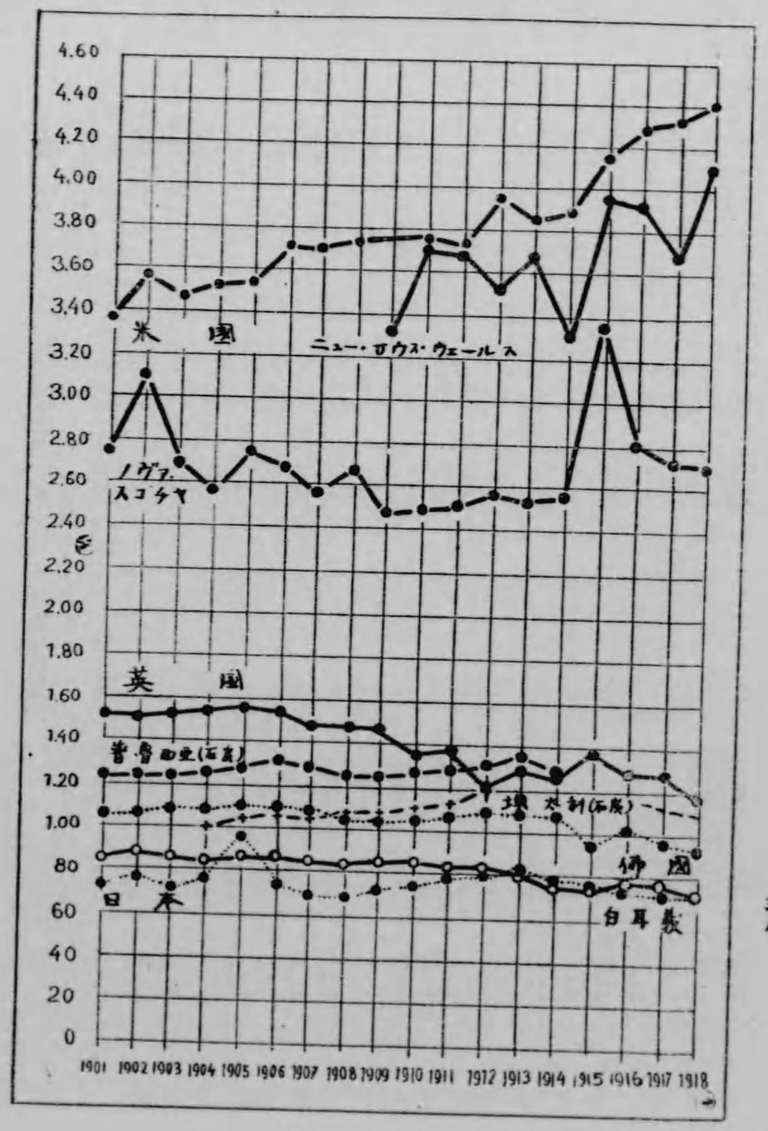
第六表　坑内勞働者一人一日ノ石炭產出額

（單位ハ二千封度噸）

年次	米國	ニューサウス、ウエールス	ノヴァ、スコチヤ	英國	普魯西	佛國	墺太利	白耳義	日本
一九〇一年…	三、四四	—	二、七四	一、五	一、三	一、〇五	—	〇、八四	〇、七三
一九〇二年…	三、五五	—	三、〇九	一、四九	一、三	一、〇五	—	〇、八七	〇、七六
一九〇三年…	三、四六	—	二、六九	一、五二	一、二三	一、〇八	—	〇、八五	〇、七一
一九〇四年…	三、五二	—	二、九八	一、五三	一、二四	一、〇七	一、〇〇	〇、八三	〇、七五
一九〇五年…	三、五六	—	三、七六	一、五五	一、二八	一、一〇	一、〇四	〇、八五	〇、九四
一九〇六年…	三、七〇	—	二、六八	一、五三	一、三一	一、〇九	一、〇七	〇、八五	〇、七四
一九〇七年…	三、六九	—	二、五六	一、四五	一、二八	一、〇七	一、〇六	〇、八三	〇、六九
一九〇八年…	三、七二	—	二、六六	一、四三	一、二四	一、〇四	一、〇八	〇、八二	〇、六九
一九〇九年…	—	三、三	二、四五	一、四二	一、二四	一、〇四	一、〇八	〇、八三	〇、七二
一九一〇年…	三、七八	三、七〇	二、四六	一、四五	一、二六	一、〇四	一、〇九	〇、八四	〇、七三
一九一一年…	三、七二	三、六九	二、四八	一、三六	一、二九	一、〇六	一、一三	〇、八二	〇、七七
一九一二年…	三、九五	三、五〇	二、五六	一、三一	一、二〇	一、〇八	一、一一	〇、八二	〇、八〇
一九一三年…	三、八五	三、六三	二、五三	一、二八	一、二三	一、〇八	—	〇、八〇	〇、八三
一九一四年…	三、八八	三、二九	二、五四	一、二六	一、二七	一、〇七	—	〇、七六	〇、七九
一九一五年…	四、一四	三、九五	三、三五	一、三六	〇、九四	—	—	〇、七五	〇、七六
一九一六年…	四、二四	三、八九	二、八〇	一、三八	一、〇一	—	—	〇、七五	〇、七六
一九一七年…	四、二七	三、六六	二、七二	一、二六	〇、九六	—	—	〇、七三	〇、七三
一九一八年…	四、四〇	四、〇七	二、五〇	一、二九	〇、九一	—	—	〇、七二	—
平均…	三、八一	三、六七	二、六八	一、三六	一、〇四	一、〇八	—	〇、八一	〇、七六

第十四圖

坑內勞働者一人一日ノ石炭產出額（單位ハ噸）



第七表　坑內勞働者一人一年ノ石炭產出額

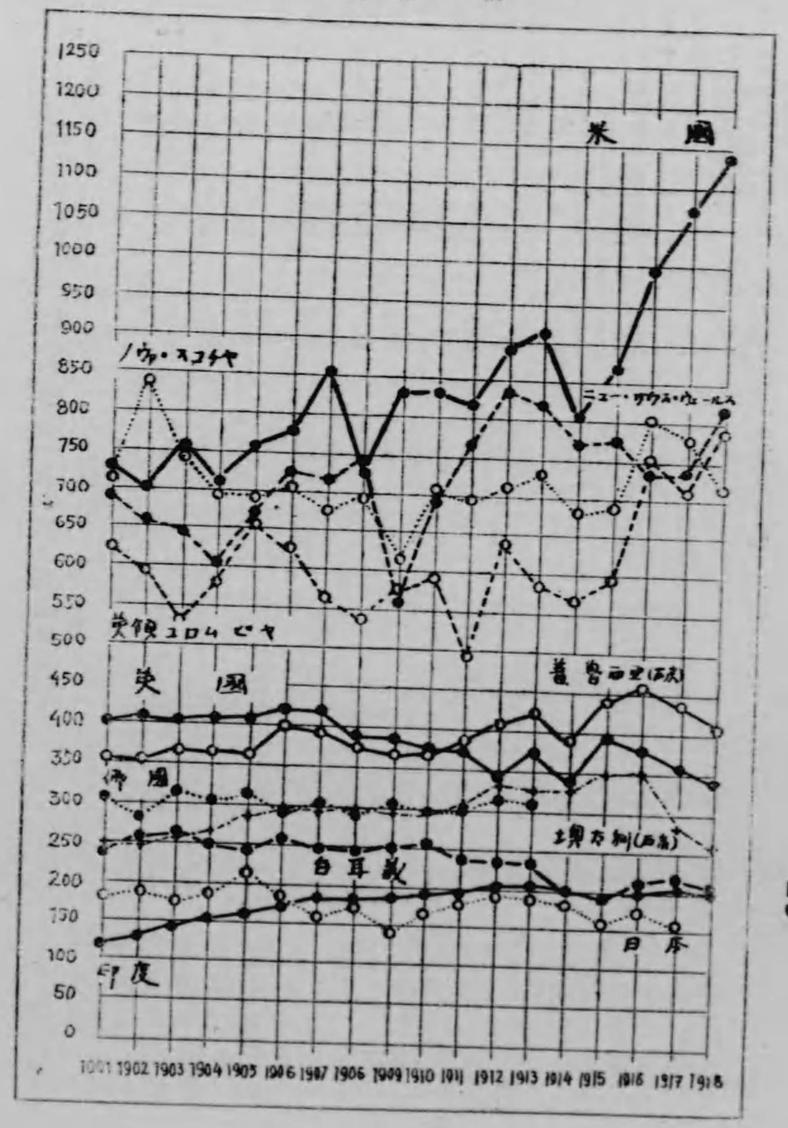
（單位ハ二千封度噸）（註一）

年次	米國	ニュウ、サウス、ウエールス	ノヴア、スコチヤ	英領コロムビヤ	英國	普魯西	佛國	墺太利	白耳義	日本	印度
一九〇一年…	七、二九	六、八九	七、一九	六、二三	四、〇〇	三、三七	三、〇四	二、三〇	二、四八	一、九六	一、三三
一九〇二年…	六、九九	六、三六	八、三七	五、九三	四、〇三	三、三二	二、八八	二、四八	二、三六	一、八一	一、二六
一九〇三年…	七、六〇	六、四八	七、四八	五、二九	四、〇三	三、六八	三、一八	二、三七	二、三七	一、七五	一、四四
一九〇四年…	七、一一	六、〇六	六、九六	五、七六	四、〇四	三、六六	三、〇六	二、六七	二、三〇	一、九九	一、三二
一九〇五年…	七、三五	六、七一	六、九三	六、四四	四、〇五	三、六五	三、一三	二、八五	二、四六	二、一三	一、六一
一九〇六年…	七、七四	七、二六	七、〇六	六、二三	四、一九	四、〇〇	二、九一	二、八八	二、三四	一、九九	一、六六
一九〇七年…	八、三二	七、一九	六、七五	六、六六	四、一七	三、九二	三、〇四	二、九五	二、四九	一、九八	一、四九
一九〇八年…	七、三五	七、四〇	六、九五	五、三三	三、八八	三、八〇	二、九一	二、九八	二、四六	一、七二	一、七二
一九〇九年…	八、〇九	五、五七	六、一五	五、七〇	三、八一	三、六一	二、八五	二、八五	二、三一	一、四五	一、八一
一九〇九年…	八、一九	六、八四	七、〇八	五、九六	三、六七	三、六七	二、九六	二、九五	二、三四	一、六六	一、六六
一九一〇年…	八、三二	六、八四	七、〇八	五、九九	三、八一	三、八〇	二、九五	二、〇〇	二、三五	一、八八	一、六六
一九一一年…	八、一九	七、六三	六、九八	四、九四	三、八一	三、〇〇	二、四四	二、〇〇	二、四四	一、七八	一、六六
一九一二年…	八、八九	七、一七	七、一七	六、四二	三、七一	三、一二	二、四〇	二、九五	二、四〇	一、八九	一、四〇
一九一三年…	九、一六	八、三四	七、二九	五、八二	三、七一	三、一二	二、三八	二、三八	二、四八	一、八二	一、四〇
一九一四年…	八、〇五	八、二〇	七、七〇	五、九九	三、四一	三、八五	二、三八	二、〇〇	二、〇〇	一、九九	二、〇〇
一九一五年…	八、六七	七、七五	六、八〇	五、九六	三、四四	三、四〇	二、〇〇	二、〇〇	一、八二	一、九六	一、九二
一九一六年…	九、九八	七、二七	八、一〇	七、五四	四、三九	三、七七	二、四一	二、一一	二、一一	一、九〇	二、〇〇
一九一七年…	一〇、七一	七、二八	七、七八	七、一五	四、三九	三、三七	二、七八	二、七八	二、四八	一、三五	二、〇四
一九一八年…	一一、三四	八、一四	七、一八	七、九〇	四、〇九	三、三七	二、三九	二、三九	二、三六	一、四四	二、〇三
平均…	八、四三	七、一八	七、一五	六、一一	三、八三	三、九二	二、八六	二、三六	一、九四	一、九八	一、九八

註一、計算ハ通例直接取調ノ上官憲ノ報告ヨリ取リタル材料ニ基キタルモノナレトモ中間的資料ニ依リタルモノ五六アリ當該年ニ對スル材料ヲ得ル能ハサリシモノハ餘白トナシ置キタリ

第十五圖

坑內勞働者一人一年ノ石炭產出額
（單位ハ噸）



四、需要ノ變動

生產上ニ及ボシ之ニ伴フテ供給上ニ生シタル變化ハ實ニ現在ノ經濟的不安ノ根本的事實ヲ形成スルモノタリ雖然需要上生セル變化ヲ考慮スルニナクシテハ右不安ノ原因中或者ヲ閑却スルコトト爲ルヘシ

加之供給ト需要トハ根本的ニ相互相關セルモノニシテ互ニ支配セラルル所ノモノタリ生產減少ノ經濟上ノ影響ハ右減少ヲ消費的需要ト比較スルニ非サレハ之ヲ理解スルコトヲ得ス

生產ハ減少セリ雖然消費的需要ハ同シク減少シタリヤ又同一ノ比例ニ於テ減少セリヤ

戰爭ニ依リ失ハレタル者ノ考慮ニ加ヘラルモノナルコトハ言ヲ俟タス其ノ亡失ハ需要上對當ノ減少ヲ來セリ是看過スルコトヲ得サル事實ナリトス

雖然他方戰爭ハ新ナル需要ヲ生セシメタリ卽戰爭ハ人民ノ多數階級ニ新ナル習慣ヲ齎セリ而シテ調査ニ於テハ一切ノ方法ニ依リ「生活程度」ニ付生シタル諸變遷ヲ明カニシ且其ノ程度ヲ測ルニ努メサルヘカラス殊ニ生存上特ニ重要ナル各種物資ノ各人ノ平均消費高ヲ明確ニスルノ必要アリ此ノ點ニ付社會各部ノ需要上諸般ノ出來事カ如何ナル程度ニ於テ影響アルカヲ明白ニスルカ爲ニハ能フ限リノ一切ノ方法ニ依リ右各部別々ニ例ヘハ都會人民ト農村人民トヲ區別シテ考察スルコト必要ナルヘシ

五、物價調査

多數ノ國ニ於テハ統計局—全國統計局及地方統計局—ハ經濟生活上最重要ナル生産物ノ價格ニ關スル材料ヲ集輯シ數年間ニ於ケル生活費ノ變動ヲ辿ラシムル物價指數ヲ公刊セリ

サレハ國際勞働事務局ハ右ニ付テハ單ニ現存ノ統計ヲ利用スレハ可ナリ

雖然各國生活費ノ物價ノ指數ニ關シテハ其ノ比較上ノ價値ニ付嚴重ナル批判ヲ爲ササルヘカラス此ノ點ハ各國ニ於ケル統計ノ統一問題ナル國際的比較ニ鞏固ナル基礎ヲ與フルカ爲ノ方法上ノ重要問題ト關連ス吾人ハ右調査カ爾ク永ク期待セラレタル決定ニ付其ノ必要ヲ明白ナラシムルコトニ依リ寄與スル所アランコト希望ニ禁ヘス

物價ニ關スル統計研究カ能ク其ノ利益アルカ爲ニハ曩ニ述ヘタル生産及需要ノ二要素ニ付行ハルヘキ研究ト嚴ニ竝行スルコトヲ必要トス

右竝行的研究ニ於テハ對當セル而モ或點ニハ生産上及價格上變化スル諸要素ヲ考察スルコトヲ適當トセン

或種ノ生産物ニ付テハ其ノ生産及分配ノ各段階ニ亘リ生スル物價ノ變動ヲ特ニ考究スヘク右ノ分配

ハ或一國ヨリシテ更ニ他ノ諸國ニ及ヒ順次ニ考察セラルヘキモノナリトス

人類需要ノ充足ヲ最良ノ方法ニ依リ確保センコトヲ考究スルニ當リテハ經濟上同一程度ニ在ル商工業者ノ各階級ノ逐次向上スルノ重要ナル事實ヲ知ルコト有益ナリトス

吾人ハ幾多ノ統計局カ生活費ニ關スル材料ヲ公刊セルコトヲ述ヘタリ吾人ハ以下或諸國ニ於ケル最近數年間ノ生活費ノ騰貴ノ趨勢ヲ辿ルコトヲ得セシムル數字表ヲ掲ケ且其ノ利用ニ便スルカ爲同時ニ之ヲ圖表ニ描出作成セリ

吾人ハ既述ノ理由ニ依リ必要ト認メラルル留保ノ下ニノミ右ノ數字ヲ掲記スルモノナリトス

第八表　食料品小賣物價指數表（各國ニ於ケル官廳統計ニ基ク）

何レモ問題ノ國ノ通貨ニ於ケル價格ヲ示ス

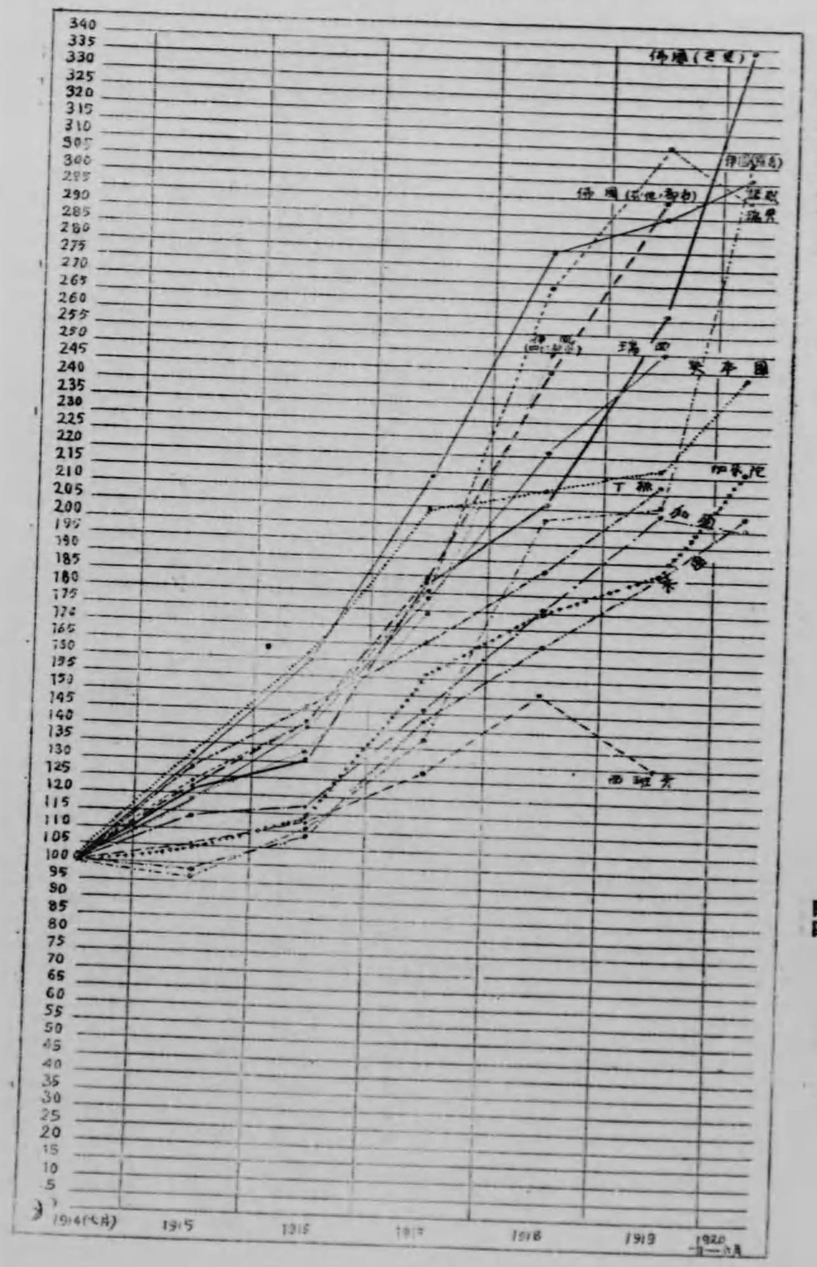
年次	諾威	瑞典	丁抹	和蘭	白耳義	佛國（里巴）	佛國ノ都市（甘）	英國（市本部）	瑞西國	伊國（羅馬）	伊國ノ四都市	西班牙	米國（ト）	加奈陀	南阿	印度（タタカルカ）	漂洲	ユニオンジャック
一九一四年七月	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇（ロ）一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇（イ）一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇（ニ）一〇〇	一〇〇	一〇〇（ヘ）一〇〇	一〇〇（ホ）一〇〇	一〇〇	一〇〇（ロ）一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一五年七月	一一四	一一四	一一四	一一七	一一一	一一一	一一一（イ）一一一	一一一	一一四	一一一	一一四	一一五（ヘ）一一五	一一四（ホ）一一四	一一四	一一四	一一四	一一三	一一九
一九一六年七月	一一六（八）一一一	一一四	一一八	一一四	一一八	一一三	一一八（イ）一一八	一一七	一一七	一一七	一一四	一一七（ヘ）一一七	一一七（ホ）一一七	一一七	一一七	一一六	一一七	一一九
一九一七年七月	一二八	一二八	一二八	一二四	一二四	一二四	一二四（イ）一二四	一二四	一二四	一二四	一二四	一二四（ヘ）一二四	一二四（ホ）一二四	一二四	一二四	一二四	一二四	一二四
一九一八年七月	一二九	一二八	一二八	一二七	一二七	一二七	一二七（イ）一二七	一二七	一二七	一二七	一二七	一二七（ヘ）一二七	一二七（ホ）一二七	一二七	一二七	一二七	一二七	一二七
一九一九年七月	一二九	一二九	一二八	一二八	一二八	一二八	一二八（イ）一二八	一二八	一二八	一二八	一二八	一二八（ヘ）一二八	一二八（ホ）一二八	一二八	一二八	一二八	一二八	一二八
一九二〇年一月	二九五	二九八	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
二月	二九四	二九八	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
三月	二九八	二九一	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
四月	二九九	二九一	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
六月	二九九	二九一	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
一九一九年七月	二七九	二九八	一八九	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
二月	二七八	二九一	一八九	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
三月	二七八	二九一	一八九	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
四月	二七一	二九一	一八九	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
五月	二七一	二九一	一八九	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
六月	二七一	二九一	一八九	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
七月	二八九	三〇七	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
八月	二八一	三〇九	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
九月	二九一	三〇九	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
十月	二九一	三〇七	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
十二月	二九九	三〇七	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
一九二〇年一月	二九八	三〇九	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
二月	二九四	三〇九	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
三月	二九八	三〇九	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
四月	二九八	三〇九	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇
六月	二九八	三〇九	二一三	一八六	一九九	二四八	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇（ヘ）二一〇	二一〇（ホ）二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇

（イ）七月乃至九月　（ロ）一月乃至六月　（ハ）八月　（ニ）一九一四年平均　（ホ）月末　（ヘ）六月　（ト）毎月十五日

（三）四月乃至九月

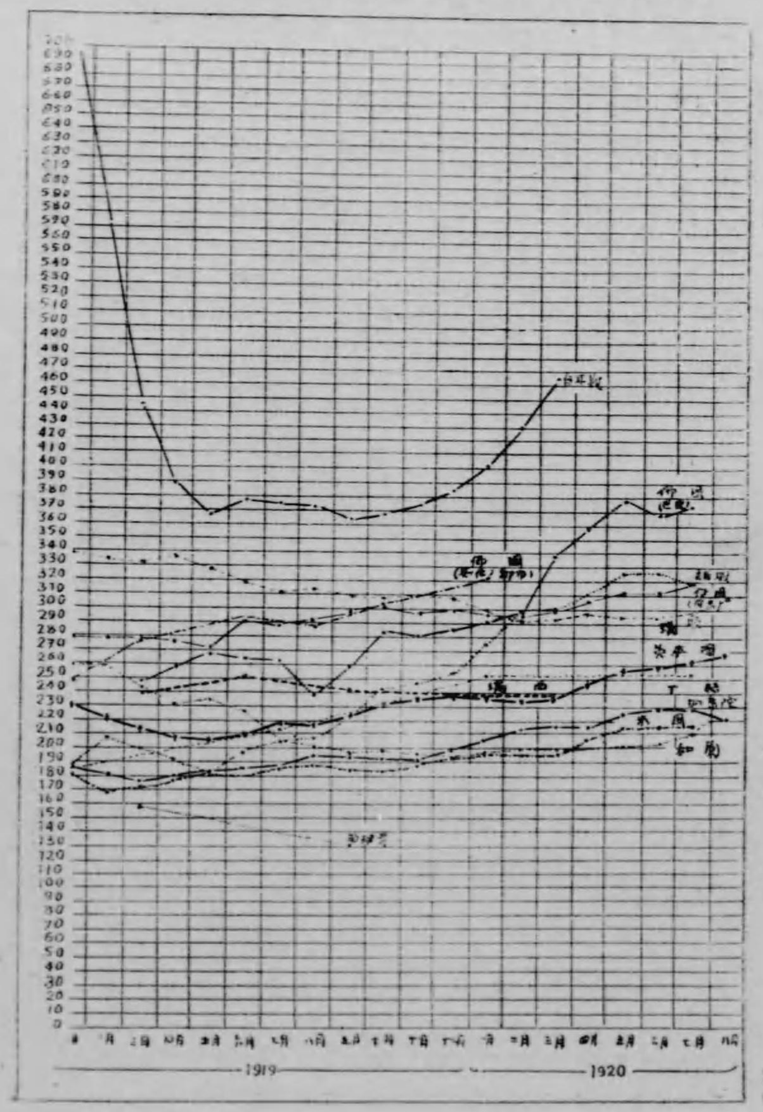
第十六圖

一九一四年乃至一九二〇年ニ於ケル食料品小賣毎年物價指數



第十七圖

一九一九年一月乃至一九二〇年八月ニ於ケル食料品小賣毎月物價指數



第二編 原因

事實ヲ調査スルハ吾人ノ第一ノ任務ナルヘク之ヲ說明スルハ第二位ノモノナルヘシ最反對ヲ招來スルハ說明ニ在リ吾人ハ吾人ノ採用スル方法ノ正確ナルコトニ依リ反對ヲ防壓スルコトヲ期スヘシ吾人ノ調査計畫中ニ現在ノ不安ニ直接關係アリト認メラルル一切ノ事實ヲ揭ケタルハ實ニ現在ノ不安ノ何レノ働因ヲモ之ヲ閑却セサルカ爲ニシテ又某々事實ノ重要ナルコトヲ覺知セサリシトノ誹謗ヲ避クルカ爲ナリトス各々ノ作用ヲ明ニシ又其ノ或者カ實際上何等ノ作用ナキカヲ示スコトモ亦調査ノ範圍ニ屬スヘシ實ニ吾人ノ計畫中ニハ看過スルヲ正當ナリトシタルヘキ原因ヲモ加ヘタルモノアルナリ

一、原料問題

研究スヘキ數多ノ働因中ニハ敢テ原料及燃料ノ缺乏ヲ擧クルノ必要ヲ爭フモノナカルヘシ此點ニ關スル工業家ノ不平ハ屢々議會ノ演壇ニ現ハレタル所ニシテ右ノ事實ハ一般ニ顯著ナルモノナリトス

一例ヲ擧ケンカ最近白國ニ於テ停業中ノ企業カ其ノ活動ヲ再開スルヲ阻碍シタル諸原因ノ調査ヲ目的トスル工業調査行ハレタルカ該調査ハ二十人以上勞働者ヲ使用セル二八〇四ノ企業ニ付行ハレタル

處三〇一ノ企業ニ付テハ停業ノ原因ハ原料ノ缺乏タリ九一ニ付テハ石炭ノ缺乏タリ三〇ニ付テハ原料及石炭ノ缺乏タリ換言セハ右企業ノ一割五分ノモノニ付テハ停止ノ原因ハ原料若ハ石炭又ハ右兩物ノ缺乏ニ存シタリ(註、一)

(註一) 白國工業、勞働及供給省發行一九二〇年ノ月ニ於ケル白國工業狀態七〇七一頁後掲附錄第六ニ右ノ表ヲ再錄セリ

各國ニ付又各種工業ニ付原料ノ缺乏カ經濟的不安ニ及ホシタル作用ヲ明ニスルハ興味アルコトナルヘシ

上ニ引用シタル白國ノ調査ハ停業ニ至リタル企業ヲ業體(鑛山業、石切業、金屬製造業、硝子製造業、化學工業、食料品業、木材及家具製造業、皮革製造業、煙草製造業、製紙業、印刷工業、運送業)ニ依リ分類セリ同一ノ方法ニシテ多數諸國ニ適用セラルレハ極メテ有益ナル結果ヲ齎スヘシ

世界ニ於ケル石炭ノ不足ハ國際財政會議最近ノ冊子ヨリ引用シタル次表ニ依リテ明カナリトス

第九表　一九一三年—一九一九年ニ於ケル主要國ノ石炭產出總額
(單位ハ一千米突噸)

	一九一三年	一九一九年	一九一九年ノ生產額ノ一九一三年ニ對スル百分比
歐洲……	五八九、九二四	四一七、八二四	七〇、八
米國及日本……	五三〇、二三六	四一七、八二四	九六、〇
合計及平均……	一、二二〇、一六〇	九二七、〇三一	八二、七

原料及燃料ノ缺乏ノ事實ヨリ推シテ各國ニ於テ又各種ノ工業ニ付之カ原因ニ及フノ要アルヘシ

該調査ノ過程ニ於テハ戰爭ニ依ル物資破壞ノ問題ニ逢着スヘク能フ限リノ方法ヲ以テ右ノ破壞ヲ數字ニ見積ランコトヲ努ムヘシ

在貨ノ問題ニモ均シク逢着スヘク而シテ一切ノ手近ナル情報材料ニ依リ戰前ニ存在シタルヘキ主要物資ノ在貨ニ關スル合理的評價ニ到着センコトヲ企ツヘシ

在貨問題ハ確ニ世界經濟ノ運用ニ關スル諸問題中最重要ナルモノノ一ナル處其ノ作用ハ屢々看過セラレタルカ吾人ノ提言スル調査カ之ヲ明白ニスヘキハ疑ヲ容レス

戰爭ノ莫大ナル消費ニ基ク在貨ノ絕滅ニ因リ其ノ緩徐困難ナル再造問題ヲ研究スヘキ處需要ノ熾盛ナル要求ハ屢々右ノ再造事業ヲ阻碍セリ世界ハ其ノ日其ノ日ニ生ケリ而シテ是疑モナク現時經濟ノ不安ナル狀態ヲ持續スルニ最關係アル原因ノ一ナリトス

生產者ノ或部類ノ者ハ右物資缺乏ニ依リテ特ニ利益ヲ獲得スルコトナキヤ是調査ヲ要スル點ナリトス

戰前既ニ屢々合同及聯合ノ政策カ生產ノ人工的制限ニ依リ價格ノ法外ナル上騰ト利得トヲ得セシメタリト謂ハレタルコトアリシナリ

佛國ノ代議士ニシテ技師タル「マルグィーヌ」氏ハ金屬ノ生産ニ關スル多ノ事實ヲ議會ニ於テ演述シ深キ印象ヲ之ニ與ヘタリ(註、二)

(註二)　代議院一九一三年議事一三二〇頁

聯合及合同ノ政策カ戰時中如何ナル狀ニ在リシヤ戰後如何ニ爲レリヤ該政策ハ所謂『經濟上ノ「マルサス」主義』ニ依リ均シク影響セラレタリヤ將又新ナル方面ニ入リシヤ

生産ノ一切ノ部類ノモノカ其ノ製造ノ種々ナル段階ニ於テ原料及燃料ノ初一歩ノ缺乏ニ依リ累セラルル當時ニ在リテハ果シテ右當面ノ世界的利害アル生産問題カ現下ノ經濟上可能トスル限度ニ發達セリヤ又ハ反對ニ或個人的ノ利益カ右ノ發達ヲ阻碍セリヤヲ知ルノ必要アルナリ

右ニ連繫セル一問題ハ一九〇四年乃至一九一三年及戰時中並現在ノ三期間ニ於ケル世界ノ物資生産ノ統計問題ナリ如斯統計ハ自ラ其ノ生産國ト右各國ノ生産數量トヲ分明ナラシムヘシ右統計ハ戰前ニ在リテハ公權力ノ干渉外ニ在リテ商業取引ノ自然ノ運用ニ依リテ行ハレタリ而シテ爾後他ノ形式ニ從ヒテ行ハレ又國家其ノ者ニ依リ屢々嚴重ニ規律セラレタル分配統計ト對照セラルヘシ

各國及各生産物ニ付右三時期ニ於テ採ラレタル分配ノ方法ヲ研究スルノ要アルヘシ

石炭ノ缺乏ハ水力ヲ能フ限リ利用スルノ注意ヲ自然ニ喚起スルモノニシテ世界ニ於ケル水力ノ分布如何又如何ナル範圍迄有效ニ使用セラルルカヲ調査スルコトヲ要スヘシ之ヲ濫用セサルノ見地ヨリシテ公ノ管理、私的團體ニ依ル管理及官民合同企業等例ヘハ瑞西及獨逸ノ如キ或諸國ニ於テ今日漸次汎ク行ハルル三箇ノ經營方法ニ付研究セサルヘカラス

二、運送ノ澁滯

物資ノ缺乏ト運送ノ澁滯トノ間ニハ密接ナル關係アリ運送ノ澁滯ハ屢々物資ノ配給ヲ阻碍シ而シテ物資――殊ニ燃料ノ缺乏セル場合ニ於テ――ノ缺乏ハ屢々運送ノ復舊ヲ困難ナラシメタリ

商工業者ノ當局官憲ニ愁フル所ニ依レハ運送ノ澁滯ニ關スル苦情ハ常ニ原料及石炭ノ不足ニ關スル苦情ト相交錯セリ

例ヘハ佛國商務大臣カ諸企業者ニ對シ其ノ輸出ノ發展ヲ求メタルニ對シ「ナンシー」商業會議所ハ本年二月十五日附次ニ摘錄スル書翰ヲ以テ答ヘタルコトアリ

『生產シ輸送スルコトヲ得ハ輸出ノ增進ハ極メテ容易ニ有之候蓋シ輸出センカ爲ニハ先ツ製造スルノ要有之而シテ貨物ノ製造アルトキハ之ヲ搬出シ得ルコト必要ナレハニ有之候今ヤ右ハ當地方ニ於テ吾人ノ工業ノ發展ヲ執拗ニ阻碍スル最大ナル二原因ト相成候佛國ノ他ノ地方ニ於テモ又然ルヘシト存候

『現在當管內ノ主要工業タル金屬工業ノ事例ヲ引用致候得者本縣南部地方ノ諸工場ハ戰爭ニ依リ殆ト又ハ何ノ打擊ヲモ受ケサルモノニシテ戰前ノ生產ヲ回復スル狀態ニ在ルモノニ候モ辛ク平常ノ能力ノ三分ノ一ヲ進メ居ルニ過キサルコトヲ申述度候該工業ハ石炭及骸炭ノ缺乏ニ依リ如斯少額ニシテ而モ甚シク高價ナル仕事ヲ爲スニ制限セラレ居ルモノニ有之加之其ノ單ニ內國消費ノ爲ニ製造スル貨物モ購買者ノ强キ要求アルモ運送ノ許サレスシテ發送スルヲ得サルコトニ有之候小生ハ幾千噸ノ鋼鐵板カ顧客ニ送付セラルルコトヲ得スシテ放置セラレ居候カ如キ工場ヲ擧示スルコトヲ得申候

『該狀態ハ「ロレーヌ」（「シォンヴィユ」河流域）縣ノ大金屬工場ニ於テモ同樣ニ有之候右ノ諸工場ハ戰前二百萬噸以上ノ鋼鐵ヲ生產セルモ今日ハ辛ク其ノ三分ノ一ヲ製造致居候

『然ルニ若シ右ノ諸工場ニシテ燃料及輸送方法ヲ具有シ居リ候ハンカ戰前ノ生產ヲ再興シ且單ニ國內市場ノ需要ヲ滿足セシムルニ止マラス尙大ニ昔日ノ輸出貿易ヲ回復シ得ヘキモノニ有之候

『本縣ノ北方「ロングゥイ」及「ブリー」ノ兩河流域ノ金屬工場ニ關シテハ其ノ荒廢ニ歸シ又大部分獨逸人ノ爲ニ破壞セラレタルコトハ御承知ノ如クニ候モ其ノ再建ハ相當迅速ニ行ハレ居リ既ニ「ロングゥイ」流域ニ於テ六箇ノ鎔鑛爐及鋼鐵業ノ活動ノ再開ヲ見ルヲ得申候爾餘ノ復舊ニ付テモ若シ燃料ト輸送ノ方法トノ缺陷ナクハ之ヲ進行シ得ヘク候

『現在ノ狀態ニ於テモ「ムユウルト」及「モーゼル」並從來ノ「ロレーヌ」地方ノ金屬工業ハ若シ其ノ缺如セル燃料及運送方法ノ二要件ヲ充分ニスルコトヲ得候ハハ啻ニ其ノ平常供給スヘキ佛國內ノ消

費ノ一部ヲ滿足セシムルノミナラス尙鑄鐵及鋼鐵ノ著大ナル噸量ヲ輸出スルコトヲ得ルノ狀態ニ有之候政府カ充分ノ努力ヲ致サルヘキモノハ右ノ要件ニ付テナリト愚考致候』

右ノ書翰アリテ後少時一九二〇年三月十三日ノ「タン」紙ハ經濟事情ニ關スル諸記載事項中右ト類似ノ說ヲ揭ケタリ曰ク

『現時ノ運送ノ困難ハ東部地方ノ諸工場ニ付テハ其ノ鐵山ニ近ク建設セラレ居ルカ故ニ鐵鑛ノ供給ヲ阻碍スルコトナキモ「ピレネー」鑛石ヲ使用スル南部及南西部ノ工場ニ於テハ甚タ重大ナルモノアリ一日千八百噸ノ鑄鐵ヲ生產シ得ヘキ二十五箇ノ鎔鑛爐ノ現能力ニ於テ最近ニテハ十三ノミ僅ニ操業シ居レルナリ尙右ノ鎔鑛爐カ其ノ作業ヲ持續スルカ爲ニハ日々一千噸ノ鑛石ノ供給アルコトヲ必要トス然ルニ鐵道ハ一日五百噸ノ輸送ヨリ以上ノコトヲ考慮スル能ハサル旨ヲ宣言シ而シテ當事者ノ實際ニ受取ル量ハ右ノ數ヨリモ著シク以下ナルナリ』

同一號ニ於テ該紙ハ尙左ノ如ク記述セリ

『使用シ得ル一切ノ場所ハ製品――ソハ荷受人ノ氣長クモ待受ケ居レル――ニ依リテ塞カレタリ而シテ製鐵工場ノ作業ヲ阻碍スルモノハ他ノ理由ニハ非ス製鐵工場ハ既ニ其ノ生產品ヲ貯藏スルノ餘地ヲ存セサルカ故ニ驟テ停業ノ危險ヲ見ントセルナリ

『發荷ノ準備成リ而シテ二三箇月ノ製造額ニ對當スル在庫品ハ工場ニ堆積シ居レリ幸ニ其ノ減少スルコトト爲ルモソハ搬出方法ノ改善ニ依ルニ非スシテ單ニ生產ノ停止又ハ遲緩ノ結果ニ依ルモノナリトス』

如斯ニシテ燃料缺乏又ハ運送方法ノ缺陷ニ依リ企業者ハ其ノ生產ヲ減少シ或ハ之ヲ停止スルノ止ムナキ狀況ニ在ルナリ

此ノ狀況ハ多數ノ諸國ニ於テ或ハ總テノ國ヲ通シテ程度コソ異ナレ均シク見ル所ナリトス

白耳義ニ於テハ一九二〇年六月作成ノ統計ニ依レハ運送方法ノ缺陷ニヨリ操業ヲ短縮セル三千人以上（三・〇四二）ノ勞働者ヲ使用スル二十九企業アリ

吾人ハ國際財政會議刊行ノ「歐洲ニ放ケル運送狀態」ナル小冊子中ニ大戰ハ其ノ著シキ結果トシテ一切ノ交通方法ヲ破壞シタリトノ語ヲ見ルナリ本調査ニ於テハ各國ニ付運送ノ弛廢ノ重大ノ程度ヲ測定シ且之カ改善ノ步ヲ進メシムヘキ一切ノ材料ヲ蒐集調査スヘシ

右ニ付テハ一方國內運送ト國際運送ト他方國內運送中水上運送ト陸上運送トヲ區別シ國際運送中大陸運送ト海上運送トヲ區別スルヲ適當トスヘシ吾人ハ尙各國ニ付陸路ニ依ル運送及水路ニ依ル運送ノ發達ノ比較竝右相互間ニ存スル關係ヲ研究セントス

今日茲ニ之ヲ記スコトヲ得ルノ至幸ナルハ海上運送ノ著大ナル改善ノ事實ナリトス

造船業ノ甚大ナル活動ノ結果――右活動ハ本冊子ノ第四及第五表竝對當ノ圖表ニ於テ其ノ發展ノ跡ヲ追フコトヲ得――全世界ニ於テ現在利用シ得ル噸數ハ潛航艇戰ニ依ル損害ニ拘ラス今日ハ一九一四年六月當時ノ噸數ヲ一割方超過セルコトナリ全世界ノ汽船ノ噸數ハ一九一四年六月ニ於テハ四五・四〇四・〇〇〇噸ニシテ一九一九年六月ニ於テハ四七・八九七・〇〇〇噸タリ又一九二〇年六月ニ於テハ五三・九〇五・〇〇〇噸ニ達シ一九一四年ノ噸數ヨリ八・五〇一・〇〇〇噸ヲ增加セリ

三、設備ノ不完全

現在ノ生產上ニ不幸ナル影響ヲ與ヘ居レル第三ノ原因ハ設備ノ不完全ナルコトナリ

第一ニ或諸國ニ於テハ農業ハ之ヲ措クモ工場及鑛山ハ戰爭ニ依リ極メテ重大ナル打擊ヲ被リタリ一九二〇年六月白國ノ調査ニ擧ケラレタル二十人以上ノ勞働者ヲ使用セル二、八〇四箇ノ企業中其ノ設備カ侵入者ノ搬出シ破壞スル所トナリテ之ニ缺陷ヲ生シ爲ニ活動ノ再開ヲ停止セラレ居レルモノトシテ報セラレタルモノ正ニ九百其ノ使用現員一二三、七四七人（總數三二七、二七四ニ付）ナルコトヲ明ニセルモノアルハ特筆スヘキコトナリトス

若シ右ノ原因ヲ看過スルコトアランカ全ク現在ノ不安ノ重要ナル一要素ヲ否認スルコトトナランサレハ利用シ得ル一切ノ書類殊ニ賠償委員會ノ調査ニ依リ戰爭ノ荒廢ニ基ク經濟的損害ヲ明カニスルコトヲ努メサルヘカラス

第二ニ輓近數年間經濟事業上根本的效用アル設備ノ再造更新ハ殆ト全ク停止セラレタリシナリ世界ハ殘レル原料ニ依リテ生キタルカ如ク同シク殘レル設備ニ依リテ生キタリ世界ハ其ノ更新ヲ閑却シタルノミナラス其ノ保存ヲモ閑却セリ卽チ文字通リニ設備ノ衰滅ト謂フコトヲ得然レトモ一般ニ認メラ

ルル事象ニ對スル右ノ最初ノ印象ハ直接ニ且科學的ニ觀察セラレ得ル一切ノ現象ニ付明白ニセラルルコトヲ要求ス

經濟事業ノ各部門ニ依リ殊ニ各國ニ應シテ多クノ區別ヲ爲スヘキコト疑ヲ容レス右ノ區別ヲ設クルハ本調査ノ任スル所ナリトス

考察ノ第三點、當時ニ於テハ設備ノ不良ナル事業ハ競爭ノ法則ノ自然的作用ニ依リテ漸次ニ除カルルナリ然ルニ戰時中及戰後世界ノ之ニ依リテ生キタル人爲的狀態殊ニ貨物ノ常住ノ缺乏、市場ニ於ケル販賣者ノ優勢、物價ノ暴騰又最舊式ノ工業ノ生產物ト雖利益ヲ贏チテ販賣セラレ得タルコト等凡テ此等ノ事情ハ第三級ノ冗費ヲ要スル器械ヲ使用セル企業ヲシテ人爲的ナル生存ヲ保持セシメ又之ニ基キ勞働ノ生產力ノ正常ナル增加ヲ阻碍セシムルニ與テ力アルノ結果ヲ見タリ

如何ナル程度ニ於テ右原因ノ作用セルカヲ探究スルコト必要ナルヘシ尙玆ニ勿論之ヲ閑却シ得ヘシト認メ得サル一事象アリ

眞實確ニ反對ノ方向ニ作用セル他ノ要素アリ戰爭ハ一時ニ生產ノ增加ヲ助クル幾多新工場ノ設立及企業ノ集中ヲ誘發シ經濟的發達ノ遲緩ナリシ諸國及諸地方ニ於テ新式改良設備ヲ有セル戰時ノ大工業ノ急激ナル發展ヲ見タリ是極メテ重要ナル事實ニシテ確然吾人ノ調査ヲ要スルコトナリトス右ノ戰時大工業ヨリシテ平時大工業ノ發生ヲ希望セラレタルカ此ノ希望ハ實現セラレタリヤ如何ニシテ戰時設備ハ平時工業ニ轉用セラルルヤ斯ク良好ナル結果ヲ期待シタル企業ノ轉化ハ如何ナル價値アリ效果アリヤ如上數多ノ問題ハ直接吾人ノ調査項目ニ入ルモノタリ

更ニ他ノ問題アリ戰爭ニ依リ生シタル經濟關係ノ破裂ノ旦ヨリ且特ニ纂奪戰ノ永キ年月中交戰國又方竝中立國ニ於テ他國ノ工業ニ代ランカ爲ニ幾多ノ新工業建設セラレヾ〻右ノ建設ハ時代ノ必要又ハ經濟競爭ノ目的ニ基因スルモノナルモ而モ世界經濟ノ見地ヨリシテ其ノ結果カ常ニ有利ナルモノナリシヤハ一考ノ値アリ如上ノ工業ハ設備、物資及使用人ナル要素ニ付多ク其ノ代リテ取リタル他國工業ノ要素ニ劣レル人爲的工業ニ非サリシヤ戰前ニ於テハ世界經濟ノ方向ニ不斷ニ敏速ナル勢ヲ以テ進化シタルモノカ戰爭以來著シク國民經濟ノ方向ニ退歩シ而シテ國際的分業ノ退歩ハ必然產出額ノ減退ト爲レリ

四、爲替ノ不安

生産ニ關スル調査中爲替ノ問題ニ論及スルハ一見人ノ驚異スル所ナルヘシ雖然如何ニシテ二者ノ間ニ存スル密接ナル關係ヲ無視シ得ンヤ又如何ニシテ爲替ノ不安ハ生産ノ主要原因ナルコトヲ否認シ得ンヤ

種々ナル意味ニ於テ戰爭及其ノ經濟上ノ影響ニ依リ最深ク打擊ヲ受ケタル歐洲ノ諸國民カ漸クニシテ外ニ對シ其ノ復興ノ材料――例ヘハ荒廢地方復舊ノ資源、工業活動ノ再開ニ缺クヘカラサル機械將又設備ノ完全ニ殘存セル場合ニ於テモ作業ニ必要ナル物資ノ如キ――ヲ求ムルニ際シテ右諸國民カ遭遇シタル困難ノ主要原因ハ其ノ必要トシタル諸材料、原料又ハ機械ヲ得ルカ爲外國人ニ對シ該國民ノ供シ得ル支拂能力ノ低減下落シタルコトナリトス

他方戰爭ニ依リ富ヲ來シ又其ノ經濟組織ニ損害ナカリシ諸國ハ多量ノ生産ト多額ノ輸出トニ必要ナル一切ノ條件ヲ具有セルモ其ノ爲替相場ノ異常ニ高位ナルコトハ其ノ顧客タラントスル諸外國人ニ對シ支拂上極メテ困難ナル條件ヲ命スルカ故ニ急ニ停息ノ狀況ニ在リ

爲替ノ低落ハ一方ノ生産物ノ販賣ト他方ノ物資及機械ノ獲得トヲ不可能ナラシメ前者ノ生産竝後者ノ生産ヲ阻碍セリ

サレハ吾人ハ生産問題ノ核心ニ於テ爲替問題ニ觸レントス而モ調査ハ生産問題ニノミ限局セラルヘキニ非スシテ物價ノ問題ニモ均シク及フヘキモノナルコトヲ記憶セサルヘカラス而シテ他ニ爲替ヨリモ一層直接ニ又一層痛切ニ物價ニ影響スル働因ナリシナリ

右ノ相互關係ヲ示ス爲吾人ハ數多ノ國ニ付一九一三年ヨリ一九二〇年六月ニ至ル期間ニ於ケル物價竝爲替ニ關スル數字ヲ玆ニ比較セリ

爲替ニ付テハ「ジュネーヴ」取引所ニ掲示シタル相場ニ依レリ蓋シ瑞西國ノ「法」ハ右考察ノ期間中極メテ確實不動ノモノナリシモノナレハナリ

物價ニ付テハ吾人ハ獨逸ニ關スルモノヲ除クノ外最高經濟會議月報上ノ卸賣價格ノ數字ヲ採用セリ尤モ獨逸ニ付テハ右刊行物中何等採ルヘキ數字ヲ掲ケサルヲ以テ吾人ハ統計家「カルワー」ノ供給シタル平均小賣價格ヲ基礎トセサルヲ得サリシナリ

爲替及物價ノ指數ハ考察スル全期間ニ付次ノ表中ニ蒐集セリ

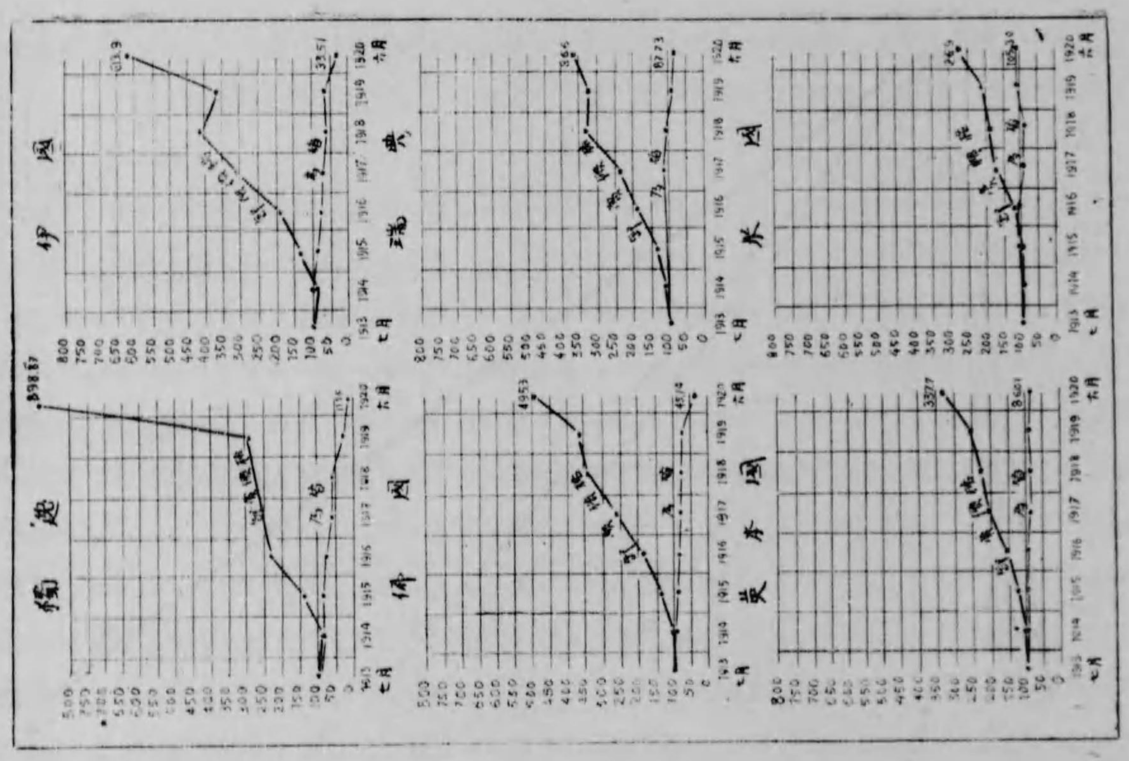
第十表　物價ト爲替相場トノ關係

年	獨逸 爲替(一)	獨逸 物價(二)	伊國 爲替(三)	伊國 物價(四)	英國 爲替(五)	英國 物價(六)	瑞典 爲替(七)	瑞典 物價(八)
一九一三年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四年	九七・四三	九九・八三	一〇〇・〇〇	一〇二・六〇	一〇〇・一〇	九九・六〇	一一六・六〇	一〇〇・〇〇
一九一五年	一四六・〇一	一〇六・四八	一〇〇・〇〇	一〇四・〇九	一三三・七〇	一三三・三〇	一四四・〇〇	一〇四・〇〇
一九一六年	一三九・三五	七四・五三	一〇〇・八六	一八九・六〇	一九一・七〇	一六〇・一〇	一八五・〇〇	一一六・〇〇
一九一七年	一六・四一	一一一・〇〇	一七六・〇〇	二三六・六〇	二〇〇・〇〇	二一〇・六〇	二四四・〇〇	一一一・一一
一九一八年	一九七・七七	一九六・〇〇	一九七・〇〇	二四〇・九〇	二四〇・一〇	二一三・六〇	三〇三・〇〇	一〇三・三〇
一九一九年	二三九・九一	二一四・〇〇	二一一・〇〇	二四四・〇〇	二六六・六〇	二三四・三〇	三四〇・〇〇	九六・一〇
一九二〇年(六月)	二九六・七七	二一六・六〇	二六六・〇〇	二四四・四〇	二六六・四〇	二六六・〇一	三六六・〇〇	一一六・六〇

右指數ハ更ニ次ノ二ノ圖表ニ描出セラルヘシ

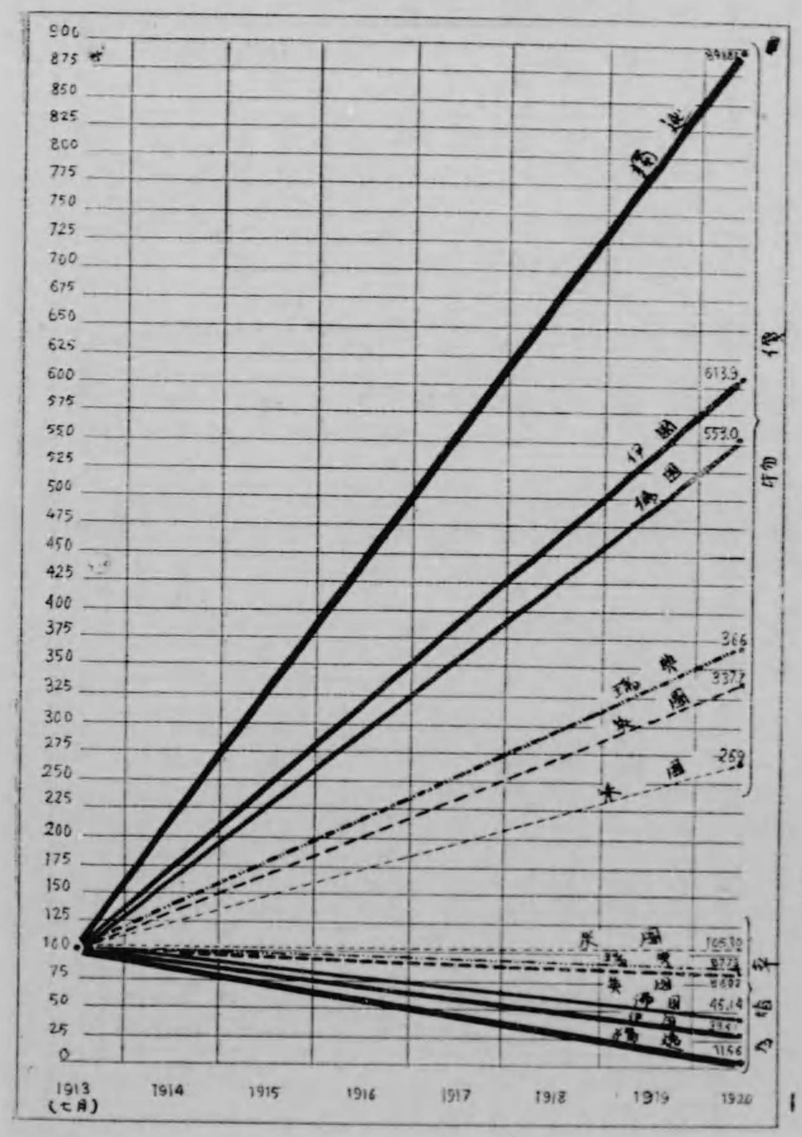
(一)「ベルリン」物價指數
(二)「ベッキイ」指數
(三)商務局物價指數
(四)「ストックホルム」物價指數
(五)五月ニ於ケル物價指數
(六)佛國一般統計物價指數
(七)勞働統計局物價指數
(八)北欧ノ物價指數ハ食料品ノ小賣價格ニ付計算セラレタルモノナリ

第十圖　一九一三年乃至一九二〇年ニ於ケル物價ト爲替相場トノ關係
縱軸ノ數字



第十九圖

(イ) 一九一三年乃至一九二〇年ニ於ケル物價ト爲替相場トノ關係
一九一三年及一九二〇年ニ對スル數字



右圖表中第一ノモノハ一九二〇年六月ニ至ル年々ノ變化ヲ辿ルコトヲ得シムルモノナリ

第二ノモノハ寧ロ圖解(スキーム)ノ性質ヲ有スルモノニシテ一九一三年乃至一九二〇年ノ一般ノ趨勢ヲ明カナラシムルモノナリトス

二者何レノ場合ニ於テモ物價ノ變動ハ爲替ノ變動ト相互密接ナル關係ニ在ルコトヲ明カニスルコトヲ得右ノ相互關係ハ統計家ノ汎ク用フル語ニ從ヘハ竝行ノ形ニ非サルモ相反對稱運動ノ關係ヲ呈ス爲替ノ最低落セル諸國ハ同時ニ物價ノ最騰貴セル國タリ爲替ノ最確實ナル國——北米合衆國——ハ又物價騰貴ノ最僅小ニ止マル國ナリ僅ニ瑞典及英帝國ニ關シ右ノ規則ニ對シ輕微ナル例外ヲ見ルコトヲ得ヘシ此等ノ二國ハ要スルニ物價ニ關シテモ亦爲替ニ關シテモ甚近接シ而シテ吾人カ指摘シタル相反關係ト言フカ如キ程度ニ相互ノ關係ナキモノタリ雖然吾人所證ノ全體ニ於テハ右ノ例外ハ人ヲシテ「例外ハ原則ヲ明確ニス」ナル古諺ヲ回想セシムル程度ノ輕微ノモノナリト思考セラル

右ノ例ニ依リ若シ爲替ノ如キ基礎的ナル經濟上ノ働因ヲ等閑ニ附スルニ於テハ如何ニ根本的事實ヲ誤解シ又事物ノ或連鎖ヲ誤解スルノ危險アルカヲ知ルニ足ラン

幾多ノ方面ニ於テ生活費ノ騰貴ハ八時間制ノ結果ナリト主張スルアリ又右騰貴ハ賃銀上騰ノ自然ノ結果ナリト稱ス或種ノ事實ヲ斷片的ニ觀察セハ斯ル結論ヲ正當ト見エシムルモ必要ナル諸般ノ要素ニ

亘リ考察シタル上生スル所以ノモノヲ見ルコトヲ要ス

サレハ爲替ノ不安ノ問題、其ノ結果竝其ノ原因ヲ研究スルコトヲ要スヘシ決シテ此ノ方面ニ於テ根本的調査ヲ行フヲ必要トスト云フニハ非ス右ノ資料ハ一般ニ集輯セラレ居リ又大ニ國際財政會議ノ利用スル所ト爲レリ吾人ハ單ニ吾人ノ調査ノ爲ニ之ヲ利用スヘキニ過キス

吾人ハ如上物價ノ問題ニ付テ述ヘタリ國際財政會議刊行ノ一書ハ極メテ印象的ナル方法ニ依リ或數多ノ國ニ付卸賣價格ニ關スル數字ト信用ノ膨張ニ關スル數字トヲ比較セリ吾人ハ次ノ二個ノ表ニ之ヲ再錄ス

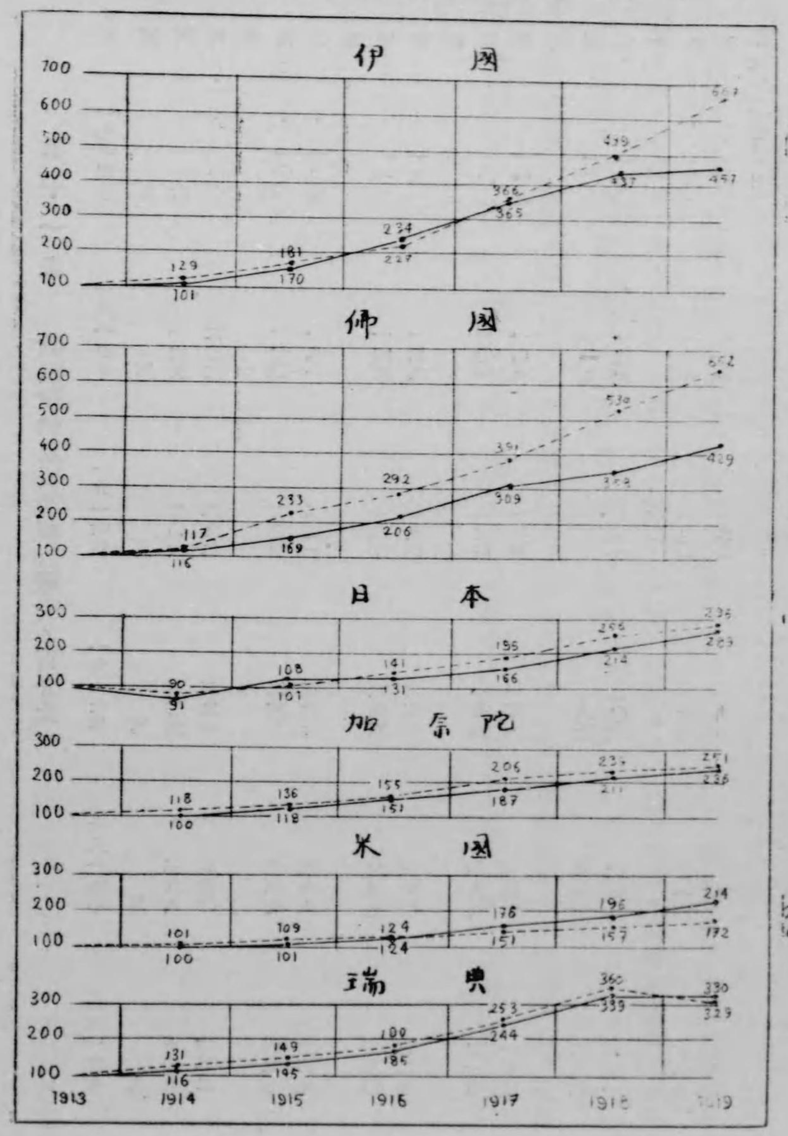
第十一表　物價變動及紙幣發行變動ノ百分比

國名	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
佛國	%	%	%	%	%	%
物價	一一六	一六九	二〇六	三〇九	三五八	四二九
紙幣	一一七	二三三	二九二	三九一	五三〇	六五二
伊國						
物價	一〇一	一七〇	二三四	三六五	四三七	四五七
紙幣	一二九	一八一	二二七	三六六	四九九	六六七
瑞典						
物價	一一六	一四五	一八五	二四四	三三九	三三〇
紙幣	一三一	一四九	一九〇	二五三	三六〇	三二九
米國						
物價	一〇〇	一〇一	一二四	一七六	一九六	二一四
紙幣	一一八	一〇九	一二四	一五一	一五七	一七二
加奈陀						
物價	一〇一	一一八	一五一	一八七	二一一	二三六
紙幣	一〇〇	一三六	一五五	二〇六	二三九	二五一
日本						
物價	九一	一〇八	一三一	一六六	二一四	二八九
紙幣	九〇	一〇一	一四一	一九五	二五六	二九六

(一)一九一八年十一月、

第二十圖

物價及紙幣發行ノ變動ノ百分比（一九一三年ヲ一〇〇トス）



以上二種ノ材料ノ間ニ存スル相互關係ヲ大體ニ明白ナラシムル爲吾人ハ二個ノ圖表ニ之ヲ圖解描出セリ其ノ研究ハ以テ信用流通ノ增加カ著シク生活費ニ影響ヲ及スコトニ付何等ノ疑ヲ容レシメサルヘシト思考ス

五、信用ノ危機

生産ハ更ニ資本ノ缺乏ニ依リ阻碍セラレタリ白國ニ於テハ考察シタル二、八〇四ノ企業中右原因ニ依リ停業セルモノ四一七アリ此ノ割合一割五分弱ナリトス

六、勞働ニ關スル原因

吾人ハ實ニ茲ニ極メテ重要ナル區域ニ達シタルナリ

(一)動員セラレタル勞働者　動員ナル一事實ハ一切ノ他ノ事實ヲ支配セリ動員ハ此ノ數年間壯年ノ活力アル數百千萬ノ者ヲシテ戰鬪員タラシメ又ハ少クトモ武器ノ製造者タラシメ之ヲ生産界ヨリ奪ヒ去リタリ

蒐集シ得ヘキ一切ノ公ノ資料ヲ藉リテ右ノ員數ヲ明ニスルコト有用ナリトス

(二)失ハレタル勞働者　是第二ノ主要事實ナリ戰爭ハ勞働者ノ大多數ヲ失ヒタリ一方殺戮セラレタル者アリ又他方殺戮ヲ免レタルモ而モ勞働能力ヲ失ヒテ辛ク生存セル者アリ

茲ニハ大體論ヲ離レ而シテ成ルヘク正確ナル材料ヲ供給スルコトヲ適當トセン今日若干ノ國ニ關シテハ吾人ハ公ノ數字ヲ有ス吾人ノ現在有スル報告ハ戰爭ニ基ク癈兵ノ救援ニ關スル同盟國國際會議ノ第四回會議ニ最近提出セラレタルモノニシテ右ニ依レハ戰死者及失踪者ノ數ハ佛國一・四五七・〇〇〇人、大英國及愛蘭竝英國領地及其ノ殖民地八七三・七九〇人、伊國四九四・〇〇〇人、白國四四・〇〇〇人、米國一二四・五一六人、獨國約二百萬人、墺匈國一・五四三・〇〇〇人ニ上レリ癈兵ハ該文書ニハ

其ノ數佛國九一六・〇〇〇人、獨國一・三〇〇・五〇〇人、大英國八九五・〇〇〇人、米國二五〇・〇〇〇人、白國四〇・〇〇〇人ト計上セリ

賃銀勞働者特ニ工業勞働者カ如上ノ數字中ニ含マルル割合ヲ測定センカ爲ニハ大勞働組合、疾病基金局等ノ統計報告ヲ利用スルコト特ニ必要ナルヘシ

加之失ハレタル勞働者ノ數ヲ探究スルノミニテハ未タ充分ナラサルヘク尙職業階級中其ノ占メタル地位ヲ明ニスルコトヲ努ムルノ要アラン或部類ノ勞働者ハ其ノ技術上ノ訓練カ最危險ナル地位ニ適當ナリシコトニ依リ特ニ戰爭ノ害ヲ被ルコトナカリシヤ又其ノ結果トシテ戰爭ハ工業界ニ打擊ヲ加ヘ之カ組織ヲ破ルコト重大ナルモノナカリシヤヲ探究スルコトヲ要ス

(三)勞働者ノ生產能力減退ノ原因　質ニ關シ同樣ノ視察ヲ爲スカ爲ニハ缺員補充ノ爲ニ入リ來レルハ婦人、兒童、老年者、罷免者、移民、有色人勞働者ノ如キ新勞働者ノ數ト其ノ經濟上ニ於ケル機能トヲ同時ニ明カニスルコトヲ要スヘシ

勞働ノ生產額ニ關シ幾分正確ニ作成セラレタル諸統計的材料ヨリシテ各種ノ方面ヨリ極メテ種々ナル結論ヲ招來スト思考セラルル際ニ於テ勞力ノ質ニ付生シタル變化ヲ成ルヘク的確明白ニスルコト適當ナリトス吾人カ數字ヲ引用シタル戰前ト現時トノ間ニ吾人ハ時トシテ戰爭ノ行ハレ又其ノ戰爭カ人口上世界ノ歷史ニ先例ナキ反響ヲ生シタルトコトヲ閑却セントスルコトアリ此ノ人口上ノ反響ヲ閑却シテハ現在ノ經濟上ノ不安ニ對シ何等根底アル意見ヲ出サンコト不可能ナルヘシ戰後ノ經濟ハ戰爭中ノ人口ニ依リ支配セラルルモノニシテ又永年間之ニ支配セラルルコトナルヘシ

最近丁抹ノ一著者「クリスチャン、デーリング」氏ノ公ニシタル或統計ハ此ノ點ニ關シ大ニ啓發セシムル所アリ氏ハ第一ニ直接間接ニ戰爭ニ因リ生シタル人命ニ關スル損害卽チ戰死軍人、一般ノ死亡增加、出產ノ減退ノ如キヲ計算シ如斯ニシテ歐洲ノ主要諸國ニ於テ其ノ三千五百萬人ナルヲ數ヘタリ

左表ハ氏カ供給シタル數字ニシテ「戰爭ノ社會的結果研究會」ノ最近刊行物ヨリ摘錄シタルモノナリトス

第十二表——戰爭ニ因リテ生シタル人命損害

	出生ノ減退	一般死亡率ノ增加ニ因リテ生シタル損害	戰死者(第一段ノ數字中ニ含マレタル)	損害總數
獨逸	三、六〇〇、〇〇〇		二、〇〇〇、〇〇〇	六、三〇〇、〇〇〇
墺地利	三、八〇〇、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、一〇〇、〇〇〇
洪牙利	八、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
英國	一、五〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇
佛國	一、四〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇
伊太利	一、一〇〇、〇〇〇			
白耳義	一、一〇〇、〇〇〇			
勃牙利	二、〇〇〇、〇〇〇			
羅馬尼亞	三、二〇〇、〇〇〇			
塞比亞	八、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
歐羅巴及西亞細亞	二、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇
合計	二〇、二五〇、〇〇〇	一五、一三〇、〇〇〇	九、八二〇、〇〇〇	三五、三八〇、〇〇〇

雖然死亡以外ニ尚重要ナル戰爭ノ結果アリ卽兩性間ノ數ノ比例ノ破壞是ナリ男子一千人ニ對スル女子ノ數ハ各國ニ付一九一三年ヨリ一九一九年ニ至ル間ニ次ノ表ニ示スノ程度ノ變化ヲ來セリ

第十三表　兩性數ノ割合〔男每一千人ニ對スル女ノ數〕

	一九一三年	一九一九年
獨逸	一〇二四	一〇九〇
墺地利洪牙利國	一〇二七	一〇九二
英國	一〇六九	一〇九四
佛國	一〇三六	一一二〇
伊國	一〇三七	一〇七〇
白耳義	一〇一七	一〇四七
勃國牙利	九六六	九九六
羅馬尼亞	九七四	一〇一六
塞爾比亞	九三七	一三三九
歐羅巴露西亞及波蘭	一〇二〇	一〇六〇
平均	一〇二六	一〇八〇

右ノ表中ノ全體ニ付婦人ノ超過數ハ五百二十萬ヨリ一千五百萬ニ增加セリ右ノ超過數ハ兵役ニ服スル年齡ノ者ニ付テノミ考察セハ一層著シキモノアリ著者ハ唯歐洲五大國ノ外計算スルコトヲ得サリシカ其ノ計算ニ於テ著者ハ次表ニ示スノ結果ニ到達セリ

第十四表　兩性數ノ割合

（每男一千人ニ對スル女ノ數）

	一九一三年	一九一九年
獨逸	一〇〇五	一一八〇
墺太利匈牙利	一〇四八	一二三〇
英國蘭	一〇七八	一一七五
佛國並愛國	一〇一七	一二三〇
伊國	一一〇九	一二二八
平均	一〇四五	一二〇五

右五國ノ全體ニ付婦人超過數ノ增加ハ一割五分三厘タリ卽獨國及墺匈國ニ付テハ一割七分四厘、英國ニ付テハ八分九厘、佛國ニ付テハ二割九厘、伊國ニ付テハ一割七厘ナリトス

吾人カ引用シタル右數字ノ著者ノ豫斷セル所ノ如何ナルニ拘ラス吾人ハ玆ニ右數字ノ意味ニ付何等ノ批判ヲモ加フルコトナク之ヲ再錄スルモノタリ雖然吾人ハ社會ノ人口上ノ構成ニ於テ又從テ勞働力ノ成立ニ於テ右ノ如キ幾多ノ變化カ勞働ノ生產力ニ自然影響シタルヲ高調スルノ必要アリトス

戰爭ニ依ル不具者ノ勞働市場ヘノ出現、多年間ノ動員ニ由ル勞働ノ廢休ナル事實ニ基因スル職業上ノ熟練ノ減滅、戰爭ニ基ク年期奉公ノ危機、職業的訓練並一般教育ノ衰退等同一ノ方向ニ作用シタルヘキ上來叙說シタル以外ノ種多ノ要素ニシテ相互的重要程度ヲ測定スルノ適當ナルモノヲモ均シク考

慮スルコトヲ必要トスヘシ

思想ノ順序トシテ戰爭ノ經濟的反響カ勞働ノ生產力ニ及ホス作用ヲ明ニスルコトヲ必要トセン生活費昂騰ハ勞働者階級ノ少クトモ大部分ノ食料狀態ニ甚シク影響スル所アリタリ而シテ或國々ニ於テハ食料ノ缺乏ハ種族ノ生活力ヲ損シタル所アルモノノ如シ數多ノ統計出版セラレタルカ吾人ハ玆ニ其ノ何レヲモ再錄スルコトナカルヘシ吾人ニ於テハ右諸統計ハ極メテ公平ニ嚴重ナル審査ニ付セラルヘキモノナリト思考ス權威アル專門家ヨリ成ル國際委員會ニ於テ右ノ點ニ關シ廣汎ナル調査ヲ行フノ委任ヲ受クルコトヲ要ス統一アル方法ニ依リ嚴重ニ比較ヲ行ヒタル上ニ於ケル結果ハ曾ニ必要ナル資料ヲ得ルニ止マラス尙極メテ重要ナル實際的結論ヲ包有スルナルヘシ大慘害後ノ復舊事業ハ破壞セラレタル產業、荒廢シタル地方ノ如ク活力ヲ消盡シタル民衆ニ對シテモ亦之ヲ要スルナリ

右ノ計畫ニ於テハ勞働者ノ食餌ノ低下ノ作用スル所ヲ明ニスル爲吾人ハ賃銀ノ趨勢ト生活費ノ趨勢トノ關係ニ觸レントス

(四)勞働時間ノ短縮——八時間制　八時間制ニ關スル調査ハ次ノ諸點ニ係ルヘシト思考セラル

(イ)各國竝產業各部ニ於テ右改革前ニ於ケル實働時間ハ幾何ナリシヤ

(ロ)日々ノ勞働時間ノ短縮ハ近年ニ於ケル勞働ノ安定ノ上ニ如何ナル影響アリタリヤ

(ハ)八時間制ハ每時間ノ生產ニ如何ナル影響アリタリヤ

(ニ)一月ノ生產ニ如何ナル影響アリタリヤ

本調査ハ之ヲ最近ノ經驗ニ局限スヘキニ非ス平時卽戰前ノ經驗ヲモ均シク考察スルコトヲ要ス

白國調査委員會ノ一員ハ本問題ヲ取扱ヒタリ彼ハ極メテ興味アル材料ヲ蒐集シタルカ玆ニ之ヲ轉載スルコト必要ナリト信ス右ハ勞働衞生局主任監督官「ルネ、サン」博士著述ニ係ル工業勞働調査會ノ刊行第二冊ニアルモノニシテ吾人ハ之ヲ左ニ抄錄ス

勞働時間短縮ノ經驗ハ近世工業ノ紀元ニ遡及スヘシ（註一）

（註一）一八九四年ニ至ル迄ノ時期ニ關シテハ John Rae, La Journé de huit heures 巴里—Giard et Brière,——一九〇〇年參看

一八一六年「ロバート、オーエン」ハ其ノ紡績工場ヲ例トシテ勞働時間ノ短縮（十一時間四十五分ヨリ十時間四十五分）ハ事業ノ繁榮ト相伴フモノナルコトヲ宣明シタリ

一八四四年ニハ「プレストン」ノ紡績織物業者タル「ロバート、ガードナー」ハ其ノ使用セル六百六十八人ノ勞働者ノ一日ノ勞働時間ヲ十二時間ヨリ十一時間ニ短縮シタルカ一日ノ生產額ハ曾ニ

減少セザリシノミナラス僅少乍ラ增加セリ

「ホーロック」及「ジャックソン」工場ニ於テモ同樣ナル經驗ヲ得タリ（註二）

（註二）Dorothy Proud, Welfare Work, 倫敦、Bell 一九一六年、二八二頁參看

一八六七年「ローレンス」ノ「アトランテック」工場ハ一日十時間四十五分ノ勞働時間ヲ賃銀ヲ減少セスシテ十時間ニ短縮シタルカ生產高ハ當分ハ四分若ハ五分方減少シタルモ三年半後ニ至リテハ設備又ハ工程ニハ何等改良シタルコトナキモ尙十時間ノ生產高ハ能ク以前十時間四十五分ナリシ場合ト同一ト爲レリ（其ノ使用人ハ一層規律的且熱心ニシテ會社會計係ノ言ニ依レハ十五年以來工場ノ有シタルコトナキ程最良ナリシト謂フ）

英國「マンチエスター」ノ「ソルフォード」鐵工場ニ於ケル勞働時間ハ一週三十五乃至五十四時間ナリシカ一八九三年ニハ四十八時間ニ短縮セラレ而モ生產高ハ增加シ勞働者ノ空費スル時間ハ二分四厘六毛ヨリ四厘六毛ニ減シタリ其後十一年右工場ノ持主タル「マザー、アンド、ブラット」社ハ曰ク『吾人ハ八時間制ノ九時間制ヨリモ一層利益ナルコトヲ確信ス生產ハ人間カ適度ノ狀態ニ在ルトキニハ一層經濟的ニシテ右ノ適度ヲ超エテ作業ヲ伸長スルコトハ利益ニ非ス』

英國政府ハ右ノ事例ニ勵マサレ兵器工廠ニ於ケル勞働時間ヲ八時間ニ短縮シタルカ右改革後ノ十一年間ニ於テ日々ノ生產高ニ何等ノ減少ヲ見サルナリ（註三）

（註三）Josèphine Goldmark, Fatigue and Efficiency. 紐育 Russell Sage Foundation, 一九一七年

「エンジス」化學工業會社ニテハ「フロモント」氏ハ一八九二年ニ勞働者ノ工場內現在時間ヲ十二時間ヨリ八時間ニ實働時間ヲ十時間ヨリ七時間半ニ短縮シタリ出來高拂ヲ受クル使用人ハ右改革カ其ノ利益ニ反スルヲ思ヒテ之ニ反對シタルカ六箇月後ニ於テハ產額ハ從テ賃銀ハ舊制度ノ下ニ於ケルヨリモ超過シ勞働者ハ身持チニ於テ清潔サニ於テ大ニ得ル所アリ會社ノ利益モ亦增加セリ此ノ改革以後十一年右ノ良好ナル成績ヲ維持シタリ（註四）

（註四）Fromont, An Industrial Experiment in the Reduction of Hours of Labour. "Bulletin of the Solway Institute".

一九〇七年

白國ノ「カルタ」製造所ニ於テハ勞働時間ヲ半時間短縮シ而モ一日ノ生產高ハ增加シ更ニ短縮シテ更ニ生產高ヲ增加セリ（註五）

（註五）グリバートノ博士私信ニ依ル

米國政府ハ同一年次ニ巡洋艦「ルイジアナ」及「コンネティカット」ノ建設ニ着手セリ前者ハ私立造船所ニ依リ「ニユポート、ニユース」ニ於テ建造セラレタルカ其ノ勞働時間ハ十時間タリ後者ハ

「ブルックリン」海軍造船廠ニ於テ建造セラレ其ノ勞働時間ハ八時間タリ同樣ノ材料及器具ヲ用ヒ同樣ノ仕事ヲ爲シタル二組ノ勞働者ヲ比較スルニ「コンネティカット」ノ勞働者（八時間勞働）ノ每時間ノ出來高ハ「ルイジアナ」ノ勞働者（十時間勞働）ノ出來高ヨリ二割四分八厘ヲ超過シ日々ノ出來高ハ兩者相等シカリキ　（註六）

（註六）Frederick S. Lee, Is the 8 Hour Working Day Rational?—一九一六年十一月二十四日發行 Science 誌

八時間勞働ノ採用ハ次ノ諸工場ニ於テハ生產ヲ增加セリ曰ク獨國「イエナ」ニ於ケル「ツアイス」光學機械工場（一九〇〇年）、英國ニ於テハ魚類鹽藏工業（一九一三年）、葉鐵及錫工業（サウス、ウエールス）、炭坑（サウス、ヨウクス）等、米國ニ於テハ「デトロイト」市「カーハート」造船會社、「デトロイト」市「フォード」工場、「アーマー、フアーチライザー」工場、「クリーヴランド」ノ諸鎔鑛爐、「イリノイス」州ノ諸炭坑、紐育州ノ大製紙所等是ナリ

次ノ諸工場ニ於テハ八時間制ヲ採用シテ能ク其ノ生產高ヲ維持シタリ曰ク伯林「フレーゼ」工場、「ウオリントン」（「ランカシアイアー」）ノ「グロスフイルト」工場、「サンダーランド」「アラン」會社工場ノ「スコシア」機械製作所、「シアロン」及「グラナイト」市ノ鋼鐵工場、「シラキウス」ノ「ソルウエー」工場等是ナリ花崗岩採取業ニ於テハ數次ノ時間短縮ニ依リ七時間カ勞働ニ最佳良ナル結果ヲ齎スモノナルコトヲ證シタリ　（註七）

（註七）「ビエル、ハムブ」ノ語ル所ニ依レハ佛國工場ノ一支配人曾テ伯林ノ八時間勞働制ヲ實施セル機械器具製造所「レウエ」ヲ訪ヒタルカ彼ノ『八時間制ヲ採リテ如何ニシテ貴下ハ十時間制ニ依ル佛國ノ競爭者ヨリモ低價ニ機械ヲ吾人ニ供給スルヲ得ルヤ』ト問ヘリ其ノ答ニ曰ク『吾人ノ機械ヲ一層速ニ廻轉セシメ而シテ吾人ノ使用人ヲシテ九時間現場ニ在ラシムルコトニ短縮シタルカ同一ノ生產額ヲ維持シタルヲ以テ吾人ハ八時間ニ短縮シ十時間ニ於ケルト同一額ノ賃銀ヲ支給シタルニ同一ノ生產額ヲ維持セリ吾人ハ賃銀ヲ其ノ儘トセリ吾人ノ利益ハ同一ノ生產額ト少クトモ一日二時間宛ノ一般經費ノ減少ヲ贏チタリ

『吾人ノ使用人ノ退出スルヲ見ラレヨ五人中四人ハ田舍ニ向ヒ唯一人伯林ニ向フ是時間短縮ノ結果ナリ吾人ノ勞働者ハ家賃ノ低廉ナル遠方ニ往復スルノ時間ヲ有セリ彼等ハヨリ良好ナル住居ニ起臥ショリ良好ナル生活ヲ營メリ長時間制ハ工場附近ノ陋屋ニ群居セシム』ト

右佛人支配人ハ早速ニ九時間制ヲ適用シタルカ製造品ノ生產費ハ同一ナリキ

吾人ハ前ニ使用者側ノ調査局トシテ米國ノ製造業者五萬以上ノ者ヲ組合員トセル十七組合ノ共同ノ出捐ニ依リ設立セラレタル國民產業協會（National Industrial Conference）ニ關シ記述シタルカ其ノ書記長「マグナス、アレキサンダー」氏ハ著明ノ人物ナル處該調査局ハ勞働時間ト勞働者ノ生產及健康トノ間ニ存スル關係ニ付質問書ヲ發シテ調査スル所アリ其ノ結果ハ綿絲、羊毛、絹物及靴製造工業ニ關スルモノハ既ニ刊行セラレタリ　（註八）

(註八) Hours of Work as Related to Output and Health of Workers.
綿絲製造、國民產業協會調査報告第四號、ボストン、一九一八年
同　上　靴製造業、調査報告第七號、ボストン、一九一八年
同　上　羊毛製造、調査報告第十四號、ボストン、一九一八年
同　上　絹物製造、調査報告第十六號、ボストン、一九一八年

如上ニ依リ勞働時間ノ短縮ハ其ノ適度ナルニ於テハ生產額ノ增加又ハ維持ヲ伴フモノニシテ生產額ハ一週ノ勞働時間數カ紡績業ニ在リテハ五十六時間以下、靴製造業ニ在リテハ五十二時間以下ナル場合ニ於テノミ減退ヲ見ルモノナルコトヲ示スモ而モ右生產額ノ減退ハ完全ナル機械ノ利用ニ依リ容易ニ相殺セラルルモノナリ

絹物工業ニ在リテハ勞働時間ノ短縮ハ其ノ中ノ二箇ノ企業ニ於テハ一週ノ生產額ヲ增加シタルカ十七工場ニ於テハ同額ノ生產ヲ維持シ六十五工場ニ於テハ減退シタリ

毛織物工場ニ關シテハ生產額增加ノ場合七ニシテ同額十四減少セルモノ六十四ナリ

製靴工業ニ在リテハ勞働時間ノ短縮ハ二箇ノ工場ニ於テハ生產總額增加ノ結果ヲ來シタルカ二十四工場ニ於テハ何等ノ影響ナク五十三工場ニ於テハ之ヲ減退セシメタリ次ニ諸製靴工場ニ關スル觀察ノ或者ヲ掲記スヘシ

一萬二千人ノ勞働者ヲ使用セル「エンディコット、ジ・ンソン」會社ハ一週ノ勞働時間ヲ六十時間ヨリ五十四時間ニ短縮シタルカ生產額ニハ減少ナク次テ五十四時間ヨリ四十八時間ニ移リタルニ生產額ハ僅ニ減少シタルモ會社ノ代表社員ハ『右ノ經驗ハ何レノ方面ニ於テモ成功シ勞働時間ノ短縮ニ依リテ使用人ハ多クノ安樂、幸福、滿足ヲ享ケ而シテ吾人ハ眞實上手ニ費シタル金錢ヲ要シタルノミナリ』ト揚言セリ

他ノ會社(「トーマス、ジー、ブラント」)ハ一日ノ勞働時間ヲ十時間ヨリ九時間ニ短縮シ而シテ生產額ハ增加シタリ雖然次ニ採用セラレタル八時間制ハ截革工ノ場合ヲ除クノ外生產額ノ減少ヲ來シタルニ依リ維持セラルルコトヲ得サリキ

「アルフレッド、キムボール」製靴會社ニテハ勞働時間ヲ五十四時間ヨリ四十九時間半ニ短縮シタルカ生產上何等著シキ減退ヲ惹起セサリキ「ダブリユ、エッチ、マツク、エルウエン」會社ニテハ七千五百人ヲ使用セルカ勞働時間ヲ五十五時間ヨリ五十二時間ニ短縮シタルニ其ノ生產總額ハ增加シ次テ五十二時間ヨリ五十時間トシタルニ從前ノ產額ヲ維持シタリ

大體ニ於テ勞働時間ノ短縮ハ(百人以下ノ勞働者ノ)小企業ニ在リテハ使用者ト使用人ト密接ナル關係ニ在ルカ爲ニ(百人以上ノ勞働者ノ)大企業ニシテ管理ノ甚有力且巧妙ナルモノニ於テハ良

好ナル結果ヲ齎シタルコト注目セラレタリ

報告者ハ之ニ附言シテ使用者及勞働者間ニ存スル眞實ナル協力ノ精神ハ屢々短キ勞働時間ヲ以テ一層長キ時間ト同樣ニ生產的ナラシムトセリ

他方ニ於テ十ノ紡績工場ニ於テハ勞働時間ノ短縮ハ何等生產總額ノ減少ヲ來タスコトナク他ノ八十ノ工場ニ於テハ或ハ勞働時間ノ短縮ト比例シ或ハ一層僅少ナル比例ニテ減少シタルカ一時間ノ生產額ハ往々五分方增加セリ右生產總額ノ減退ニ拘ラス多數ノ製造業者ハ其ノ使用人ノ精神狀態（註九）カ良好ト爲リ其ノ募集ノ容易ニ、其ノ作業ノ規則的ト爲レルノ故ヲ以テ勞働時間ノ短縮ニ贊意ヲ表シタリ

（註九）多數ノ罷業ハ過度ノ勞働カ來シタル神經ノ亢奮ニ基因ス過度勞働ハ工場ノ作業ヲシテ永久ノ責罰ノ觀アラシムルモノナリ

則チ右米國使用者側ノ廣汎ナル調査ハ生理學者ノ見解ヲ確認スルモノニシテ勞働者ノ健康、工場ノ衛生狀態ノ良好竝疲勞ニ對スル防護方法ハ人道論者又ハ醫家ノ問題ニ非スシテ產額換言セハ配當額ニ直接ニ影響スルモノタリ

英國及佛國ノ軍需工場ニ於テハ伊國生理學者「トレベス」氏カ『長時間勞働ノ利益ノ幻想』ト呼ヒタル所ノモノヲ實際上ニ最明白ニ例示スル所アリタリ

戰爭ノ當初男女勞働者ハ土曜及日曜ノ兩休日ヲ拋棄シ愛國ノ念ヨリシテ一日十二時間、十三時間、十四時間、十五時間ノ勞働ヲ甘諾シタルカ一年ノ終リニ於テハ勞働者一人ノ生產額ハ之カ爲ニ減少シ（註一〇）之ヲ增加センカ爲ニハ廢止シタル休日ヲ再興シ且一日ノ勞働時間ヲ短縮スルノ要アリトセラルルニ至レリ

（註一〇）米國製造業者輸出協會ノ派遣委員（一九一六年九月乃至十月）ハ述ヘテ曰ク『佛國軍需工場ニ於テハ十二時間勞働制採用後五月若ハ六月ニシテ生產額ハ八時間勞働制ニ於ケルヨリ以下ニ減少セリ』ト米國製造業者輸出協會ニ對スル佛米報告書七六頁參看

加之一九一五年以來本問題ニ關スル吾人ノ知識ハ著シク增加シ且的確ト爲レリ勞働時間其ノ他ノ勞働條件ノ影響ニ關シテ吾人ニ敎フルモノハ單ニ生理學者ノ調査又ハ諸工業家ノ箇々ノ經驗ニハ非スシテ有名ナル專門家ノ費用ト便宜トニ制限ナキ委員會ニ依リ四大調査行ハレタリ

（イ）右調査ノ第一ハ英國科學促進協會ノ疲勞問題研究委員會ニ依リ企圖セラレタルモノナリ該委員會ハ疲勞ヲ經濟的見地ヨリ考察シテ生產ノ減退、事故及粗製品ノ數ノ增加竝缺勤者ノ割合ノ增加ハ長時間勞働カ工業家ニ不利ナルコトヲ明カニセリ「フイリップ、サーガント、ブローレンス」氏ハ米國ニ於ケル其ノ調査ヲ繼續シ之ヲ一卷ノ書ニ摘要シタルカ右ハ其ノ方法ニ於テ一名著ナリト

ス（註一一）

（註一一）Philip Sargant Florence, Use of Factory Statistics in the Investigation of Industrial Fatigue

紐育 Longman's Green 一九一八年

經濟的見地ニ依ル疲勞問題研究委員會ノ報告、英國科學促進協會會報（一九一五年）

（ロ）「ブリストル」ノ「スタンレー、ケント」教授ハ內務省ノ爲ニ同時ニ生理學的方法及生產額研究ニ從事シタルカ（註一二）同氏ハ疲勞ハ（多數ノ場合ニ於テ勞働者ノ之ヲ感知スルコトナキモ）作業工程ノ遲緩竝空費時間ノ伸長增加ニ依リ生產額ヲ減少スルコトヲ示シタリ

（註一二）內務省「スタンレー、ケント」工業的疲勞調查中間報告、倫敦、一九一五年同上工業的疲勞調查第二回中間報告、倫敦、一九一六年

勞働時間ニ付テハ次ノ區別ヲ爲スコトヲ得

工場經營者ニ依リ定メラレタル正規ノ時間

勞働時間カ作業物ニ到着セル時ヨリ其ノ退去スル時ニ至ル迄ノ實働時間

實働時間卽準備時間及作業中ノ一時的中斷時間ヲ除キ勞働者カ勞働ヲ供給スル時間

「スタンレー、ケント」氏ハ疲勞ハ實働時間カ名目上ノ時間ニ對スル比例ヲ減少シ從テ每時間ノ生產額ヲ低下スルノ結果ヲ來スコトヲ指摘シタリ

勞働時間ノ伸長、超過時間勞働、夜業、早旦業、週休及他ノ中間休日ノ廢止、營養不良ハ此ノ點ニ於テ特ニ有害ニシテ斯ル條件ニ於テハ例ヘハ十二時間制ノ下ニ於ケル生產額カ八時間制ノ下ニ於ケル生產額ヨリ以下ナル如キ生產減少ヲ見ルコト往々ニシテ存ス

（ハ）勞働者ノ健康問題研究ノ爲英國軍需省ニ依リ任命セラレタル委員會ハ五年以來其ノ調查ヲ行ヒタルカ該委員ハ以前爭アリタル諸點ニ關シ大ナル光明ヲ齎シタル明細ニシテ且多數ナル材料ヲ蒐集シタリ（註一三）

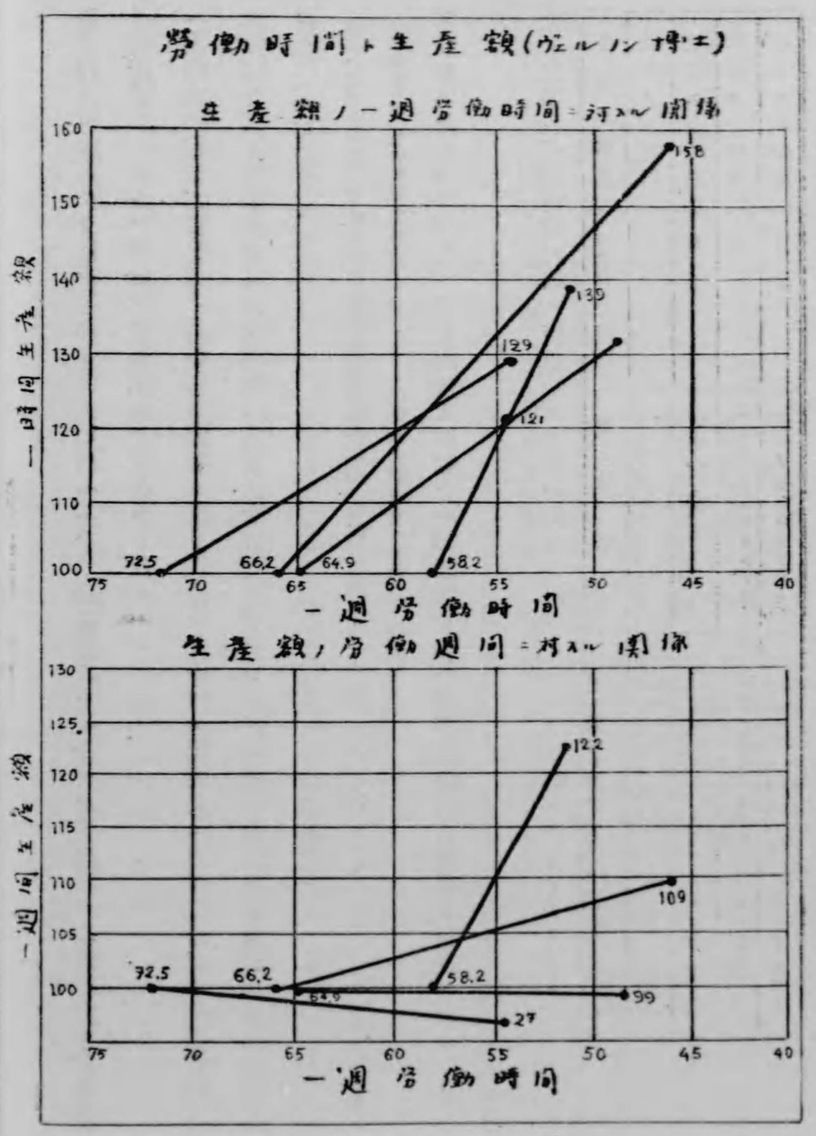
（註一三）軍需省、軍需品製造勞働者保健委員會調書、中間及最終報告、倫敦、一九一五年及一九一八年、休戰以後右ノ調查ハ科學及工業調查省評議員會ノ任命シタル工業疲勞調查會ニ於テ之ヲ繼續セリ

委員會ハ殊ニ一年以上ニ亘リ比較的不動ナル勞働者ノ群ニ付勞働時間ノ影響ヲ觀察スルコトヲ得タリ

次ノ數字ハ勞働時間短縮ノ結果トシテ斯ル群レノ四ツノモノヨリ得タルモノナリトス

勞働ノ性質	勞働者ノ種類	作業速度	一週ニ於ケル勞働時間減少	一週ノ生產高
疲勞スル勞働	男	隨意ニ速サヲ增スコトヲ得	五八、二時間ヨリ九、二時間ニ卽チ七分減	二割二分增加
疲勞スル勞働	女	一定ノ程度迄速サヲ增スコトヲ得	六六、一時間ヨリ四、六時間ニ卽チ二割五厘減	九分增加
輕易ナル勞働	女	勞働時間ノ五分ノ一ノ間速サヲ增スコトヲ得	六〇、八時間ヨリ四、二時間ニ卽チ一割六八厘減	一分減少
輕易ナル勞働	壯年	速サヲ增スコトヲ得ス	七二、五時間ヨリ五四、〇時間ニ卽チ一割八分減	三分減少

第二十一圖



最後ノ結果ハ特ニ顯著ナルモノナリ仕事ノ進ミハ自働器械ニ就キ作業セル勞働者ニハ何等影響スル所ナキモ勞働時間ノ一割八分ノ短縮ハ生産額ニ於テ三分ノ減少ヲ來セルニ過キス毎時間生産高ノ増加ハ明ニ勞働者カ空費スル時間ノ減少ヨリ生セルナリ

(ニ)英國委員會ノ結論ハ米國國防會議委員會ノ採用スル所ト均シク(註一四)之ヲ摘用セハ左ノ如シ

疲勞ハ生産高ノ減少ヲ惹起シ作業ノ遲緩、空費時間ノ増加、事故及不精巧品數ノ増加、病氣缺勤ノ増加及缺勤ヨリ生スル勞力ノ新補充ノ爲ニ工業主ノ一般經費ヲ増加ス

疲勞ハ左ノ如クニシテ之ヲ避クヘシ

(い)制規外ノ休暇ヲ設クルコト

(ろ)單調ナル作業ヲシテ變化アラシムルコト

(は)勞働者ノ自然ノ調子ニ從ヒ速サヲ調節スルコト

(に)不用ナル運動ヲ除去スルコト

(ほ)勞働者ノ身長ニ適スル席ヲ與フルコト

(へ)適當ナル方法ニ於テ工場ノ換氣ヲ行ヒ、光線ヲ給シ煤煙及塵埃ヲ除去シ、勞働者ニ清淨水ヲ給シ、休憩室、食堂、手洗ヲ設ケ便所ヲ清潔ニ保ツコト

(と)夜業ヲ必要トスル時ハ晝間勞働ト夜間勞働トヲ交互ニスルコト

(ち)一日ノ勞働時間ヲ短縮スルコト

(り)超過時間勞働竝午前八時前及午後六時後ノ勞働ヲ避クルコト

(ぬ)日曜休業制ヲ採ルコト

(る)勞働者ニ工場外ニ於テ健康ニシテ愉快ナル生活ヲ與フルコト

(を)勞働者ノ食料ノ充分且衛生的ナルコト及空腹又ハ朝飯ノ充分ナラスシテ就業スルコトナキ樣之ヲ監督スルコト

(註一四) Welfare Work Series, No 1. Industrial Fatigue 華盛頓、一九一八年

右ハ生產ノ見地ニ立脚シタル例ヘハ「ジルブレート」氏ノ如キ技術家ノ立案ナルコトヲ注意スヘシ

米國委員會ノ企業調査ノ細目ハ未タ刊行セラレス雖然該委員會ノ幹事タル「リー」教授ハ次ノ說明ヲ爲シタリ（註一五）卽夜業ニ於テハ間斷ナキ注意ト心身協働トヲ必要トスル作業ニ於ケルカ如ク仕事ノ速サハ始ハ速カニシテ最初ノ一、二時間ノ間ハ增加シ次ヲ遞次ニ減少ス同樣ノ現象ハ正午休憩後ノ作業時間中ニモ亦存ス

(註一五) Frederikcb S. Lee, The Human Machine in Industry, Colombia University Quarterly, 一九一八年一月.

同上 Industrial Efficiency, Public Health Report, No. 448, 一九一八年一月十一日

反對ニ激シキ肉體的努力ヲ必要トスル作業ニ於テハ生產高ハ作業期間ノ始メヨリ終リニ至ルニ從ヒ幾分順序的ニ減少ス但最後ノ一時間若ハ半時間ハ或ハ仕事ヲ分量多ク成シ遂ケントスル希望ニ或ハ休憩時ノ接近スルノ理由ニ依リ僅乍ラ增加スルヲ見ル

單調且容易ナル作業ニ於テハ生產高ハ均一ナリ

佛國ノ一調査ハ一週間中ノ生產ノ進捗ニ關シ同樣ノ證明ヲ得タリ卽チ水曜日及木曜日ニ於テ最多

ノ生産ニ達シ金曜日ニ於テ僅少ノ減少ヲ見土曜日ニ於テ殊ニ著シ終ニ一日ノ勞働時間カ十一時間ヲ超過シ殊ニ使用人カ日曜日及夜間勞働スルトキハ生産高ハ第六週ノ終ニ至ル迄一週毎ニ順序的ニ低下ス（註一六）

（註一六）Marcel Frois et B Caubet, Le rendement de la main-d'oeuvre et la fatigue professionnelle, 巴里、アルカン、一九一九年

要之右ノ諸調査ハ吾人ヲシテ合衆國會議ノ任命シタル産業委員會カ四年間研究ノ後既ニ一九〇二年ニ發表シタル意見ヲ回想セシムルナリ

『産業ノ傾向ハ益努力ヲ增加セシムサレハ勞働者ノ健康ト壽命トヲ保護スルニハ唯一ノ方法アルノミ一日ノ勞働時間短縮是ナリ』ト（註一七）

（註一七）機械ノ速度ノ增加ハ佛國ニ於テ勞働時間數カ一八四八年ノ十二時間、一八九二年ノ十時間、一九一九年ノ八時間ト爲リタル短縮ノ速力ヨリモ速カナリ此ノ間ニ於テ汽車ノ速力ハ二萬五千米突ヨリ九萬米突ニ至リ而シテ機械ノ運動ハ一分六十回ヨリ二百回ニ至レリ（ハンアー）

右短縮ノ行ハレタル凡テノ場合ニ於テ激烈ナル反對起リ且警告的豫言ヲ生シタリ雖然極メテ短キ試驗期間ノ後ハ右ノ反對ハ消失シ使用者モ其ノ使用人ト同シク改革ノ利益ヲ稱スルニ一致シタリ

勞働時間ノ短縮ハ決シテ世界ノ市場ニ於テ各國ノ競爭能力ヲ減少セシムルモノニ非ス勞働時間ノ最モ短キ諸國ハ現ニ他ノ諸國ヨリモ一層低廉ニ其ノ生産物ヲ製造セリ（註一八）

（註一八）米國産業委員會最終報告、一九〇二年、第一九冊、七六四及七七四頁、休戰後且八時間制ノ一般採用以來生産力減少シタリトノ反對アリ雖然吾人ハ現在全ク常態ナラサル事情ニ在ルナリ

上來述ヘタル日々ノ勞働時間ノ短縮ノ問題ト相關聯シテ研究スルコトヲ要スル點ノ一ハ一年間中ノ勞働ノ安定ノ問題ナリ本問題ハ勞働者ニ取リテ緊切ノ利害アリ國民經濟――一層一般的ニ國體經濟ト謂フヘキカ――ニ付テモ尚緊切ノ利害アルモノナリ短キ時間ニ於テスル規則正シキ勤務ハ過度ノ活動ニ繼テ失業ヲ見ルカ如キ間歇的勤務ニ比シ甚大ノ利益アルコト爭フノ餘地ナシ輿論ハ常ニ必シモ或勞働爭議ノ事實ヲ正確ニ知悉スルモノニ非ス一九一九年米國坑夫ノ同盟罷業當時歐洲ニテハ其ノ賃銀增加ト同時ニ勞働時間ヲ八時間ヨリ六時間ニ短縮スルノ希望ニ驚愕シタルカ雖然八時間勞働スル坑夫カ平常ハ一週三日ノミ或ハ全ク例外的ナル場合ニ於テモ猶四日以上就業セサリシコトヲ知ラサリシナリ其ノ就業ノ三日ニ減少シタルニ付テハ貨車ノ缺乏、輸送ノ困難等ノ如キ種々ノ理由主張セラレタリ即坑夫ノ要求シタル所ハ規則正シク一日六時間、一週五日間就業スルコト換言セハ二十四時間ノ代リニ三十時間作業スルニ在リ然ラハ日々ノ勞働ハ減少ス雖然勞働ハ持續スルナリ

（五）同盟罷業及鑛出「ビレリー」氏カ其ノ動議ノ趣旨ヲ宣明シタル演說中指摘引用セル勞働ノ諸條件

中ニハ同盟罷業ト鎖出トヲ擧ケタリ

右團體的勞働停頓ハ確ニ一般生產ノ上ニ作用ヲ及ホスモノニシテ右ノ重要程度ヲ測定シ專ラ或國ノ官廳若ハ組合ノ統計ノ供給シタル情報ヲ更ニ直接調査ニヨリ完璧ニスルコトヲ必要トスヘク殊ニ罷業及鎖出ノ爲各國ニ於テ失ハレタル勞働日數ノ如何ヲ調査スルコト必要ナルヘシ

（六）勞力ノ逼迫　生產ノ停廢又ハ減少ノ働因トシテ屢々勞力ノ不足ニ留意セラレタリ事實吾人カ數次引用シタル白國ノ調査ハ全數二八〇四ノ工場中二七五ノ場合ニ於テ右不足ノ關係アリタルコトヲ立證セリ

勞力ノ逼迫トハ何ヲ意味スルヤ組合勞働者ノ絕對的缺乏ナリヤ否特別ノ技能アリ又望マシキ職業的訓練アル勞働者ノ缺乏ナラサルヤ右ノ點ハ之ヲ明白ニスルノ必要アリ上來爲シタル觀察ハ吾人ヲシテ其數ノ不足タルヨリモ寧ロ多ク質ノ不足タルコトヲ承認セシムヘキモノタリ右ノ不足ハ產業界ノ何レニ於テ最强ク感ゼラレタルヤ尙一般的ニ經濟界中供給勞力ト需要勞力トノ間ニ最著シキ相違ノ存シ又勞働者不足ノ最顯著ナルハ如何ナル區域ニ於テナリヤ右ハ工業ニ於テナリヤ將タ農業ニ於テナリヤ農產物ノ價格ノ騰貴ハ都市移住ノ風ヲ停止シ田園ニ歸農スルノ趨勢ヲ促シタリヤヲ明カニスルコトヲ要トセン

本問ニ付生シタル幾多ノ問題ハ國際勞働事務局ノ失業及移民課ノ研究綱目ノ一部タリ該部課ノ固有ノ事業ハ右問題ニ對スル答解ヲ疑モナク夫レ自身供給スヘキモノタルナリ

（七）失業ノ急迫　吾人ハ直下左ノ失業ノ急迫ナル問題ニ關シテ同樣ノ考察ヲ爲サントス

各國ニ於ケル失業統計又ハ失業ニ關連スル統計ノ最完全ナル計數表ハ現ニ右ノ部課ニ於テ一九二〇年六月ノ「ジュネーヴ」ノ國際勞働事務局ノ理事會ニ提出スル爲作成セラレ居レリ

右ノ計數表ヨリシテ失業ニ關スル統計資料ハ現在不完全ニシテ又若シ各國ヲ同時ニ考察スルトキハ其ノ全體カ區々ナルモノナルコトヲ結論スヘシ觀察セラレタル事實及觀察ノ方法ハ各國ニ付異レリサレハ各國ニ於テ失業ノ國際的統計ノ作成ニ適當ナル方法ノ適用ヲ得ルカ爲ニハ國際勞働機關ハ一大努力ヲ爲スコトヲ要ス

委員會ノ事業ノ結果ヲ奪フコトナキモ華盛頓總會ノ勸告ノ一ニ揭ケラレタル失業保險ノ發達ハ右統計ニ鞏固ナル基礎ヲ確保スルノ效果アルヘシト思考スルコトヲ得

現在ニ於テ且現存ノ統計ノ缺陷殊ニ比較ノ可能ニ關スル缺陷ノ如何ニ拘ラス其ノ吾人ニ供給スル數字ハ生產減退ノ目下ノ時期ニ於テモ或地方若ハ職業ニ於テ勞力ノ缺乏アリタル一面ニ於テ重大ナル失業ノ事實アリシ——今日ト雖猶存ス——ヲ證明スルナリ右ノ失業カ或ハ一地方ノ勞働者ヲ他地方ノ職

業ニ紹介シ或ハ他職業ヘノ轉業ヲ容易ニスルカ如クニシテ勞働市場ヲヨリ良好ニ組織スルコトニ依リ或程度ニ於テ減殺セラレ得ルコトハ有リ得ヘキコトナリトス

右ノ點ニ關シ――良好ニ管理セラレタル職業紹介所ノ及ホシ得ヘキ作用ヲ明ニスルカ爲――「リエージュ」勞働取引所カ就職口ヲ有セサル製本職工ヲ職工ノ缺乏セル帽子製造職工ニ紹介シ遂ケタルコトヲ擧クルコトヲ得ン而シテ其ノ成績ハ良好ナリシモノノ如シ顧フニ帽子製造業者タル使用者モ製本工タル勞働者モ職業紹介所ノ干與スルコトナカリセハ相互關係ニ入ルヘシトハ思ハサリシナルヘシ

吾人ハ上ニ數多ノ國又ハ一切ノ國ニ付同盟罷業若ハ鎖出ノ爲失ハレタル勞働日數ヲ知ルノ要アル所以ヲ力說シタリ同一ノ問題ハ失業ニ關シテモ亦存ス

右各種材料ヲ比照セハ啓發セラルルコト確然タルヘク右ハ今日蒐集シ得タル若干ノ數字ニ依リテモ之ヲ推斷スルコトヲ得ヘシ

茲ニ先ツ大英國ニ關スル數字ヲ掲ク

第十五表　英國

同盟罷業及鎖出竝失業ニ因ル休業日數

	同盟罷業及鎖出ニ基ク勞働休業日數（一）	一九一四年ニ於ケル失業ニ基ク勞働休業日數（二）
	一九一二年	一九一三年
建築工業………	八二三、八二九	三、二一〇、〇〇〇
機械工業………	一、〇九五、二六四	九二三、一〇〇
造船工業………	一九四、八九五	一二三、二〇〇
合計……	二、一一三、九八八	四、二五六、三〇〇

	失業ニ基ク勞働休業日數	保險金ノ支拂ヲ受ケタル日數
建築工業………	八、二七〇、四〇一	四、七三七　五六〇
機械工業………	三、〇七七、六七〇	一、五七六、八四四
造船工業………	一、三一四、一三二	六六三、三一五
合計……	三、六六二、二〇三	六、九七七、七一九

（一）第七勞働統計摘錄
（二）失業保險法成績報告書

上記ノ工業ノ三部類ニ付餘儀ナキ失業ニ依リテ失ハレタル日數ハ勞働ノ團體的停廢ニ依リ失ハレタル日數ニ超過スルコト十割以上ナルコトヲ知ル

伊國及丁抹ニ付テハ吾人ハ右ト同一年次ニ於ケル對當ノ數字ヲ有セサルモ吾人ノ有スル數字ハ重要ナル意義ヲ有スルニ於テ之ニ劣ラサルモノナリト思考セラル

茲ニ伊國ニ關スル數字ヲ掲ク

第十六表　伊太利

同盟罷業、鎖出及餘儀ナキ失業ニ基ク勞働休業日數

年次	同盟罷業及鎖出ニ基ク勞働休業日數	年次	失業ニ基ク勞働休業日數
一九一二年………	二、三九七、八九一	—	—
一九一三年………	四、六一七、一一〇	—	—
平均數……	三、五〇七、五一〇	一九一九年………	六三、二二一、二六〇

即チ同盟罷業及鎖出ノ理由ニ依リ失ハレタル日數ハ平均シテ失業ノ理由ニ依リ失ハレタル日數ノ六千二百萬ナルニ對シ三百五十萬ナリトス加之右失業ノ日數ハ失業者中被保險者タルモノノ失ヒタル勞働日數ヲ掲ケサルカ故ニ實際以下ノモノナルコトニ注意スルヲ妥當トス最後ノ點ヲ考量センカ其ノ距離ハ更ニ著シキモノアリ比例ハ約十八對一ナリトス

同一ノ例證ハ丁抹ニ關シテモ亦存ス吾人ハ一八九九年乃至一九一七年ノ間同盟罷業及鎖出ノ爲ニ又一九〇四年乃至一九一三年ノ間失業ノ爲ニ失ハレタル日數ヲ知ル吾人ニシテ年次ノ平均ヲ抽出センカ吾人ハ次ノ數字ニ到達スルナリ即チ同盟罷業及鎖出ノ爲ニ失ハレタル一七七・四五五日ニ對シ餘儀ナキ失業ノ爲ニ失ハレタルハ二・四六九・〇〇〇日ナリトス其ノ比例ハ一對十四タルナリ

第十七表　同盟罷業、鎖出及餘儀ナキ失業ニ基ク勞働休業日數

年次	同盟罷業及鎖出ニ基ク勞働休業日數(一)	救助金ノ支拂ヲ受ケタル失業日數	登錄セラレタル失業日數	年次
一八九九年—一九〇三年	六五〇、〇〇八	一、〇〇五、三四五	二、一一二、一三五	一九〇八年—一九〇九年
一九〇四年—一九〇八年	一、九五、三五五	一、〇八七、一八六	二、五七五、四三三	一九〇九年—一九一〇年
一九〇九年—一九一〇年	五七、九二八	一、三一九、四三四	二、九〇四、五七五	一九一〇年—一九一一年
一九一一年	六〇、七八一	一、二五七、八六六	二、五六〇、四五〇	一九一一年—一九一二年
一九一二年	六三七、二三七	一、一七三、五五七	二、三〇四、二七六	一九一二年—一九一三年
一九一三年	四七、四五〇	一、三七二、九四五	二、五六〇、〇〇三	一九一三年—一九一四年
一九一四年	二二〇、六五〇			
一九一五年	三六、六五三			
一九一六年	三一、三〇〇			
一九一七年	二五三、〇〇〇			
合計	一六一、七四九			
平均	一、九五二、〇一一	七、二一六、三三三	一四、八一六、八七二	
	一七七、四五五	一、二〇二、七二〇	二、四六九、四七〇	

(一)　一九二〇年國際統計年報第六號ヨリ

(八)個人的又ハ團體的生產ニ對スル比例的賃銀制度ニ對スル勞働者ノ反對　玆ニハ吾人ハ右ノ表題ヲ掲記スルニ止メントス蓋シ之ニ付テハ本書中解決法ニ關スル章中ニ讓ラントスルモノナリ

調査ハ右ノ點ニ關シテハ單ニ一方如何ナル程度ニ於テ右ノ反對ノ存スルカヲ明ニシ他方採用セラレタル各種ノ賃銀支給方法即時間拂、出來高拂、諸種ノ賞與制度ノ如キモノカ勞働ノ生產力ニ及ホシタル作用ノ如何ナルヤヲ調査スヘキコトヲ注意スルニ止ムヘシ

七、心理的並道德的要素

經濟問題ノ調査ニ於テ心理的並道德的要素ヲ看過スルコト屢々常例ノ如ク爲レリ蓋シ斯ル方法ヲ履ムヨリ科學的ナル方法ニ依リ之ヲ處理スルモノナリトセラレタルモノノ如シ然ルニ吾人ハ若シ右調査ニ付心理的及道德的事象ニ觸ルルコトナク又之ヲ第一位ニ置カサルトキハ現在ノ經濟的不安ノ根本的事象ヲ誤解スルニ至ルヘキコトヲ確信ス心理的道德的事象ハ吾人ヲシテ「測定スヘカラサル或者」ヲ感得セシムルモノナリトス吾人ニ委託セラレタルカ如キ調査ニ於テハ統計數字ノ拔萃又ハ綱目ノ作成ニ制限セラルヘキモノニ非ス

最近ノ恐怖ノ數年間ニ顯出高潮シタル社會人心ノ狀態ヲ理解スルコトヲ要スルナリ

往々曾テ想像セラレタルコトナキ以上ニ複雜ナル趨勢ヲ表スカ爲ニ種々ナル辭令ノ用ヒラレタルヲ見ル其ノ或者ハ奏功シタルカ右辭令ノ含ミタル事實ハ如何ナルモノナリヤ一般ノ論議ニ於テ種々ノ點ニ付人ノ有シタル或思想ハ實ニ何ヲ意味スルヤ吾人ハ右ノ思想ハ科學的解說ヲ要スト思考スルモノニシテ而シテ右ハ吾人ノ企圖スル仕事ナリトス

「瀨惰ノ波」「戰爭ノ疲レ」ト謂フハ何ヲ意味スルヤ勞働者ノ中生產ノ拒絕ヲ肯定セントスル革命的潛在感情ノ存スルヤ現在ノ制限ニ對スル民衆ノ傳統的同意ハ覆ヘサレタルヤ戰爭ハ群集ノ心理ニ變化ヲ來シ又ハ幾分之ヲ分解シタルヤ煩瑣ナル問題ナルモ而モ嚴格ニ公平ナル精神ヲ以テ之ヲ取扱フコトヲ期スルニ於テハ確然タル答辯ヲ與フルコト不可能ナラスト思考セラル

戰時中ニ於ケル避難民ノ心理ハ如何ナルモノナリシヤ戰敗後ノ勞働者ノ心理ハ如何ナリシヤ又現在如何ナルモノナルヤヲ明ニセンコトヲ試ムヘシ

背德ノ事實カ可ナリ汎キ範圍ニ瀰漫セルハ周知ノコトナルカ吾人ハ暴利者流ニ關スル最高會議ノ峻嚴ナル言辭ヲ茲ニ引用セントス

一九二〇年三月八日ノ該會議ノ經濟宣言中吾人ハ次ノ文字ヲ見ルナリ『暴利者流ノ名稱ヲ附セラレタル人々ニ依リテ實現セラレタル過度ノ利得ハ貨物ノ缺乏ヨリ生スルモノタリ通貨ノ收縮及物價ノ不斷ノ騰貴ノ停息ハ暴利者流ヲシテ利得ヲ獲得シムル事情ヲ消滅セシムルニ與ツテ力アルモノナリ雖然生產ノ增加ニ付一切ノ階級者ノ協力ヲ得ムコトヲ期セントセハ各國政府ハ自國ノ國民ノ特別ナル狀態ニ適當ナル措置ヲ執リ特ニ勞働階級ニ對シテハ自己ノ努力ニ依リ矯救スルノ外ナキ人民ノ負擔ハ歐洲ノ經濟的困難ヲ個人的利益ノ爲ニ利用セントスル人々ニ依リ增大セラルルコトナキ保證ヲ與フルコト根本的ニ必要ナリトス』

雖然此ノ種ノ調査ハ專ラ勞働階級ノ爲ニノミ進メラルルモノナルヘカラス使用者階級中ノ少クモ或部分ニ企業心ノ減退、不安ノ存セスヤトノコトヲモ自問スル所ナカルヘカラス然ラハ何カ右不安ノ原因ナルヤ是問題ノ第二點ニシテ各國ニ於ケル使用者並勞働者組合ノ汎キ意見カ貴重ナル結果ヲ與フヘキモノナリトス

第三編　解決法

論議

本調査全部ハ常態回復ヲ以テ其ノ目的トスルコトハ吾人ノ既ニ述ヘタル處ナリ夫故ニ本調査ノ一部分ハ提示セラレタル解決法トシテヨリ獲得セレタル結果トヲ取扱ハサルヘカラス從來作成セラレタル行動綱目及之ヲ實施スル爲執ラレタル措置ノ概要ヲ述フルコトハ問題外ナルヘシ吾人ハ二三種ノ見解及事實ニ付注意ヲ促スヱ止メントス

一、産業ノ民衆化

第一ニ論スヘキハ本問題ニ於テ非常ニ重要ナル役割ヲ演スル心理的及道德的原因ナリトス社會的傾ハ日ニ日ニ其ノ勢力ヲ增シ右原因ヲ活躍セシメ以テ問題ノ解決ニ貢獻スルモノナリ近代産業ヲ「民衆化」ヘノ途上ニ導クモノハ右ノ傾向ニ外ナラス昨日迄ハ受働的賃銀生活者ニ過キサリシ者モ勞働條件ノ管理及更ニ進ンテハ企業經營ニ參與セシメラルルニ至レリ

勞働時間短縮ニ關連シテ吾人ノ述フル所アリシ白耳義ノ著作家「ルネ、サン」博士ハ其ノ英米派遣報告書中ニ於テ産業ノ民衆化ニ關シ既ニ爲サレタル處ニ付稱讃ニ價スル記述ヲ爲セリ

工場代表者及産業會議ノ盡力ニ依リ勞働者ト使用者トノ組織的協働ハ英國ニ於テ始リッツアリ

大多數ノ英國製造工場内ニ存在スル工場代表委員（職工長、工場代表者、職工代表、會計方、工場委員、工場長）ハ當該工場ノ勞働者全體若ハ右工場ニ於テ從業中ノ勞働組合員ニ依リテ選定セラレタル代表者ニシテ自由ニ經營ニ參與スルノ權利ヲ有ス

工場委員會（工業委員會、工場委員會、工作場委員會、坑山ニ於ケル坑道主任委員會）ハ「ギルド」制度ノ時以來存在シ而シテ印刷工ノ「職工會」ハ「ギルド」制度ノ最後ノ名殘ナリ（註一）工場委員會ハ其ノ種類多シ此等委員會中ニハ勞働者ノ苦情ヲ調査スルヲ目的トスルアリ出來高拂作業ノ賃銀率ヲ定ムルヲ目的トスルアリ勞働者ノ訓錬及勤惰ヲ監視スルヲ目的トスルアリ物品配給所ヲ經營シ且疾病基金等ヲ管理スルヲ目的トスルアリ時トスレハ右委員會ハ合同委員會タルコトアリ即使用者代表及勞働者代表ノ双方ヲ包含スルコトアリ（註二）又時トスレハ然ラスシテ使用者カ自己ノ代表者ヲ有セサル委員會ノ決議ニ服從スルヲ見ルコト著シキコトアリ重要ナル英國ノ一武器工場ニ於テ其ノ部局員カ審判委員十二名及議長一名ヲ選任シタルコトアリ右審判委員會ハ勞働者ノ訓錬及勤勉ヲ策進セシメタリ（註三）

（註一）工場委員會ハ白耳義ニ於テハ知ラレサル所ナリ

「ガン」亞麻布同業組合幹事「エーマン」氏ハ一八八五年右組合内ニ工場委員會ヲ設置シタルコトアリ本件ニ關シ氏ヨリ余ニ宛テラレシ來翰左ノ如シ

『委員會ハ十二名ノ委員ヨリ成立致候小生ハ之カ議長タリ而シテ理事及他ノ幹事一名ト共ニ小生等ハ使用者ヲ代表致候工場監督ノ代表委員三名竝勞働者ノ代表委員六名有之一年間工場ニ於テ從業シ成年者タル一切ノ勞働者ハ選擧人及被選擧人タルヲ得候第一回選擧ハ三名ノ歸人ヲ指命スルニ至ラシメ候

『勿論融和スルニ至ル迄ニハ二三回ノ會議ヲ重ヌルヲ要シタルモ一旦打チ解ケ候ト共ニ小生等ノ會議ハ各階級間即管理部及現業部間、工場監督及勞働者間ノ關係竝工場ノ利益ノ双方ノ爲非常ニ有用ノモノト相成候

『而シテ小生等ノ會議ノ一ハ特ニ興味アリシモノニ候

『勞働者ハ給料ノ加增ヲ要求シ此ノ問題ハ殆ント總同盟罷業ヲ惹起セントス致候小生ハ工場委員會ニ對シ小生等ノ事業狀態ハヨリ以上ノ給料ノ支拂ヲ許ササル旨說明致シタルモ該委員會ノ勞働委員ハ小生ヲ信セサルモノノ如ク見エ申候此ニ於テ小生ハ小生等ノ帳簿及貸借對照表ヲ提出致候彼等ハ之ヲ自由ニ檢査シタル上納得致候斯クテ小生等ノ工場ニ於テハ作業繼續致候』

（註二）然ルニ此等ノ工場委員會ニ於テハ各個投票タルコトハ至ツテ稀ニシテ各問即一方ニ於テハ勞働者側又他方ニ於テハ使用者側ニ依リ行ハルルカ故ニ全會一致ニアラサレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

（註三）Ministry of Labour, Industrial Report No. 2, Works Committee, 倫敦、一九一八年

英國再建省ニ依リ任命セラレタル「ホウットレー」使用者使用人關係委員會ハ各工業的企業ニ於

テ使用人及使用者各同數ノ代表者ヨリ成ル工場委員會ヲ設立センコトヲ勸告シタリ此等委員會ノ上ニ各産業ニ對シテハ各同數ノ使用者及使用人ヨリ成ル合同地方委員會及合同産業會議存在スルモノトス（註四）

（註四）「ホウウトレー」委員會、第一、第二、第三、第四及最終報告、倫敦一九一七年——一九一八年
從來十三ノ特別保護職業ニ於テハ既ニ賃銀及勞働條件ヲ定ムル一定ノ局存在シタルモ政府ハ勞働組合ニ加ハラサル該産業ノ勞働者ヲ右職業局ニ任命ス
合同産業會議ハ産業全部ヲ包含セサルトキハ臨時産業再建委員會ノ名稱ヲ帶フ

全國使用者及使用人同盟ハ産業別ニ依ル右ノ組織ニ加フルニ各種産業ノ混合組織ヲ以テセント欲シタリ諸地方局竝中央産業局（前者ハ一地方ノ産業全體ニ對シ後者ハ全國ノ産業全體ニ對ス）ハ使用人、使用者及政府ノ各代表者ヲ包含スルモノトス

産業立法機關ハ以上ノ如シ

司法機關ハ妥協局及仲裁局ヲ包含ス而シテ此等ニ確定的常設組織ヲ與ヘントスルノ提案アリ各地方ニ於テ政府ハ優秀ナル辯護士及司法官中ヨリ常設産業裁判官ヲ選任ス右裁判官ハ他ノ一切ノ職務ヲ拋棄スヘキモノニシテ充分ナル報酬ヲ受クルモノトス各種ノ産業ニ於ケル使用人及使用者中ヨリ

査定官數名ヲ選任ス裁決ヲ要スル訴訟事件各件ニ對シテ産業裁判官一名、問題ノ産業ニ屬スル使用人及使用者ヨリ査定官各一名（註五）竝其ノ他ノ産業ニ屬スル使用人及使用者ヨリノ査定官各一名ヨリ成ル審判委員會構成セラルルモノトス

（註五）此等ノ査定官ハ係爭カ主トシテ婦人ニ關スルトキハ婦人タルヘシ仲裁局及妥協局ハ加奈陀、濠州及「ニユー、ジーランド」ニ於テ多ク行ハル後ノ二國ニ於テハ右ハ産業爭議ノ度數ヲ減セサル迄モ明ニ其ノ重大サヲ減少セシメ勞働者モ使用者モ其ノ有益ナルコトヲ確信スルニ至レリ
參看
Marry Theresa Rankni, Arbitration and Conciliation in Austria, 倫敦 Allen Unwin, 一九一六年
The Canadian Industrial Disputes Investigation Act. National Industrial Conference Board, Boston, Research Report No. 5, 一九一九年
Arbitration and Wage-Fixing in Australia, National Industrial Conference Board, Boston, Research Report No. 10, 一九一八年

全國審判委員會ハ同樣ニ構成セラレ上訴ヲ受理スルモノトス

英國ニ於テハ之ノ大計畫ハ既ニ殆ント實現セラレ居レリ

工場委員會ニ有スル諸企業ノ使用人數ハ三百五十萬人ヲ超エ現存合同産業委員會數ハ約六十ナリ

二個ノ有力ナル使用者組合卽産業再建會議及産業同盟ハ一九一九年産業同盟會議ナル名稱ノ下ニ合

併シ右運動ノ爲絶エス宣傳ヲ行ヒ居レリ（註六）中央官廳及地方官廳モ亦該制度ヲ採用シタリ

（註六）Ernest J. P. Benn, Tenle Parliaments and their Work, 倫敦 Nisbet, 一九一八年參看
工場委員會ハ墺太利及獨逸ニ於テハ强制的ノモノトナレリ之ヲ强制的ノモノタラシメントスル法律案諾威議會ニ於テ提出セラレ居レリ

政府ハ一九一九年二月勞働組合、使用者組合及官憲ノ各代表委員ヨリ成ル國民産業會議即眞正ナル産業議會ヲ招集シタリ約六百名ノ議員ヨリ成ル本會議ノ事業ハ第一ニ一切ノ産業ニ於ケル四十八時間制及最低賃銀制確立ノ計畫ヲ齎シ議會ハ此等ノ措置ニ効力ヲ與ヘントシツツアリ右會議ノ遂ケタル任務ハ一般ノ聲價ヲ博シテ右ハ國民産業會議ノ名稱ノ下ニ常設機關タラントスルニ至レリ

畢ニ司法機關ハ一九一九年三月二十九日及十一月二十日ノ法律（産業裁判所法）ニ依リテ制定セラレタリ

常設産業裁判所ハ勞働大臣ノ命令ニ依リ設立セラレ且使用者、勞働者及獨立ノ地位ニ在ル者ヨリ成ル裁判所長又ハ部長ノ地位ヲ充タシ得ル者ハ獨立ノ地位ニ在ル者ニ限ル

該裁判所ハ其ノ手續樣式ヲ決定ス右ハ之ニ提起セラレタル係爭事件ヲ處理セシムル爲其ノ裁判官中ノ一名ヲ指命スルノ自由ヲ有シ且各部ヲ分チ及仮定官ヲ指命スルノ權能ヲ有ス

右ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得レトモ確定判決ノ公示ハ當事者双方ノ同意ヲ得タル場合ニ限ル

勞働大臣ハ又係爭事件ニ關係アル帳簿其ノ他ノ書類ノ提出及證人ノ出廷等ヲ要求スルノ權能ヲ有スヘキ豫審裁判所ヲ設クルコトヲ得本裁判所ノ報告ハ議會ニ呈示セラレ右大臣ノ適當ト認ムル限リニ於テ公示セラルヘシ

右機關全體ハ産業問題ハ政府ノ問題ナリトスル思想ニ基クモノナリ

政府ハ近代思想ニ適應スル爲ニハ代表的政府タルヘク且一方ニ於テハ嶄新ナル産業法典ヲ作成シ且之ヲ看視スル眞ノ立法議會ヲ創設スルニ依リ産業ニ於ケル自治政府タルコトヲ又他方ニ於テハ官憲ハ其ノ今日實施セル制令權ヲ右ノ議會ニ委任シ以テ産業ノ自治政府タルコトヲ實現セサルヘカラス（取意）

要之上述ノ組織制度ハ團體的勞働契約政策ヲ一般化シ組織化スルニ至ラシムルモノナリ

右ハ臨時ニ任命セラレタル代表者ニ依ラスシテ常設機關ニ依リテ討議セラルルモノトス（註七）

（註七）調査委員會報告　一三五——一三九頁

米國ニ於テ同一目的ノ爲ニ執ラレタル措置ハ右同樣興味アルモノナリ

米國ニ於テハ産業ノ民衆化ハ左ノ二樣ノ形式ヲ採レリ

(一)合同工場委員會　使用者及使用人ヨリ成リ勞働條件、勞働時間數及支拂賃銀率ヲ定ム

(二)此等ノ問題ハ使用者及勞働組合ノ代表者間ニ討議セラレ結局ノ取極ハ團體的取極ノ形式ヲ採ル

(之ノ手續ハ團體取引トシテ知ラル)

何レノ場合ニ於テモ絶ヘス相互信任ヲ昂ムル傾向ニ向ヒツツアルモノト認メラレ使用者ハ勞働者、代表ヲシテ自由ニ其ノ帳簿ヲ査閲スルヲ得セシムル由ナリ　(註八)

(註八) William Leavitt Stoddard, the Shop Committee, 紐育 Macmillan, 一九一九年

一方ニ於テハ「フランク、エー、ヴァンダリップ」氏ハ共ニ之ノ誠實ノ風ヲ鞏追スルノ必要ナルヲ主張シタリ「ヴァンダリップ」氏ハ其著書『歐洲ニ何カ起リシヤ』(紐育「マクミラン」社發行一九一九年)ニ於テ「ダンデー」ノ黄麻工業ノ歴史ヲ回想セリ其ノ勞働者ハ度々ノ賃銀增加ヲ要求シタルモ使用者ハ右ハ工業ノ廢滅ヲ齎ラスモノナリテフ理由ニ依リ其ノ都度之ヲ拒絶シタリ然ルニ勞働者ハ度々同盟罷業ヲ繰リ返シタル結果相繼イテ賃銀ノ增加ヲ獲得シ工業ハ引續キ隆盛ナリキ然ルニ究極ニ到達スルノ時ハ來リヌ而シテ更ニ進ンテ賃銀ノ增加ヲ爲シタルニ「インディヤン」黄麻勞働者ノ側ヨリ競爭起リテ三萬人ノ「ダンディー」ノ勞働者ハ業ヲ失フコトトナレリ「産業破滅」ノ議論カ不當ニ衝ク度々繰リ返サレサリシナラハ實際其ノ結果起リシ場合右ノ議論ハ少シハ納得セシムル處アリシナルヘシ

勞働組合代表者ハ屢各種ノ工場ニ於テ企業參加權ヲ有ス吾人ノ知レル所ニ於テハ右代表者ハ重要ナル一葉卷煙草製造所(「ボストン」ノ「ウエート、アンド、ボンド」社)ニ於テ經營ニ關シ實際發言權ヲ有シ居レリ之ノ種ノ例ハ稀ナリト雖其ノ結果ハ優秀ナルモノアルカ如シ　(註九)

(註九) 少シク以前迄ハ「グラナイト」市(「セント、ルイス」)ノ「ニードリングハウス」鐵工場ノ經營者ハ勞働組合ニ反對セス反ツテ之ヲ奬勵シタリ右經營者曰ク「吾人ハ斯クノ如クニシテ使用人側ヨリ一層良好ナル協力ヲ獲得ス」ト

又勞働者及經營者各同數ノ代表者ヨリ成ル仲裁委員會構成セラルルコトアリ右委員會ハ係爭問題及賃銀問題ノ一切ヲ處理ス之ノ制度ハ層一層ト一般的トナリ數百ノ工場ハ其ノ利益ヲ受ケツツアリ

右ノ中ニハ「ヂョン、ディー、ロックフェラー」ノ支配下ニ在ル一切ノ企業(註一〇)、産業便益會社ト合併シタル諸工場、一般電氣會社及世界刈禾機械會社ヲ擧クルコトヲ得

(註一〇)「ロックフェラー」計畫ハ工場委員會ノ構成、仲裁委員會ノ任命及利益分配制ノ設立ヲ許可ス

更ニ進ンテ全然民衆化セラレタル組合アリ例ヘハ「ボストン」ノ「フィレーン」兄弟商會ニ於テハ使用人大會ハ實際上最高ノモノナリ該制度ハ結局使用人ノ生産高ヲ增加セントスルノ要求ニ依リ促進セラレタルモノニシテ吾人自ラ判斷シ得タル所ニ依レハ何レノ點ヨリ見ルモ成功ナリ(註一一)

(註一一)「フィレーン」兄弟商會ハ十一名ヨリ成ル理事會ニ依リ經營セラレ其ノ中四名ハ右商會ノ使用人二千名ニ依リ選出セラル使用人ハ共同組合ヲ組織シ之ニ依リ彼等ハ療養所、食堂、物品配給所、貸借及貯蓄銀行、保險及年金、娯樂、及教育會、圖書館、講話及休日基金ヲ經理ス該組合ハ仲裁委員會ヲ構成スル委員ヲ任命ス蓋シ右委員會ノ決定ハ解雇及罰等ノ場合ニ付テハ絶對的ナリ使用人大會ハ三分ノ二ノ多數アレハ是非ヲ問ハス勞働條件(休憩時間、休日及使用人ノ權利等)ヲ決定ス各使用人ハ一般利益ノ配當ヲ受ケ且進ンテ當該使用人ニ依ル賣上高ニ比例シテ賞與ヲ受ク之ノ制度ハ既ニ十六年間實行セラレ使用者及使用人間ニ存在スル貧富スヘキ協同精神ハ右商會ノ成功ト上ニ著大ナル効果ヲ與フルモノナリ

産業ノ民衆化ハ大統領「ウイルソン」及前大統領「タフト」ノ兩氏換言スレハ米國ニ於ケル二大

政黨ノ代表者ニ依リテ正式ニ推擧セラレタリ右ハ數年ニ亘ル破滅的鬪爭後ノ安定ヲ保障スルモノニシテ立憲的基礎ニ立ツ取極ハ屢々平和ニ導キ一九〇六年ノ取極以來唯一回葉卷煙草製造工ノ小同盟罷業アリタルノミナリ紐育ニ於テハ一九一〇年ノ協約以來被服製造工業ニ於テ唯一回短期ノ同盟罷業アリタルノミナリ蓋シ右ニ付テハ療養問題ヲ說クニ當リ吾人ノ述ヘタル所ナリ又市俄古ニ於テハ一九一〇年使用者人使用人双方ニ依リ仲裁裁判所制度ヲ創設スルノ正式協定（註一二）採用セラレテ以來同シク被服製造工業ニ於テ唯一回短期ノ同盟罷業アリタルノミ

註一二）一九一六年市俄古ノ「ハート、シヤフナー、アンド、マルクス」取極、協定ハ八頁ニ亘リ其前文ニハ目的ヲ述フ右文書類中ニ於テ被服製造工業「王」タル「シヤフナー、アンド、マルクス」會社ハ頭初勞働組合ノ干涉ニ反對シタルモ其ノ意見ヲ變更スルニ至リタル旨ヲ述ヘ其ノ結果ニ滿足シ居レリ右會社ニ依リ勞働部支配人ニ選任セラレタル法學部長「ホーウアード」教授ハ協定書ニ添附セラレタル一論文中ニ產業ニ於ケル專制的制度ノ缺點ヲ論述シ居レリ同教授ハ「オープン、ショップ」（勞働組合員モ勞働組合ニ屬セサル者モ同樣ニ收容スル工場）及「クローズド、ショップ」（勞働組合員ノミヲ收容スル企業）ニ對シ勞働組合員ハ勞働組合ニ屬セサル者ニ先ツテ（他ノ條件ニシテ同樣ナラハ）雇入レ且罷散期ニハ後者ノ後ニノミ解傭セラル「ブレファレンシアル、ショップ」ヲ對抗セシム「ノースウエスターン」大學法學部長ハ法律學生ニ義務ト必要トハ教授ノ所謂「新法律範圍」ヲ開拓スルニ至ラシムルモノナリトノ印象ヲ與ヘタリ右協定ニ依リテ設ケラレタル下級裁判所長「ジェームス「レンバッチ」氏ハ法制ノ運用及其ノ結果ニ付鄭重ナル報道ヲ與ヘラレタリ（余ハ之ノ機會ニ氏ニ對シテ滿腔ノ謝意ヲ表ス）

Charles H. Winslow, Bulletin of U. S. Bureau of Labour Statistic, 一九一六年九月、第一九八號參看

此等仲裁判所中最高ニシテ其ノ判決ハ法律力ヲ有スルモノハ使用者カ取極ノ條項ニ違反シテ定ムル規則ヲ取消スノ權利ヲ有ス該取極ハ勞働組合代表者ニ廣般ナル權力ヲ附與シ最低賃銀ヲ定メ解傭セラレ又ハ賃銀ヲ削減セラレタル勞働者ニ上訴權ヲ與ヘ且又機械ノ進步又ハ新規ノ方法ニ因リ失業者トナル勞働者ニ對スル規定ヲ設ク

一九一九年該取極三年ノ期間附ニテ更新セラレタルトキ勞働時間ハ四十四時間ニ短縮セラレ賃銀ハ八分三厘ヲ增加セラレタリ更ニ該協約ハ合衆國及加奈陀ノ全部ニ亘ル被服製造工業ニ於ケル勞働者ニ擴張セラレタリ

製造家及勞働組合間ノ右ノ團體契約ニ依リテ使用者ト使用人トハ調和ヲ保チテ自ラ「テーラー」制度ニ全ク滿足セル旨表明セリ實ニ產業ノ民衆化ハ先ツ第一ニ勞働者ヲ專門家タラシムル制度ノ必然的歸結ナリテフ意見傳播シツツアリ

吾人ハ自己ノ經驗ニ基キ民衆化セラレタル企業ハ直ニ使用人ノ一層公正ニシテ一層善良且寬容ナル態度ニ依リ認メラルルコトヲ得ルモノナルコトヲ述フルヲ得ルナリ自由ハ好感、好意及滿足ヘノ誘導者ナリ

更ニ右ノ制度ハ勞働者階級ニ產業問題ノ複雜ナルコトヲ示シ使用者ハ一定ノ要求ニハ讓步スル

コト不可能ナルヲ示シ使用者及使用人間ニ共通利益ノ存在スルコトヲ承認セシメ將來ノ社會的產業的心理ヲ形成セシメ以テ勞働者ヲ教育スルモノナリ

權力ノ實施ハ本然性及責任ノ觀念ヲ養成ス實例ヲ以テ示サンカ米國ノ一工場ニ於テハ部局員ノ五分ノ一ニ經營上ノ義務ニ對スル教育ヲ施シツツアリ又他ノ實例ニ依レハ勞働者ニ對シ當該工場ノ產出スヘキ生產高ノ問題ヲ說明スルアリ斯クノ如クニシテ使用人及使用者間ノ關係ハ著シク改良セラル（註一三）

（註一三）John A. Fitch, Making the Boss Efficient, Survey, 一九一七年六月二日

參看　英國北部ノ一工場ニ於テ同樣ノ試ミヲナシタルニ卓越セル結果ヲ齎シタリ

要之反動及無鐵砲ナル反抗アリタルニ拘ラス英米ハ明ニ產業的民本主義ニ傾キツツアリテ兩國ハ「ハーバート、シー、フーヴァー」氏ノ所謂右ノ主義ハ公正且有效ナリテフ事ヲ認メントシツツアリ

『勞働ハ一俵ノ財貨ニハ非ス吾人ハ其ノ協力ニ俟タサルヘカラス』此原則ハ最近二年間米國ニ於テ繰リ返シ繰リ返シ述ヘラレタル處ニシテ「ヴェルサイユ」條約中ニ包含セラレタリ

『吾人ハ勞働者ノ咽喉ヲ摑マンヨリハ寧ロ其ノ手ヲ曳カサルヘカラス』ト紐育「ギャランティー、トラスト」會社副社長「フランシス、エイチ、シスソン」氏ハ述ヘタリ

他ノ實業家ハ余ニ語ツテ曰ク『社會改良ト善良ナル實業トハ一體不二ノモノナリ』ト

『貴下ノ部局員ハ啻ニ貴下ノ爲ノミナラス貴下ト共ニ働カサルヘカラス』ト有力ナル英國ノ製造家「レーヴァーフルム」卿ハ公言シタリ其他英國產業界ノ有力者「キャッドブリー」氏ハ記シテ曰タ『一切ノ產業組合ノ判斷要件ハ協同及好意ノ雰圍氣ノ創造竝發達ノ中ニ存在ス右ハ必ス勞働者階級ノ一致共同ニ好果ヲ齎スニ相違ナキモノナリ』ト

「シーボーム、ローンツリー」氏、「シー、デー、レノルド」氏、「ヒッチェンス」氏其他多數ノ有力ナル製造家ハ同一ノ意見ヲ述ヘ（註一四）之ニ對シテハ全國使用人及使用者同盟モ亦贊成シタリ

（註一四）Edward Cadbury, Experiments in Industrial Organization, 倫敦 Longman, 一九一三年

Hunley Carter, Industrial Reconstruction, 倫敦 Fisher Unwin 一九一七年

S. J. Chapman, Labour and Capital after the War, 倫敦 Murray, 一九一八年

W. L. Hichens, Some Problems of Modern Industry, 倫敦 Nisbet, 一九一八年

Paul N. Kellog and Arthur Gleason, British Re-construction in Europe, 紐育 Boni and Liveright, 一九一九年

Eisha M. Friedmann, Labour and Re-construction in Europe, 紐育 Bulton, 一九一九年

Survey 誌、一九一八年十月五日號及一九一九年三月一日號 參看

英國使用者カ國民產業會議ニ於テ八時間制、最低賃銀制及工場委員會ニ對シテ全會一致贊成投票

ヲナシタルコトハ再述ノ要ナキコトナリ米國商業會議所ハ『資本及勞働間ノ良好ナル關係ハ係リテ産業ニ於ケル代表制度ノ採否ニ在ル』コトヲ宣言シタリ（註一五）

（註一五）一九一九年「アトランティック、シティー」ニ開催セラレタル再建總會

右ノ心的狀態ハ一世紀以上ニ亘リ絶エ間ナク常住ニ社會狀態ノ改良ニ向ヒテ進ミ且歐洲ヨリ米大陸ヘ來大陸ヨリ濠洲ヘ濠洲ヨリ日本及印度ヘ弘布シタル世界的運動ノ所産ナリ　註一六）

（註一六）一八五〇年「トーマス、カーライル」ハ『勞働組織ハ現代ノ世界的問題ナリ』ト述ヘタリ、ウェッブ氏夫婦ノ産業的民本主義ニ關ル著作（Sydney and Beatrice Webb, Industrial Democracy, 倫敦 Longmans Green, 一八九一年）

數名ノ製造家ハ予ニ語ツテ曰ク『右委員會ニ反對スルハ之ニ對シテ心理的誤解及主義上ノ誤解ヲ有スルモノナリ』ト而シテ「鋼鐵王」「チヤーレス、シュウァーブ」氏モ公然之ヲ認メタリ

「シカゴ、ミルウォーキー、アンド、セントポール」鐵道會社支配人代理「イー、エイチ、バーレット」氏ハ本委員會ノ一委員宛ノ書信中ニ記シテ曰ク『使用者カ勞働者ノ生活狀態ヲ一層好ク了解シ且其ノ應セサルヘカラサル社會的及家庭的要求ニ一層好ク通スルニ至ル迄ハ使用者及使用人間ニ滿足ナル關係確立セラレサルヘシ』ト

『今日多數ノ勞働者ハ其ノ能力ノ五割ノ勞働ヲ爲スニ過キス使用者ハ能フ限リ十割ニ近キ勞働ヲ得ルノ手段ヲ見出スコト必要ナリ』『專制的方法ニ依リテハ右ノ結果到達セラレサルヘク右ノ方法ハ從來失敗ニ歸セシメタリ無關心ト敵對ノ精神即産業ノ發生以來賃銀生活者ヲ昂奮セシメ來レル精神（註一七）ヲ和クルニハ勞働ヲ以テ合意的、興味的且報酬的ノモノタラシメ之ヲ劣等トスル觀念ヨリ解放シ私慾的使用（「エキスプロイテーション」）ニ付フハ瑣ノ疑惑ヲモ抱カラサシメ勞働者ヲシテ作業ヲ諒解セシムルノ外ナシ右ノ精神ハ生産高ヲ減退シ物資ヲ浪費シ且機械ヲ破損スルノ結果トナル』（註一八）

（註一七）既ニ西歴紀元前一五〇〇年ニ埃及勞働者間ニ同盟罷業起レリ英國ノ左官ハ十五世紀「カ、カンニー」ノ方法（作業ヲ緩漫ニシテ以テ企業者ニ損害ヲ與フル方法ヲ謂フ――譯者）ヲ行ヒタリ

（註一八）研究委員會報告書、一四一――一四七頁參看

産業ノ民衆化ヘノ右ノ運動ハ獨逸革命後直ニ同國憲法中ニ工業委員會ヲ設クルノ規定ヲ挿入セシムルニ至レリ同一ノ精神ハ伊太利金屬工業ニ於テ勞働者管理運動ヲ起サシメタリ此等ハ二三ノ實例ニ過キス勞働者ノ經濟關係管理ニ於ケル協力カ勞働及生産問題ニ對スル勞働者ノ態度ヲ變化セシムルニ付貢獻スル一切ノ場合ヲ採錄スルハ本調査ノ任務ナリトス

二、出來高拂賃銀制問題

『ビレリー』氏ハ「ゼノア」ニ於テ『各個人又ハ各團體ノ生産ニ比例シテ變動スル賃銀制度ニ對スル勞働者ノ抗議』ニ付述ヘ之ヲ重大ナルモノトシタリ

氏ノ提起シタル問題ハ確ニ勞働社會ニ執リテ最由々シキモノノ一タルト共ニ最「デリケート」ナルモノノ一ナリ吾人ハ各國勞働者間ニ於ケル本問題ニ對スル各種ノ思潮ニ幾分ノ光明ヲ投スルコトヲ得ルノ機會ヲ得タルヲ喜フモノナリ今日吾人カ本問題ニ觸レムト欲セハ最大ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス然レトモ吾人ハ機會提供セラレタルヲ以テ以下三個ノ點ニ付注意ヲ促サムトス

第一ニ勞働者團體ハ最近ニ至ル迄殆ト例外ナク出來高拂賃銀制ニ對シ激烈ナル反對運動ヲナシ來リタリ而シテ右ノ行動ニ出ツルニ付テハ勞働者團體ハ特ニ有力ナル理由ヲ有シタリ

右ノ理由ハ「ウェッブ」夫妻著『産業的民本主義(インダストリアル、デモクラシー)』中ニ述ヘラレ居レハ玆ニハ半世紀以前ニ聯合技師協會ノ爲シタル宣言ヲ引用スルヲ以テ充分トスヘシ

『出來高拂作業ハ取引ニ非スシテ賃銀ハ使用者ニ依リテ定メラレ其ノ欲スル儘ニ低減セラルルモノナルコト明ナリ該制度ハ屢々賃銀ヲ多量ニ低減シ以テ竟ニ勞働者ノ狀態ヲ惡化セシムルノ道具トナサレタリ……老練ナル勞働者アリテ自己ノ熟練ト勤勉トニ依リ其ノ同輩以上ニシテ其ノ日給定額以上ノ收入ヲ得ルニ至ラムカ賃銀ハ低減セラレ進ンテハ最老練ナル者カ非常ナル精勤ヲ以テシテ單ニ純粹生活費ヲ得ルニ過キサルニ至ル迄減少セラレ從テ之ヨリ熟練ノ程度低キ者ハ生活費以下ニ低減セラルルナリ』(註一)

(註一) Beatrice Sydney Webby, Indus/rial Democracy. p. 252

然レトモ其ノ他ノ點ヲモ注意セサル可カラス使用者カ標準賃銀率ヲ低減スルコトハ勞働者團體ノ勢力增大シタルヲ以テ實際不可能ニアラストスルモ餘程困難トナレリ出來高拂作業ニ關スル契約ハ各個ノ使用者ト各個ノ勞働者トノ間ニ爲サルルニ非スシテ使用者團體ト勞働者團體トノ間ニ爲サル而已ナラス勞働者ハ其ノ代表者ヲ經テ契約ノ履行ヲ監視スルノ地位ニ在リ

『故ニ出來高拂作業問題ハ使用者ハ絶對ナルモノトスル制度ノ下ニ在ルトハ異ルモノナルコト明瞭ナリ

第三ニ吾人ハ近年ニ至リ且確ニ前述ノ考慮ニ基キ出來高拂作業ニ對スル勞働者團體ノ態度ハ或ル場合ニ於テ著シク變化シタルコトヲ指摘セムトス

右ニ關シテ佛國ニ於ケル著シキ傾向ハ注意ニ値ス其ノ傾向ハ金屬工組合(Fédération de la métallur-

戰爭ハ致命的ニシテ且不生産的ナリ使用者ハ最少賃銀ヲ以テ各勞働者ノ最大生産ヲ要求スル處ナリ此賃銀

「殆ト凡テノ勞働者階級中ノ智能アルモノカ賃銀値上ヲ要求スルコトハ最遺憾トスル處ナリ

一一三

認ノ一ナリトス右ハ生産制限及怠業ノ直接原因タリシナリ

ニ「伸縮自在ノ賃銀」(Le salaire élastique)ハ従來産業界ニ於テ爲サレタル最惡ナル誤

銀ヲ低下セシメタルモ今ヤ自己ノ代表者ノ出席スルコトヲ得ヘシ而シテ英國ノ勞働組合ハ從來出來高拂作業制

ニ反對シ來リタル如キ實例ハ數百トナク引用スルコトノ條件ノ下ニ之ヲ承認シタル委員會ニ依リ決定セラル

ル勞働者ハ自己ノ賃銀倍增スルニ至レリ」(ハムブレット呼ヒシモノハ興味アル事ニシテ

自己ノ賃銀ヲ倍增スルニ至レリ」(ハムブレット呼ヒシモノハ興味アル事ニシテ

de travail)代表者ト協同ノ上定メラレタリ右ハ勞働者ノ信任ヲ得勞働者ハ作業制限ヲ廢メ生産高

時迄ニ終業シタリ右ノ經營法ハ改正セラレ出來高拂賃銀率ハ「サン、ナザール」勞働交換所(Bourse

テ勞働者ハ日給一定ノ額ヲ超ユル場合ニ於テ經營者ハ一定ノ定ムル支給減少ヲ避ケンカ爲午后五時半ヨリ七

「右ノ現象ハ特ニ「ナントル」ニ於ケル「ロアール」河畔ノ工場及波止場ニ於テ明白ニ顯ハレタル處ニシテ

ニ至ラン

フニ在リ勞働者カ經營及利益ニ參與スルニ至ラハ右ノ考ハ消失シ工場ハ其ノ最大能力ヲ以テ運轉スル

ニ至ラン

二、出來高拂賃銀制問題

ノ中ニ起リタルモノニシテ右組合ハ一九一九年一月出來高拂作業ニ關シ調査スル處アル可キ旨ノ決

議ヲ爲シタリ(註二)

(註二)Fédération des Métaux et similaires de France 發行一九一九年二月二十八日ノ"L'Union des Métaux"及一九二〇年發行ノ小册子"Les méthodes scientifiques appliquées au travail"

同樣ノ傾向ハ白耳義ノ金屬工其ノ他ノ勞働者團體間ニモ認メラルヘシ(註三)

(註三)"The Metallurgist" 一九二〇年六月號參看

隣邊ニテハ最近ノ金屬工會議ニ於テ出來高拂作業制賛成動議ハ僅少ノ差ヲ以テ敗レタリ而シテ英國ニ於テハ何時タリトモ出來高拂作業制ヲ承認スルノ意思ヲ表示セル勞働組合數個アルモ確實ナル保障

ノ附與セラルヘキコトヲ要求シタリ

右全體ノ傾向ハ産業民衆化ヘノ運動ヨリ發生シタルモノニシテ其ノ非常ニ重大ナルコトハ最遺憾トスル處ナリ

看過スヘカラサル此ノ事實ハ吾人ノ既ニ度々引用シタル報告中ニ「ルネ、サン」博士ノ克ク述ヘタル處ナリ

ナリ賃銀ヲ定ムル方法ハ勞働者ノ根本ノ理由トスル處ナリ

要ナルモノナリ勞働者ノ根本ノ理由トスル處ナリ

"賃銀ヲ定ムル方法ハ勞働者ノ屢々故意ニ生産高ヲ制限セントスル處ハ使用者ニ利益ヲ與フルノ企圖ニ關係アルモ結局自己ノ賃銀ヲ減殺スト云ハ非常ニ重

此等ノ件ニ關シ合意ヲ得ルトキハ善良ナル組織ハ勞働時間ヲ短縮シ且賃銀値上ヲ爲シ以テ生產高ヲ增大スルコトヲ得（註四）

（註四）Pierre Hamp, Les Métiers Ulessés. 巴里 Edition Nouvelle Revue française. 一九一九年

「……經營者並部局員間ノ良好ナル關係、公正且人道的ナル管理及產業ノ民衆化ハ吾人ノ既ニ知レルカ如ク生產增加ニ向ハシムルコト大ナリ

「諸君カ勞働者ニ其ノ全力ヲ竭スコトハ自己ノ利益ニ歸スルモノナルコトヲ示シタルトキニ於テノミ諸君ハ勞働者ノ全力ヲ竭シテ勞働セムコトヲ期待スルヲ得ルナリ勞働者ニ於テハ產業ノ爲ニ勞働スルハ自身ノ爲、國家ノ爲且全體ノ幸福ノ爲勞働スルモノナルコトヲ感得スルコト必要ナリ」（「ロイド、ジョージ」）（註五）

（註五）白耳義米國調査委員會報告書　二三〇—二三二頁

三、勞働調節

勞働者ヲシテ其全力ヲ竭サシムルニ强大ナル影響ヲ與フヘキ他ノ一働因アリ其生產高ヲ增進スルモ生產過剩ニ陷ラシメサルノ確證卽是ナリ生產過剩ハ先ツ第一ニ自己又ハ其同輩ヨリ仕事ヲ奪フニ至ルヘシ是勞働者ノ恐レトスル所ナリ勞働者側ノ生產セントスル意思ハ仕事ノ確實性換言スレハ結局ニ於テ勞働調節ヲ豫想スルモノナリ勞働調節ハ經濟機關及官憲ノ考慮ヲ煩ハシ得ルモノノ中最困難ナルモノノ一ナルコトハ疑ナキ處ナリ右ハ生產ノ統括化ノ意味ニ外ナラス且當然需要ノ統括ヲ豫想スルモノナリ生產及需要ノ統括ハ地方的タリ、國家的タリ且世界的タルニ非スンハ眞ニ充分ナルコトヲ得サルモノナリ

本件ニ關シテモ亦白耳義調査派遣委員ハ非常ニ有益ナル多數ノ事實ヲ擧ケタリ

「使用者モ勞働者モ消費者モ產業ヲ「調節スル」コトニ助力スルヲ得

「工場ニ於ケル使用部ノ創設ハ筋肉勞働者ノ更迭ヲ最少ナラシムルト共ニ勞働者ヲ一層好ク撰擇スルコト及之ヲ各種ノ使用ニ一層緊密ニ適應セシムルコトヲ保障スルモノナリ右ハ製造ノ一部門衰退シタルトキニ於テハ勞働者ヲ當該部門ヨリ他部門ヘ轉置スルヲ得セシメ恐慌ニ際シテハ容易ニ勞働時間半

減制ヲ採用シ以テ使用人ノ半數ヲ解傭スルコトナク其全部ヲ留保スルコトヲ得セシメ閑散期ニ於テモ熟練ノ程度低キ勞働者ニ定職ヲ與ヘツツ其ノ多忙時使用組織ニ便宜ヲ與フ右ハ又失業ニ關スル一切ノ問題ニ對スル智識的研究的中心トナル

『使用部竝研究部ハ毎日、毎週、毎月及毎年ノ生産高ヲ詳細ニ記帳スルモノトス其ノ報告ニ依リ經營者ハ閑散期ニ於テ繁忙期ニ要スル在貨ヲ準備シ以テ生産ヲ調節スルコトヲ得

『多數ノ商館ハ數ケ月後渡ニテ注文スル消費者ニ對シ特別有利ノ條件ヲ提供シテ以テ季節ニ依ル生産ノ變動ヲ少カラシメ來レリ若干ノ商館ニ於テハ銘柄ヲ一定シ且通リ一邊ノ顧客ヨリモ寧ロ常顧客ニ應スル爲自營ノ小賣店ヲ開設シ同一結果ヲ得タリ又或ル商館ニ於テハ閑散期中關係商品ノ製造ヲ企ツルコトアリ例ヘハ護謨靴工場ニ於テハ傍ラ印度護謨敷物、護謨靴踵等ヲ製造スルニ依リ生産調節セラル畢ニ技術ノ進歩ヲ計ラハ季節工業ハ一年ヲ通シテ行ハルル工業ト變スルニ至ル冷却裝置ハ從來寒冷期ニ限ラレタル操業ヲ夏期中繼續スルヲ得セシメ煉瓦ノ人工乾燥ハ一年中六ケ月ニ過キサリシ煉瓦製造ヲ十二ケ月ヲ通シテ爲スヲ得セシム

『使用者間ノ協同モ亦良好ナル結果ヲ齎スモノナリ諸工場ハ勞働者ノ交換ヲナシ又ハ之ヲ唯一ノ出處ヨリ求ムルコトニ依リ(「ポストン」ノ使用者ノ場合ニ於ケルカ如ク)敏速ニ一使用者ヨリ他ノ使用者ニ移屬セシムルコトヲ得激忙ナル使用者ハ比較的手許閑散ナル者ニ注文ヲ讓渡シ之ニ依リ後者ハ其ノ使用人ヲ留保スルコト稀ナリトセス

『使用者團體及商業會議所ハ閑散期ノ一時ニ共起セサル樣各地方ニ於テ各種ノ産業ヲ統括スルコトヲ得更ニ進ンテハ競爭ノ制限竝使用者間ノ良好ナル理解ニ依リ銘柄竝生産方法ノ變動ヲ一層僅少ナラシムルコトヲ得

『勞働者者ハ上述セル各種ノ方法ニ付使用者ト協力スルニ依リ且各種職業間ニ過度ニ强固ナル境界線ヲ設クルヲ差控フルニ依リ産業ノ調節ニ貢獻スルコトヲ得工場委員會及合同産業會議ノ創設ハ此等ノ問題ノ解決ニ多大ナル便宜ヲ與フヘシ畢ニ消費者ハ適當ノ時ニ注文ヲ爲シ且繁忙時ニ依リ之ニ差異アルコトナカラシムルニ依リ大ニ失業ノ減少ヲ助クルコトヲ得右ハ米國ニ於テ殊ニ優勢ナル消費者同盟ノ特別目的ノ一ナリ』(註一)(調査委員會報告書二七〇——二七二頁)

(註一)第一回國際消費者同盟會議ハ一九〇八年「ジネーヴ」ニ於テ開催セラレタリ

同一根本觀念ハ此等凡テノ要求ニ通シテ包含セラレ又殆ント各方面ニ於テ同一ノ感情殆ント的確ニ同一ノ言辭ヲ以テ表白セラレタルコトハ閑却スヘカラサル事實ナリトス建築業合同産業會議ハ産業ノ將來ニ關スル問題ヲ考慮センカ爲約一年前倫敦ニ會議ヲ開キ左ノ結論ニ到達シタリ

『委員會ハ生產高制限ニ導ク四個ノ主要働因アルコトヲ報告シタリイ）失業ノ恐怖ロ）私人使用者ノ爲無制限ノ利益ヲ生セシムルコトニ對スル勞働者ノ嫌惡ハ）管理ニ干與セサル爲勞働者ノ產業ニ對スル興味ヲ缺ケルコトニ）經營者及勞働者共ニ能率低キコト即是ナリ此等働因中第一ノモノヲ除去スル爲委員ハ次ノ如ク勸告シタリ

（一）或ル時期ニハ繁忙ニ或ル時期ニハ閑散ナルカ如キコトナカラシムル爲政府及地方官憲ト協力シテ建築ニ對スル需要ノ調節ヲ計ルコトヲ職務トスル地方委員會ヲ設立スルコト

（二）平常季節ニ依ル勞働交換（例ヘハ雨期又ハ天候不良期中失業セル建築勞働者ヲ殖林事業、道路開修、耕地開墾及不健康地帶取毀計畫ニ使用スルカ如キ）ノ可能ナリヤ否ヤヲ研究スル爲他ノ產業ト協議スルコト

（三）賃銀支拂額ニ比例スル各商店ノ寄附金ヨリ成ル失業基金ヲ設クルコト

委員會ハ第二ノ働因ニ對スル救濟策ヲ發見セント企テタルニ勞働者ノ利益分配法ニ不贊成ナルコトヲ見出シタリ依テ委員會ハ產業組織ノ再建ヲ準公務ト認ムルニ至リ左ノ三原則ノ確認ヲ勸告シタリ即――イ）勞働者ニ對スル正常且充分ナル賃銀支拂ロ）所有者兼支配人ニ對シ其ノ能力相當ノ給料ハ）使用資本ニ對スル正常且制限付ノ利潤率　其ノ他餘剩利得ノ利用、比例價格決定ノ組織及方法ノ促進ニ關スル勸告アリタリ該委員會ニ於ケル勞働者ハ全部報告書ニ署名シタルモ八名ノ使用者中五名ハ右提案中ノ或ルモノニハ贊意ヲ表シ乍ラ何等重要ナル留保ヲモ爲サスシテ署名スルノ學ニ出テサリシコトハ注意スヘキコトナリ此等使用者中二名ハ會議ニ於テ幾分反對ノ意ヲ表白シタリ而シテ結局委員會ヲシテ進テ報告書中ニ含マレタル諸原則ノ及ホスヘキ有ユル効果ヲ審査セシムルコトニ一致シタリ』

右ノ敍述ニ加フルニ吾人ハ「ペルリン、シュワインベルヒ」ニ於ケル『人民建物』社支配人「ワグナー」氏ノ言ヲ以テセントス

氏曰ク『吾人ノ建物作業ニ於テ操業上ノ成功ハ明白ニシテ最近伯林ニ於ケル出來高ハ戰前ノ平準ヲ越エタリ』（註二）ト

（註二）一九二〇年九月廿九日發行 Het Volk 誌ヨリ引用

勞働者ノ努力ハ半ハ經營自己ノ管理ノ下ニアル工場ノ爲勞働スルコトニ滿足セルニ基キ半ハ作業レ自身即人民ノ爲ノ建築ニ興味ヲ感セルニ基ク

四、器具ノ改良

器具ノ改良ハ生産額增加ノ手段トシテ特ニ重要視セラレタリ吾人ハ玆ニ佛國ノ一大製造家ニ依リ作成セレタル報告書ヲ有ス左ノ特色アル數節ハ匡正ノ要アル現狀及之ニ對スル抗議ノ精神ヲ併セ示スモノナリ

『筋肉勞働ハ到ル處ニ於テ一切ノ合理的限界ヲ超エテ行ハル一切ノコト筋肉ノ力ニ依リテ爲サレサルナク一輪手車及「シャブル」ハ已然トシテ「國民的道具」タリ

穴ヨリ掘上ケラルル砂礫アリト假定セヨ「シャブル」ニテ砂礫ヲ一輪手車ニ入レ（人夫一人）穴ノ入口マテ一輪手車ヲ挽キ行キ（人夫一人）「シャブル」ニテ砂礫ヲ荷馬車ニ入レ（人夫一人）停車場マテ運搬シ（人夫一人馬二頭）「シャブル」ニテ荷馬車ヨリ貨車ニ移シ（人夫一人）到着驛ニテ「シャブル」ニテ貨車ヨリ荷馬車ニ移シ（人夫一人）買手ノ門前マテ運搬シ（人夫一人馬二頭）門前ニテ一輪手車ニ移シ（人夫一人）而シテ終ニ使用セラルヘキ地點ニ卸スヲ見ルコトハ今日ニ於テモ難事ニ非ス總計人夫八人馬四頭ナリ

生産者ト買手トノ間ニ卸賣商人アルトキハ右全體ノ作業再ヒ始マリ斯クテ穴ニテ一立方米五十「サンチウム」ノ價格ナリシ砂礫ハ買手ノ許ニ到着スル時マテニハ四十法ノ價格トナル

穿鑿機ヲ用ヰ（人夫一人ニテ之ヲ運轉シ且直接自動揚卸貨車ニ移ス）又ハ一臺ノ運搬機ヲ穴ト停車場トノ間ニ運轉セシメ停車場ニハ高架積荷場ヲ設ケテ自動揚卸貨車ヨリ其ノ積荷ヲ鐵道貨車ニ打明ケ（人夫一人ニテ運搬シ且打明ク）貨車自身ハ高架線ヨリ「トロッコ」ニ打明ケ「トロッコ」ハ直接目的ノ地點ニ運搬ス（人夫一人）レハ至極單純ナルニ何タル時間ト勞力トノ空費ソヤ總計人夫三人極メテ敏活ニ且凡テハ最少時間中ニ爲サル

停車場、港、市街工場ニ於テ機械ノ助力ハ根本的ニ重要ナルモノナリ昇降機、起重機、運搬機ハ缺乏セルニ非ンハ不充分ナリ線路ト積荷場トハ同一ノ水準上ニ在リ貨車ハ深キ考案ヲ須キスシテ製作セラル

此ニモ亦産業ニ於テハ其ノ資本ト其ノ利益トヲ機械ノ更新及改良ノ爲使用セシメ且右ノ如ク使用セラレタル資本及利益ニ對シ課稅免除ヲ規定スル會計法ヲ制定スルノ必要アルカ如シ』

斯クノ如ニシテ勞力ハ能フ限リ之ヲ節約シテ機械力ハ出來得ル限リ之ヲ利用スヘキナリ右ハ個人企業ニ於ケル主眼點ニシテ勞働者ノ道具及　械ヲ所有スル場合ニ於テハ更ニ然リトス

能フ限リ水力ヲ使用シ、可航路ノ供給スル交通機關ヲ能フ限リ完全且巧妙ニ利用シ、鐵道ト運河ト

ヲ調整スル等ニ依リ世界ノ利益ノ爲最高額ノ生産高ヲ得ルニ至ルヘキナリ

五、爲替率竝原料

爲替及原料ノ問題ハ理論的討究ノ問題トナルモノナリ本問題ニ付提起セラレルタル凡テノ解決法ハ國際聯盟ニ據ルモノノ如シ最近白耳義内閣總理大臣ハ金貨取引ニ代リテ國際取引ニ確固タル基礎ヲ與フヘキ紙幣ヲ各國ノ不動産ヲ擔保トシテ發行スル國際的機關ヲ國際聯盟ノ下ニ創設センコトヲ請ヘリ數ヶ月以前同一目的ノ立場ヨリ坑夫總會ハ原料ニ關シ左ノ決議ヲ通過シタリ

國際坑夫總會ハ一九二〇年八月二日「ゼネヴア」ニ於テ開催セラレ且其ノ翌日燃料、鑛石其ノ他ノ分配不良竝何レノ方面ニ於テモ行動ノ充分ナル自由ヲ與ヘラレタル射利及投機ヲ考慮シ又右ノ如キ狀態ヨリ生スル全人民ノ貧困ヲ考慮シ

一切ノ國民ノ日常經濟生活ノ更新ニ缺クヘカラサル燃料、鑛石其ノ他ノ原料ノ分配ノ爲成ル可ク速ニ國際事務局ヲ設立スヘキコトヲ希望シ且

國際坑夫組合ノ代表委員ニ依リ呈示セラレタル右緊急要求ニ付特別ノ考慮ヲ爲サンコトヲ國際勞働事務局ニ要求シ且

能フ限リ速ニ國際坑夫組合ノ執行委員會ト協力シ且國際聯盟ノ各部局ノ助力ヲ得テ右要求ニ應酬ス

ルノ事務ヲ之ニ依託ス

右決議ニ先ツテ同盟國及中立國ノ産業組合ハ左ノ綱領ヲ採澤シタリ

一、同盟國委員會ヲ改造シテ世界ノ資源及各國ノ要求ニ從ヒテ諸國民間ニ食料品ヲ分配スヘキ國際食料品委員會ト爲スコト

二、共同輸入ニ係ル財貨及其ノ他一切ノ商品ヲ公正ナル價格ニテ平等ニ分配スルコトヲ保障スル爲各國ニ於ケル公共團體及生産組合間ニ一致協力アルコト

三、國際委員會ヲ調整シ且指揮スル爲食料品ニ關スル國際經濟及統計事務局ヲ創設スルコト　各國ニ於ケル要求、資源並生産及消費ノ狀態ヲ知悉スルニ依リ該事務局ハ諸國民ノ經濟的協働並其ノ間ニ於ケル作業分配ニ備フル處アルヘシ

以上ノ例示ハ輿論ノ傾向及現狀ノ重要ノ程度ヲ示スニ足ラン

第四編　調査計畫並質問書

一、調査計畫

第一編　事實

一、調査範圍

一、地理上――報道ヲ得ルコト可能ナル一切ノ國

二、産業上――分類――撰擇　農業的生産ヲ考慮セラレタシ（穀類、砂糖大根、綿、家畜等ト左項トノ關係

(イ)一般消費

(ロ)工業的生産

二、生産統計

世界ニ付テ――各國別（統計ヲ得ルコト可能ナル一切ノ生産品ニ對シテ）

一九〇四年――一九一三年ノ十年間

戰　時

現　在

生産減少ノ問題

右問題ニ依リ影響ヲ受クル工業ノ主要分科ヲ示サレタシ

右問題ノ限界

或ル工業ニ於テ何等カノ新情況ノ徵候アリヤ

調査ハ統計ノミニ限ラス生産ノ變動ノ探究ニ資スル有ユル種類ノ資料ヲ包含スルモノトス

三、勞働者一人ノ生産　以上ハ減退セシヤ

公刊統計資料分析ノ必要

例ヘハ――地上勞働者ノ生産ト坑内勞働者全體ノ生産トヲ區別シタル鑛山ニ於ケル平均生産率、地上及坑内全體ノ勞働者ノ鑛山ニ於ケル平均生産率

勞働者總數ニ對スル右平均ノ不均衡、他方ニ於テ機械的設備ニ於テ生スヘキ變化ヲ考慮ニ置クノ必要

一日ノ生産額、一時間ノ生産額

明確ナラシムルヲ要スル諸點ニ關スル事務局ノ直接調査

四、需要ノ變動

考慮期間ニ於ケル需要ノ變動、戰爭及平和ノ基礎的生産物ニ對スル需要ニ及ホセル影響

『生活必要品』及『生活程度』ニ生スル變化

新慣習、其ノ起源、例ヘハ兵士ノ一日食糧、引拂家族ノ生活狀態

牛肉竝其ノ他多數ノ食料品竝被服及住宅用品ノ一人宛消費高ヲ判定セラレタシ

右ノ點ハ後ニ至リテ研究セラルル問題ト關連ス（第二編、五、（二、ロ））

五、物價統計

現存統計資料ノ敍述

相互關連點ヲ考慮シテ爲ス生産及需要統計資料ノ併行研究

物價ノ立場ヨリ見テ多數ノ國ニ於ケル多數ノ生産物ノ生産及分配ノ一切ノ段階ヲ研究セラレタシ

第二編　事實ノ說明

一、物　資

物資缺乏ニ因ル生産停止（吾人ハ玆ニハ動力竝所謂原料ヲ齎ス物資ヲ意味ス）

何レノ國ニ於テナリヤ、何レノ工業ニ於テナリヤ

原料不足ノ諸原因
戰前ノ在貨――戰爭ト原料ノ破壞――
過不足ナキ在貨恢復ノ問題、原料ノ生產及販賣ノ爲ノ國內及國際「トラスト」
其ノ物價政策
經濟的「マルサス」主義ノ問題、一九〇四年乃至一九一三年、戰時及現在ニ於ケル世界ノ原料生產統計
右三時期ニ於ケル各國間ニ於ケル其ノ分配――分配ノ方法
水力、全世界ニ亘ル其ノ分布、其ノ價値
其ノ利用法

二、運　輸

各國ニ於ケル運輸狀態ニ關スル一般觀念
運輸材料
道路及水路
三時期ニ於ケル狀態
各國別ニ依ル研究
運輸能力減退ニ由ル生產不足、苦情
商業會議所、消費組合等ノ報告書ノ蒐集
其ノ攷究
斯クアリタシト明ニ希望セラレタルモノ
障　害
各國ニ於ケル鐵道ト內地水路トノ調整――其ノ一ヨリ他ヘ積換エラルル噸數ノ重要
國際運輸
貨物ノ變動

三、爲　替

イ、原料ノ供給及機械ノ獲得ニ關連シテ
ロ、商品ノ處分ニ關連シテ
事實　商業會議所及其ノ他ノ經濟團體ノ宣言
爲替問題ノ諸働因――三時期ニ於ケル國際商業ノ變動――戰時公債――通貨膨張――其ノ他ノ諸働因

交戰諸國側ニ於ケル戰時中ノ國際信用、其ノ結果

休戰以後

四、資本——信用

資本ノ利用ニ關連スル生産減少ノ問題

三時期ニ於ケル各國ノ信用

其ノ組織　信用缺乏ニ因ル生産ノ停止

五、機械設備

戰爭並其ノ機械設備ニ及ホセル影響

一、荒廢地帶、救濟委員會刊行物ノ攷究

能フ限リ一切ノ事實ヲ蒐集スルコト

二、機械設備再設置ノ緩漫、機械設備ノ評價減損

三、設備不良工場ノ自然的排斥ナキコト

然レトモ右ト反對ノ側アリ卽戰爭ト機械設備ノ發達又ハ其ノ改良　新工場　新工業　周密ナル敍述ノ必要

二個ノ問題

イ、戰時設備ノ平時工業ニ對スル現在ノ價値　右ハ豫期ノ如クナリ居ルヤ、工場ヲ平時工業ニ適應セシメ又ハ之ニ復歸セシムル作業

ロ、戰前ノ經濟關係恢復後開始セラレタル諸工業ノ價値

右ハ屢『人爲的』ナラサルヤ且其ノ機械、物資又ハ勞働者ハ其ノ取リテ代リタル以前ノ外國工業ニ於ケル其等ノモノニ比シテ劣レルコトナキヤ

右ハ世界勞働生産額減退ノ働因ニ非サルヤ

國際的分業ニ於ケル反響

六、勞働ニ關スル諸原因

(一)、失ハレタル勞働者

戰爭ト其ノ人上口ノ結果

イ、殺戮セラレタル者及失踪者

ロ、勞働能力ヲ失ヘル不具者

一般統計、職業統計、國內及國際ノ一切ノ公文書ノ分析　然レトモ一方ニ於テ新勞働者ヲ考慮セサ

ルヘカラス（婦人、老年者、兒童、地方者、家庭ヲ離レタル者、外國勞働者等）

統計

(二)勞働者ノ生產能力減退ノ實例

イ、癈兵ノ作業

其ノ產業的訓練　其ノ結果

癈兵ノ義務使用

ロ、公表セラレサル勞働能力減退ノ實例、現業ニ基キ定メラレタル各種ノ無能力

三時期ニ於ケル疾病及素行ノ一般研究——流行病

各國別ニ依ル研究

交戰國

中立國

研究資料ノ現狀

現在ノ統計ハ何レノ時期ニ至ル迄遡ルヤ

世界又ハ諸國全體若ハ國內ノ最近統計ヲ缺クトキハ地方統計又ハ各團體ニ關スルモノヲ考慮セラレタシ

大產業團體竝共濟組合ニ於テ作成シタル其ノ會員ノ疾病及素行ニ關スル統計表（疾病基金等）ノ蒐集

右問題ト勞働者ノ經濟狀態問題トノ關係

考慮期間ニ於ケル賃銀ノ昂騰

右ト相對シテ生活費ノ變動

(イ)食料

(ロ)住宅

使用セラレタル物價指數ノ比較價値

右問題ノ周密ナル檢討的攻究

國際統計統括綱目起草ノ委任ヲ受ケタル國際老練者委員會ニ提出セラルヘキ問題

國際勞働事務局ニ依リ爲サルヘキ提議

三時期中各國ニ於ケル賃銀ト生活費トノ比較

勞働團體ノ苦情（國際坑夫會議ノ國有及勞働條件ニ關スル討議參看）

其ノ他ノ團體ニ對スル同樣ノ調査

勞働者ノ食料トノ關係ヨリ見タル勞働生産額

調査ハ全然一般的性質ノモノタラサルヘカラス然レトモ侵略セラレタル地方又ハ封鎖ヲ受ケタル國ニ付テハ特別ノ考慮ヲ爲スヲ要ス

或ル場合ニ於テハ實驗試ミラレタリヤ

右ヲ爲スコトハ可能ナリヤ

骨折仕事拒否ニ對スル科學的措置

ハ、産業能力減退ノ原因トシテノ戰時中ノ作業休息

ニ、新勞働者階級ノ産業上ノ價値

必要ナル凡テノ區別ヲ爲シテ階級別ニ依リ研究セラレタシ

ホ、戰爭ト年期奉公――考慮期間ニ於ケル年期奉公、職業教育及一般教育

(三)、勞働時間ノ短縮　八時間制

一般的敍述

法定勞働時間ト實働時間トノ差違

比較期間、一九一三年

戰時中

戰後

八時間制ニ依リ各國各産業ニ齎ラセル實際ノ變化ニ注意セラレタシ

或國ニ於テハ八時間制以前ニ行ハレタル制度ノ下ニ於ケル勞働ノ不規則

各國ニ於ケル一年ノ通常勞働日數、歐米ニ於ケル右問題ノ詳細ナル研究

八時間制問題ニ對スル其ノ態度

其ノ基礎ハ牢固ナリヤ

八時間制及其ノ戰前ノ結果

産業組合、公營事業竝資本家企業ヲ考慮セラレタシ

(四)、同盟罷業

件數及範圍、右ニ依ル休業日數

(五)、鎖　出

右ト同一問題

(六)、勞働ノ危機（勞働不足）

イ、事實――統計（產業及國家別）

態率低下ハ量的ナリヤ質的ナリヤ

ロ、左ニ關シテ

1　新勞働者階級

2　其ノ產業上ノ價値

勞働者缺乏ヲ最モ多ク感セル方面

農業ナリヤ、工業ナリヤ、一般商業又ハ專門的商業等

原　因

戰前及戰後ニ於ケル地方人出稼及歸農ノ重要程度比較

（七）、失業問題

（イ）三時期ニ於ケル使用勞働者數

（ロ）失業者數

强制セラレタル失業ニ依リ休業セル總勞働日數

（ハ）失業ノ割合

統計ノ比較價値（官憲ノ資料、勞働者團體ノ其ノ會員ニ關スル資料等）

各國間ニ於テ正確ナル比較ヲ爲スヲ得セシムル方法ノ決定

『失業』ナル用語ハ戰前ト同一意義ヲ有スルヤ

戰時中失業トシテ取扱ハレタル者ニシテ未タ統計書中ニ現ハルルモノナキヤ

失業ニ關スル諸働因

戰　前

現　在

（八）、『各個人又ハ各團體ノ生產額ニ從ヒ異ル賃銀制度』ニ對スル勞働者ノ反對

（「ビレリー」氏ノ動議ノ基礎ノ敍述）

右反對ノ限界

一定ノ場合ニ於ケル右ニ反スル態度（例ヘハ一九一九年ノ佛國金屬工ノ決議）

生產額ニ及ホス其ノ影響ト關連シテ勞働ニ對スル各種ノ支拂制度、時間拂制、出來高拂制、各種ノ賞與制度ノ研究

（九）、勞働ニ關スル其ノ他ノ原因

以下ノ點ニ對シテ特別ノ注意ヲ拂フコトヲ要ス

七、心理的竝道德的働因

科學的撿討ニ付スヘキモノトスル觀念

『惰氣ノ浪』『戰時厭怠』『生產嫌惡』

戰時中ニ於ケル避難者ノ心理

被征服國民衆ノ現在ノ心理

精力ヲ失ヒタリヤ、制度ノ破壞如何

然レトモ他方ニ於テ或ル勞働社會ニ於テ生產問題ニ對スル興味增加ヲ示セル諸事實

佛國ニ於ケル勞働總同盟（C、G、T、）ノ勞働經濟會議

現代社會運動ニ於ケル產業民衆化論及產業國有論ノ地位

各方面ニ於テ『如何ニシテ吾人ハ再ヒ勞働者ニ生產ニ對スル興味ヲ與フヘキカ』ト問ハルル問題

問題ノ他ノ一面

使用者間ニ『企業精神ノ危機』アリヤ

失費多キ經營ヲ所罰スヘキヤ

機械設備ノ範圍ニ適用セラルル利益課稅ノ問題

八、其ノ他ノ原因

以上列記セル處ニ觸レサル諸點

第三編　提起セラレタル解決法ノ撿討的研究

一、考慮セラレタル諸原因中ノ一若クハ其ノ他ニ關スル特別ナル解決法

(一)、物　資

(二)、運　輸

(三)、爲　替

(四)、信　用

(五)、機械設備

(六)、勞働生產額及勞働者ノ經濟狀態

(七)、勞働時間制

(八)、勞働事故（同盟罷業及鎖出）

(九)、勞　働

(十)、失　業

(十一)、或貨銀制度ニ對スル勞働者ノ反對

(十二)、心理的竝道德的諸原因等

二、系統的竝一般的解決法

社會ニ於ケル勞働生産額增進ノ爲國家的竝世界的見地ヨリ提起セラレタル一切ノ方法ハ發表セラレ且攻究セラルヘシ

例ヘハ勞働ノ科學的統括、勞働者ノ選擇及其ノ實業敎育、國內及國際ノ使用事務局設置、移民問題、原料ノ需要及分配ノ統括竝國際信用開始等ニ關スル各種ノ提案

左ノ諸點ハ連續シテ攻究セラルヘシ

イ、操觚者及學者ノ提案

ロ、經濟團體ノ決議（商業會議所、勞働組合、産業組合、失業防止協會、消費者同盟等）

ハ、議會及政府ノ計畫書

ニ、進ンテ既ニ實行セラレタル實例ニ關スル一切ノ文書ハ之ヲ蒐集シ且其ノ結果ヲ明ニスヘシ

例ヘハ戰時中交戰國双方ニ於ケル國際經濟協力、戰時中ニ於ケル世界ノ制度及其ノ職能

中央食料品供給機關

原料ノ不足ニ關シテ

其ノ最經濟的ナル利用ノ爲執ラレタル措置ノ攻究

爲替ノ現狀ニ對抗スル爲執ラレタル實際的手段、一國ハ他國ニ對シ原料ヲ供給シ之ニ對シテ勞働ノ供給ヲ受ク（例ヘハ米國ヨリ「チエッコ、スロヴァキヤ」及「ノォラールベルグ」ヘ棉花ヲ供給シ代リニ紡絲ヲ得）米國及英國ハ特ニ右ノ手續ヲ採用スルモノノ如シ

右種類ノ一切ノ實例表

諸國間ノ物々交換（公式及非公式ノ）（吾人ハ右ニ依リ一方ニ於テハ物々交換ハ政府又ハ其ノ保護ノ下ニ行ハレ他方ニ於テハ私人ニ依リ自己ノ發意ニ基キ且自ラ危險ヲ負擔シテ行ハルルコトヲ知ル）

産業ヲ發達セシメンカ爲ノ諸國間ニ於ケル信用ノ開始竝其ノ爲替ニ及ホス效果等

二、勞働者並使用者團體ニ對スル質問書

一、事實

イ、生産一般——

戰後ニ起リタル諸變動

貴團體所屬ノ産業ニ於テ生産減少ノ問題アリヤ

本項及以下諸項ニ關シテハ出限得ル限リ次ノ三時期ニ付考慮セラレタシ

戰前（一九一三年若ハ戰爭ノ五年又ハ十年前）、戰時中及現在

現狀ニ於テ右減退ノ徵候アリヤ又ハ生産過剩ノ危險ノ徵候アリヤ

ロ、勞働者一人ノ生産ハ減退シ居レリヤ

同一物品ノ生産ニ從事スル勞働者各等級間ニ區別ヲ設ケラレタシ

一日ノ生産額

一週ノ生産額

若シ出來得ルナラハ一年ノ生産額

二、事實ノ說明

貴團體ノ御意見ニテハ左記諸原因ハ危機ノ說明ニ對シ如何程重要ナルモノナリヤ

一、物資ノ不足

二、運輸ノ不足

三、爲替問題

四、資本獲得ノ困難

五、市場ノ缺乏

六、機械設備ニ關スル諸働因

七、其ノ他ノ一般的ナル諸働因

八、勞働ニ關スル諸働因

勞働働因ノ關スル範圍內ニ於テハ左ノ諸點ヲ順次ニ考慮セラレタシ

一、動員ノ效果

二、殺戮セラレタル者及失踪者（若シ出來得ルナラハ統計資料）

三、如何ナル勞働能力ヲモ失ヘル不具者（若シ出來得ルナラハ統計資料）

四、間隙ヲ充タス爲新勞働者階級生シタリヤ（婦人、老年者、兒童、田舍ノ人、移住人、外國人、有色人勞働者等）。其ノ產業上ノ價値

五、不具者ノ作業。其ノ生產額。右ハ法規ニ依リ取締マラレ居ルヤ

六、貴團體所屬勞働者ノ生活狀態ニ起リタル變化、住宅食料品等ニ關スル狀態。生活費

七、賃銀。從來起リタル變動、賃銀ノ變動ト生活費ノ變動トノ關係

八、勞働者ノ健康。苦シ出來得ルナラハ疾病及死亡統計（一切ノ公文書ヲ送ラレタシ）

九、人々カ戰時中其ノ作業ヲ離レタルノ事實ハ產業能力減退ノ上ニ效果ヲ齎ラシタリト思考セラルルヤ

十、戰爭ノ年期奉公、職業教育及普通教育ニ及ホシタル效果

十一、勞働時間短縮、其ノ長サ、其ノ意義（若シ出來得ルナラハ之ト戰前ニ爲サレタル他ノ勞働時間短縮トヲ比較セラレタシ）

十二、同盟罷業及鎖出ノ意義、其ノ統計、特ニ此等二ツノ理由ノ一又ハ二ニ因リ休業シタル勞働日數

十三、貴團體ニ於テハ勞力問題アリヤ（勞働者ノ不足）

缺乏ハ量的ナリヤ又ハ質的ナリヤ、其ノ結果

十四、失業、其ノ割合、失業ニ因リ休業シタル日數

十五、貴團體ニ於ケル現在ノ各種賃銀制度　勞働者ニ於テ各個人又ハ各ノ團體生產額ニ比例シテ變動スル賃銀制度ニ對スル反對アリヤ（出來高拂作業、賞與制度等）

勞働者團體ニ對スル特別質問——

本問題ニ關シ貴勞働組合ニ於テ何等カノ討議アリタリヤ

現存ノ凡テノ材料ヲ送ラレタシ（勞働組合雜誌上ノ諸記事、會議ニ於ケル討議等）

十六、心理的又ハ道德的要素カ生產減少ノ危機ニ付何等カノ役目ヲ爲シタリト思考セラルルヤ

三、對　治　法

如何ナル措置カ問題ノ解決ヲ助クヘキヤニ付テノ貴團體ノ意見如何

之ニ關連シテ本質問書ニ述ヘラレタル各種ノ件若ハ貴團體ノ最重要ト思考セラルル諸件ニ付考慮セラレタシ

三、産業組合ニ對スル質問書

甲、組合生産

（組合生産トハ茲ニハ消費組合及特ニ其ノ卸賣機關ニ依リ統括セラルル生産ノ意味ニ用ラレタリ生産者團體附屬ノ自治生産組合及農業生産組合ニ對シテハ特別ノ調査遂ケラルヘシ）

一、組合生産額ニ對スル統計報告

（イ）、一九一三年以降毎年ノ卸賣協會工場（又ハ其ノ農場）ノ生産價額合計及之ニ依リ使用セラレタル筋肉勞働者及精神勞働者ノ合計數

（若シ出來得ルナラハ組合生産ノ主要各分科ニ對シ各別ニ右同樣ノ報道ヲ與ヘラレタシ）

（ロ）、加入協會換言スレハ協會ニ依リ其ノ生産ノ大部分吸收セラレ且其ノ資本持株ノ大部分所有セラル協會ト連絡アル工場又ハ農場ニ關スル右同樣ノ報道

（ハ）、若シ出來得ルナラハ小賣協會ニ依リ直接經營セラルル生産ノ諸分科ニ關スル右同樣ノ報道ヲ送ラレタシ

二、組合生産ノ發達ヲ促進シ又ハ阻碍シタル諸原因

（三時期卽戰前、戰時中、戰後ヲ區別セラレタシ）

（イ）、原料、原料缺乏ニ因ル生産ノ停止又ハ其ノ衰退、原料缺乏ノ諸原因（運輸ノ亂脈、「トラスト」、輸入ノ困難、關稅、爲替、運賃等）

（ロ）、設備及機械、戰前竝戰後ニ於ケル機械竝設備ノ取得狀態、戰時中破壞セラレタル設備及機械ノ修復ニ於ケル現在ノ困難

（ハ）、勞働、補充ノ困難（不熟練竝熟練勞働）

（ニ）、資本、生産發達ノ爲ニ用ヰラルル資本ニ關スル産業組合ノ要求、産業組合ノ財産狀態（持株、積立金、組合債務）、組合員ノ貯金ニ對スル要求、官憲ニ依ル財政上ノ補助（國家自身ニ依リ又ハ其ノ補助ヲ以テスル産業組合ノ信用組織）

（ホ）、戰前戰後ニ於ケル原價、其ノ各種ノ要素——賃銀、原料ノ價格、資本ニ對スル利潤、租稅等、産業組合ト個人企業トニ於ケル原價及賣價ノ比較（若シ出來得ルナラハ多數ノ生産品ニ付生産及流通ノ各段階ヲ示サレタシ）

（ヘ）、戰前及戰後ニ於ケル勞働者一人ノ生産

勞働者ノ事業上ノ價値、戰爭ノ作業ニ對スル適應性及愛好性ニ及ホシタル影響

報酬制度、時間拂賃銀制、出來高拂賃銀制、賞與制、利益分配制及損益分擔制
組合企業ノ實驗ニ據ル各種報酬制度ノ比較
勞働時間、勞働時間短縮ノ一日及一時間ノ生産ニ對スル影響、若シ出來得ルナラハ或組合企業ニ於テ戰前八時間制（又ハ勞働時間ノ短縮）ノ採用ニ依リ得ラレタル結果ノ的確ナル詳細ヲ示サレタシ

（ト）、消費者ニ依ル生産ノ管理並指揮、生産ヲ的確ニ需要ニ適應セシムルニ因リテ生スル節約額、生産ノ或ル分科ニ於ケル組合企業ハ個人企業ヲ惱マシタル失業ノ窮境ヨリ脱シタルコトアリヤ
使用人、技術幹部及消費者ノ選任シタル會議又ハ委員會間ノ關係、勞働者ノ經營參與問題ニ對シテ生産組合ノ執リタル態度（工場會議）、其ノ實驗ノ結果
（何レノ組合工場ニ於テ正確ナル報道就中（ハ項及ト項ニ對スルモノ得ラルルヤヲ述ヘラレタシ）

乙、生産品分配ニ於ケル産業組合ノ職能

（イ）、一、生産品分配ニ於ケル組合ノ重要ニ關スル統計報告
一九一三年以降毎年ノ卸賣協會異動數
（ロ）、卸賣協會ニ加入セル小賣協會ニ關スル右同樣ノ報告（及若シ出來得ルナラハ全國ノ小賣協會全體ニ對シテ）

（ハ）、卸賣協會及小賣協會ニヨリテ取扱ハルル主要消費商品ハ何ナリヤ（下記二ノニ）（ニ項參看）
二、食料品供給ノ危機
（イ）、物價騰貴（全國一般ノ騰貴、一地方限ノ騰貴）組合ノ生活費調査、産業組合ノ行動ニ依ル物價調節
（ロ）、工業關係者殊ニ新ニ戰時中又ハ戰後ニ生シタル産業ノ中心ヲ形成スル者ノ生活ヲ保障スル爲ノ消費組合ノ特別行動、産業組合、勞働者及製造家間ノ關係
（ハ）、消費組合ト中央及地方食料品供給公共機關トノ關係、食料品供給ノ爲官憲ト關係アル消費者ヲ代表シテ公共機關ノ民衆ニ與ヘタル勞務ノ效果並取締、徵發及租稅ニ關シテ執ラレタル措置ニ關スル組合員ノ意見
（ニ）、廣ク消費セラルル一定ノ商品（麥粉、「マカロニ」、牛肉、脂肪類、葡萄酒及其ノ他ノ飲料、衣服、長靴及短靴）ニ關スル供給ノ特別ナル困難
（ホ）、消費者ノ需要ノ制限、動員又ハ人民移住ノ結果トシテ慣習ノ變化（例ヘハ葡萄酒、「チヨコレート」ノ消費）消費者ヲシテ一定ノ生産物（例ヘハ冷藏牛肉類）ヲ嗜好セシムル爲産業組合ノ執リタル

行動

(ヘ)、運輸問題アリタル爲産業組合ノ經驗シタル食料品供給ノ困難、産業組合ノ國有計畫ニ對シテ採リタル態度

(ト)、一定ノ商品ニ關スル國内生産ノ減少―其ノ原因

(チ)、外國市場ニ於テ購買スルノ困難、運賃、爲替、關税、輸入禁止又ハ輸入調節

(リ)、國際爲替問題ニ於ケル組合ノ發言權、組合機關ニ依ル直輸入額及其ノ組織方法、卸賣協會ト外國ノ産業組合（卸賣協會、農業産業組合）トノ商業上ノ關係、各國産業組合間ノ支拂方法

丙、國民經濟及世界經濟ニ關シテ産業組合ノ提起シタル解決法

甲及乙項中ニ包含セラルル質問ニ對スル回答中ニ呈示セラルル特別問題ニ關スル部分的解決法ノ外産業組合ハ生産及消費間ノ均衡ヲ再建スルニ付如何ナル一般的解決法ヲ推擧スルヤ　組合運動ノ立場ヨリ見テ特ニ國内及國際ノ經濟組織ヲ發達セシムヘキ一般的解決法ハ何ソヤ

附錄第一

産業ニ於ケル生産增進委員會

政府ハ産業ニ於ケル生産增進ノ問題ニ對スル調査ノ緊要ナルヲ考慮シ且下院ニ於テハ最近「サー、ロバート、ホーン」氏ニ依リ政府ノ爲右全體ノ件ニ付調査及報告ヲ爲スヘキ委員會ヲ設クルノ提議アリタルコト報告セラレタリ

右委員會ハ獨立ノ地位ヲ有スル委員長一名竝使用者二名、勞働代表二名及政府代表二名ヨリ成ル「常設」中核竝之ニ加フルニ委員會ニ依リ審議セラルヘキ特定ノ職業ヲ代表スル爲使用者及勞働者ニ依リ指名セラルル各二名ノ代表ヨリ成立スヘキモノト決定セラレタリ右職業代表ハ當該特定職業ニ關シ調査完了シタルトキハ委員會ヲ去リ他ノ職業代表之ニ代ルモノトス勞働大臣ハ使用者團體全國聯合會及勞働組合總會議會委員會ニ傳達シテ此等團體ヨリ各二名ノ「常設」使用者及勞働者代表ヲ指名センコトヲ求メ而シテ政府ハ今ヤ左ノ如ク委員會ノ任命ヲ爲シタリ

「サー、ステフェンソン、ケント」氏（委員長）

「アイ、ヘーグ、ミッチェル」氏
「ディー、ボール」中佐
「エー、エー、バーセル」氏
「サー、トーマス、ロビンソン」氏
「サー、アラン、エム、スミス」氏
「デー、エイチ、スチュアート、バンニング」氏
勞働大臣「ダブリュー、エイチ、レーノルド」氏（幹事）

委員會ニ對スル附託事項ハ左ノ如シ

『產業竝之ニ從事セル使用者及勞働者ノ恒久的安寧ニ適應シ能フ限リ多量ノ生產ヲ得ルノ最善ナル方法ニ關シ審議シ且助言スルコト』

委員會ハ最初ニ建築業ヲ審議スヘキ旨ノ提案アリ而シテ勞働大臣ハ建築業全國產業委員會ニ傳達シテ建築業ニ關スル諸件ノ審議セラルル間委員トシテ行動スヘキ代表者ノ指名ヲ求メ居レリ

委員會ニ關スル通信ハ倫敦　西區「ホワイトホール」「モンターグ、ハウス」氣附委員會幹事宛タルヘシ

附錄第二

產業ニ於ケル生產增進委員會ニ依リ發セラレタル質問書（英國）

(一)事業主ノ名稱及其ノ所在地
(二)作業ノ性質
(三)貴工場ノ使用人員數ヲ擧ケラレタシ
　男　子……
　女　子……
(四)一九一三年ト比較シテ現在ノ一人一時間ノ生產ハ如何ニナリ居ルヤ
(五)一人一時間ノ生產ノ增加又ハ減退ニハ如何ナル原因働キタリヤ
(六)貴工場ニ於テ現在實行中ノ勞働時間ハ何程ナリヤ

最近勞働時間ノ短縮アリタルヤ、若シアリトセハ右ハ貴工場ノ一人一時間ノ生產額ニ如何ナル影響ヲ與ヘタリヤ

(七)貴工場ニ於テ「ワン、ブリーク」制度（譯者註）ヲ採用セラレタリヤ若シ然リトセハ右採用ノ貴工場ノ一人一時間ノ生産額ニ及ホセル影響如何

（譯者註）「ワン、ブリーク」制度トハ作業中唯一回ノ休憩ヲ與フルノミニテ勞働ヲ續ケシムル制度ヲ謂フ

(八)貴工場ニ於テハ超過時間勞働アリヤ、若シアリトセハ其ノ長サ如何、貴工場ニ於テハ夜間交替制勞働アリヤ、若シアリトセハ其ノ時間如何

晝間作業、超過時間作業及夜間交替作業ハ能率ニ關係アリト思考セラルルヤ

(九)左項ニ使用セラルル勞働者ノ割合ヲ述ヘラレタシ

(イ)時間拂作業

(ロ)出來高拂作業

(ハ)其ノ他個人別又ハ團體別ニ依リ結果ニ從ヒテ支拂フ制度

(十)貴工場ニ於テ利益分配制行ハレ居ルヤ、貴工場ニ於テ右ノ如キ制度ヲ一旦採用シテ之ヲ廢止シタルコトアラハ其ノ詳細ヲ述ヘラレタシ

(十一)時間拂作業ナルカ出來高拂作業ナルカ又ハ其ノ他ノ結果ニ依ル支拂制度ナルカニ依リ作業ノ質ニ關係アルモノナリヤ若ハ關係アルヘキモノナリヤ

(十二)勞働組合ニ依リ結果ニ依ル支拂制度ノ採用ニ對シ反對提起セラレタリトセハ其ノ反對トスル點如何

(十三)一人宛休業時間ノ割合ハ何程ナリヤ、止ムヲ得サル缺勤ト然ラサルモノトヲ區別シテ右ニ對スル確實ナル理由ヲ與ヘ得ルヤ

(十四)貴工場ニ於テハ男女工トモ勞働供給適當ナリヤ、若シ然ラストセハ其ノ原因如何又貴工場ノ提示セントスル建策如何

(十五)貴工場ノ或工程ニ使用セラルル勞働者ノ等級ニ付制限ヲ設ケタリヤ若シ設ケタリトセハ其ノ詳細ヲ述ヘラレタシ

(十六)貴工場ニハ工場ニ於テ生スル勞働問題ヲ處理シ又ハ其ノ結末ヲ付クルノ責アル委員アリヤ、貴工場ニハ工場委員會活動シ居ルヤ、若シ然ラストセハ工場ニ於テ生スル勞働問題ノ回避ト其ノ矯正トニ對シ如何ナル他ノ方法ヲ採用スルヤ

(十七)貴工場ノ作業ハ充分ナル生産額ヲ生産シツツアリトノ御意見ヲ有セラルルヤ、若シ然ラストセハ賃銀支拂方法ヲ變更セハ生産ヲ増加スヘシト思考セラルルヤ、勞働者ニ對シテ右變更ヲ提議セラレタルコトアリヤ而シテ其ノ結果ハ如何

(六)如何ニセハ生産增加セラルルヲ得ルヤニ關スル一般的注意

附錄第三

勞働時間制合同調査委員會

(造船及機械工業)

一九一九年八月二十八日ノ合同覺書中ヨリ摘錄

『使用者及勞働組合交渉委員會ノ代表タル合同委員會ハ生産ノ勞働時間ニ對スル經濟關係竝之ニ關連シテ我國及諸外國ノ造船及機械工業ニ於ケル製造方法ヲ調査スル爲任命セラルルコト』

質問書――機械工業

回答セラレタル報道ハ凡テ極秘トシテ取扱ハルヘシ

質問ノ意味ニ別段ノ要求ナキ限リ回答ハ一九一三年及一九一九年ニ對スルモノタルヘシ

一、左項ニ付述ヘラレタシ――

(イ)質問書ニ回答スル事業主ノ名稱及工場ノ名稱

(ロ)主要製造品目錄

二、左記ニ於テ直接處分セラルル製造品全體ノ種類及大凡ノ割合ヲ擧ケラレタシ

(イ)英本國及愛蘭
(ロ)英國屬地
(ハ)諸外國
(ニ)右諸國ノ國名及各外國ニ割當テラルルコトヲ得ル製造品ノ大凡ノ割合ハ如何

三、國內及外國ニ於ケル貴社ノ製造品ニ對スル外國競爭ノ經驗ヲ述ヘラレタシ、若シ出來得ルナラハ外國取引先及代理店ノ報告ノ正確ナル詳細（日附共）ヲ述ヘラレタシ

四、左項ノ詳細及筋肉勞働者ハ如何ニ之ヲ使用シタルカヲ述ヘラレタシ——

(イ)洗面及手洗設備
(ロ)衣類入設備（各個人用及一般用）
(ハ)勞働者ノ衣類乾燥設備

五、左項ノ詳細ヲ述ヘラレタシ——

(イ)配給所設備　其ノ如何ニ利用セラルルカヲ述ヘラレタシ
(ロ)救濟設備
(ハ)第一救助準備及部局員

六、左項ノ詳細ヲ述ヘラレタシ——

(イ)工場一般ノ採光
(ロ)工場ニ對スル通風及煖房設備

七、內務省規則ニ依リ定メラレタルモノ以外ニ危險若ハ不健康作業ニ從事スル勞働者ニ對スル設備ノ設ケアリヤ若シ然リトセハ其ノ詳細ヲ述ヘラレタシ

八、(イ)工場全體。(ロ)筋肉勞働者一人宛ニ供給セラルル馬力數ヲ述ヘラレタシ

九、機械ニ使用セラルル者ノ工場內ノ筋肉勞働者全體ニ對スル割合ヲ擧ケラレタシ

十、使用人員數——

使用セラルル筋肉勞働者一週平均數ヲ述ヘラレタシ

二十一歲以上　(イ)男　(ロ)女
二十一歲未滿　(イ)男　(ロ)女

十一、勞働時間――晝間作業――

(イ)通常一日勞働時間ハ何時間ナリシヤ

(ロ)通常勞働日ニ於ケル食事休憩度數及各休憩ノ時間ハ何程ナリヤヲ述ヘラレタシ

(ハ)通常一週ニ於ケル筋肉勞働者一人ノ平均實働時間數（超過時間ヲ除ク）ヲ擧ケラレタシ――

(一)使用筋肉勞働者全體ニ對シ

(二)時間拂勞働者全體ニ對シ（別ニ）

(三)結果ニ依ル支拂勞働者全體ニ對シ（別ニ）

(ニ)全休業時間中病氣其他勞働者ノ止ムヲ得サル事故ニ基キタルモノノ割合ハ何程ナリシヤ

(ホ)超過時間ノ通常晝間實働時間全體ニ對スル割合ハ何程ナリシヤ

十二、勞働時間――夜間作業――

(イ)夜間作業アリタリヤ

(ロ)食事時間ヲ除キ一週ノ夜間作業時間ハ何程ナリシヤ

(ハ)夜間作業時間全體ノ通常晝間實働時間全體ニ對スル割合ハ何程ナリシヤ

(ホ)夜間作業制ヲ行ヒ又ハ擴張セント試ミラレシコトアリシヤ、若シ不成功ナリシトセハ其ノ理由

ヲ述ヘラレタシ

十三、休　日――

(イ)貴工場ニ於テハ毎年幾日休業セシメラレタリヤ

(一)公休日

(二)非公休日

(ロ)右休日ノ一年ノ勞働日全體ニ對スル割合ハ何程ナリシヤ

十四、報酬方法――

(イ)結果拂制度又ハ賞與制度（卽直接出來高拂作業又ハ「ローワン」「ハルセイ」若ハ「ワイヤー」制度又ハ團體、工場、工作場制度）行ハレタリヤ、若シ行ハレタリトセハ詳細ヲ述ヘラレタシ

若シ右ノ如キ制度採用セラレサリシトセハ左ノ何レニ基クヤ

(一)何レノ一種ノ製品ノ分量ニモ制限アルコト

(二)工場ニ使用セラルル勞働者ノ反對

(三)其ノ他ノ原因

(ロ)結果拂制度ノ下ニ從業セル職工其他ノ勞働者ヲ擧ケラレタシ

(ハ)現在出來高拂又ハ結果拂ニテ從業スル勞働者又ハ職工ノ或階級ニシテ一九一三年中時間拂作業ニ從事シタルモノアリヤ若シアリトセハ右變更ニ至ラシメタル理由竝其ノ生產額ニ及ホシタル影響ヲ述ヘラレタシ

(ニ)時間拂ニテ從事スル勞働者ノ作業完了ヲ待ツ必要アル爲結果拂ニテ從業スル勞働ノ生產額ハ如何程ノ障害ヲ受ケタリヤ

其ノ實例ヲ擧ケラレタシ

(ホ)時間拂ニテ從業スル其ノ補助勞働者ノ爲結果拂ニテ使用セラルル勞働者ノ生產額ハ如何程ノ影響ヲ受クルヤ、若シ貴社ニ於テ補助勞働者ニ對シ結果拂制度ヲ採用スルヲ得タルコトアリタリトセハ其ノ生產額ニ及ホシタル影響如何、其ノ詳細ヲ述ヘラレタシ

(ヘ)同一作業ニ付左項ニテ勞働セル場合ニ於ケル職工又ハ其他ノ勞働者ノ生產額ノ比較實例ヲ擧ケラレタシ——

(一)時間拂ニテ

(二)結果拂ニテ

十五、機械ノ數、機型、大サ、機械運轉ハ調帶ニ依ルヤ若ハ獨立ノ動力機ニ依ルヤヲ述ヘラレタシ

十六、機械ニ付使用セラルル各工場ノ筋肉勞働者ノ割合ヲ擧ケラレタシ

十七、婦人ハ如何ナル種類ノ作業ニ使用セラルルヤ

十八、機械設備（一般的設備）

製造工程中物品取扱ヲ敏速且簡易ナラシムル爲設ケラレタル設備（即起重機、運搬路、軌道等）ノ詳細ヲ述ヘラレタシ

十九、一工場ニ供給セラルル馬力ヲ述ヘラレタシ

二十、貴工場ニ於テハ最近設備及新タナル作業方法ヲ充分利用スルニ付勞働者ヨリ相當ナル助力ヲ受ケラレタルコトアリヤ、實例ヲ擧ケラレタシ

二十一、生產額、作業ノ進歩及餘裕——

現在使用勞働者數及現在本工業ニ於テ行ハルル勞働條件ヲ以テ——

(イ)貴社ハ作業ノ正常ナル餘裕ト進歩トヲ支持スルコトヲ得ルヤ

(ロ)職工其ノ他ノ勞働者ノ不足ノ爲生產額ニ支障アリヤ、若シアリトセハ其ノ詳細ヲ擧ケ且右ノ不足ハ一時的ノモノニシテ戰時狀態ニ基因スルヤ生產品ノ品柄ノ改變ニ基クヤ物資ノ不足ニ因ルヤ等若ハ恒久的性質ヲ有スル原因ニ基クヤヲ述ヘラレタシ、若シ後者ナリトセハ其ノ原因ハ何

ナリヤ

二十二、特定ノ二年卽チ一九一三年及一九一九年ノ生産（其ノ多寡ニシテ價格ニ非ス）ヲ比較セラレタシ、差異アラハ其ノ理由ヲ述ヘラレタシ

二十三、概括シテ——

附託事項ノ範圍內ニ屬シ且上ニ提起セラレタル質問中ニ特ニ含マルルコトナキ事項ニ付報道ヲ與ヘラレタシ

鑄造工場

（附加質問）

二十四、名稱（卽鋼鐵——鐵又ハ銅）

二十五、鑄床ノ面積

二十六、製造品目ノ種類

二十七、平均一週生産噸數

二十八、右一噸ノ品目ノ種類及數量ヲ指示セラレタシ

二十九、模削機使用セラルルトキハ人力及動力ニ依リテ運轉セラルル數量（各別ニ）ヲ擧ケラレタシ

三十、左項ノ數ヲ擧ケラレタシ

（イ）模削機ヲ運轉スル充分ナル熟練勞働者數

（ロ）模削機ニ使用セラルル其ノ他ノ勞働者數

三十一、機械ハ如何ナル種類ノ製品ヲ模削スルヤ

平均一週ノ機械ノ模削シタル製品ノ生産額（噸數）ヲ擧ケラレタシ

三十二、模削機使用セラレサル場合ニハ其ノ理由ヲ述ヘラレタシ

附錄第四

白耳義經濟狀態調査委員會說明書

エル、ヅュ、ブルーケール

休戰ノ際ニハ白耳義ノ經濟ハ殆ント完全ナル窮盡ノ狀態ニ在リキ食料品其ノ他ノ生活必要品及原料ノ供給ハ全ク其ノ姿ヲ沒シ運輸ハ殆ント停止セラレ大多數ノ工場ノ裝置ハ持チ去ラレ又ハ破損セラレ居タリ斯カル狀態ノ下ニ在リテ國民ハ生活ヲ支持シ且生產活動ヲ始ムルニ必要ナル殆ント一切ノモノヲ外國ヨリ輸入スルノ止ムナキニ到リタリト雖止ムヲ得サル莫大ナル輸入額ニ對シ未タ何モノヲモ輸出スルコト能ハサリキ取引ノ平衡ヲ恢復スル爲ニハ確ニ非常ノ大努力ヲ要シタリ一九一八年十一月ニハ皆無ナリシ我國ノ外國販賣ハ一九二〇年六月ニ於テハ九四九、〇〇〇噸其ノ價格八四四、〇〇〇、〇〇〇法ニ昂リタリ斯クノ如クニシテ既ニ輸出ハ輸入ノ七割三分卽チ殆ント正確ニ戰前ノ割合ニ達シタレトモ右ハ其ノ當時ニ於テコソ適當ナレ現在ニトリテハ其ノ割合餘リニ低シ何トナレハ我國ノ負債ハ莫大ノ增加ヲナシタルニ反シ我國ノ放資ハ多量ニ減少シタレハナリ予ハ茲ニ其ノ一切ノ結果――我國ノ爲替ノ著シキ低落、何レノ隣國ニ現レタルヨリモ著シク增大シタル生活費ノ昂騰(「ブラッセル」ニ於ケル生活費ハ一九一四年七月ノ生活費ノ四十九割二分ナリ)ニ關シテハ詳述セサルヘシ

右ノ狀態ニ於テ物價及生產ニ關スル一切ノ問題カ大ニ公衆ノ注目ヲ惹キタルハ爾明ノコトナルヘシ國民ノ一切ノ階級ハ工業生產額ヲ增進スルノ必要ヲ認ムルニ於テ一致スルモ其ノ結果ニ到達セシムル最良ノ方法如何ニ關シテハ意見區々ニシテ一致スル處ナク多數ノ使用者ハ長時間勞働制ヘノ復歸ヲ要求スルニ反シ勞働者ハ熱心ニ八時間制ノ嚴重ナル實施ヲ要求シ且工業上ノ設備及方法ヲ完全ナラシムルニ依リ多量ノ財貨供給ヲ達成スヘキヲ提議ス議會ニ於テハ本問題ニ付激烈ナル討論アリタリ右討論中政府ハ使用者、勞働者、經濟學者及消費者代表ヨリ成ル一委員會ヲ設ケ之ニ輿論ノ蒙ヲ啓キ且其ノ原因ヲ知ラシメ以テ生產增進政策ノ實施ヲ容易ラシムルニ付必要ナル一切ノ報道ヲ蒐集スルノ事務ヲ委託セントスルノ意思ヲ表明シタリ右ノ約束ハ四月十二日ニ爲サレ七月九日ノ勅令ニ依リ補遺セラレタリ

玆ニ其ノ正文ヲ附シタル右ノ勅令(附錄第一)ニ依リテ白耳義ノ經濟狀態ヲ調査スヘキ一委員會設置セラレタリ該委員會ハ國民經濟大臣ヲ議長トシ勞働組合委員會ニ加入セル勞働組合代表十二名、基督教勞働組合代表數名、勞働者ト同數ノ使用者、國會議員數名、官吏數名及經濟學者數名合計六十六

名ノ委員ヨリ成リ其ノ附託事項ハ上奏報告書ノ左ノ一節中ニ定メラル

『陛下、惟ルニ工業（使用者及勞働者、農業、商業、金融業及消費者ノ代表竝國會議員及經濟學者ヨリ成ル委員會ハ輿論ノ蒙ヲ啓クニ付好箇ノ活動ヲ爲スヲ得ヘシ其ノ職務ハ生產及消費ニ關シ白耳義ノ經濟狀態ヲ調査シ且國民ノ要求ヲ充タス爲右二個ノ分野ニ於テ確立スルノ要アル條件ヲ調査スルニ在ルヘシ』

委員會ハ一九二〇年七月二十八日第一回會議ヲ開キタリ其ノ報告書ハ玆ニ附シタリ（附錄第二）

大臣ハ其ノ開會ノ辭中ニ於テ其ノ職務ヲ要約シテ左ノ如ク述ヘタリ

『諸君ハ我國經濟活動ノ主要分科ノ狀態ヲ調査スル爲招集セラレタリ

諸君カ吾人ノ販賣又ハ消費スル各重要品目ニ關シテ其ノ原料ニ遡リテ其ノ原產ノ際ヨリシテ消費ニ供セラレントスル之ヲ含有スル仕上品ニ至ル迄其ノ經過シタル一切ノ工程ノ跡ヲ追ヒ且生產及消費者間ノ一切ノ中間的段階ニ亘リ之ヲ追ヒ以テ調査セラレンコトヲ希望ス

右ノ過程ヲ追フコトニ依リ諸君ハ生產ノ實狀ニ對シ特別ノ注意ヲ拂フニ至ルヘシ

諸君ハ生產ハ戰前ニ比シ如何程低減シタルヤヲ査定スルノ要アルヘシ

諸君ハ其ノ原因カ設備ノ狀態ニ因ルヤ供給ヲ得ルノ困難ニ因ルヤ勞働者ノ生產力減退ニ因ルヤ果又市場ノ喪失ニ因ルヤヲ調査セラルヘシ

諸君ハ又技術上又ハ商業上ノ更改若ハ筋肉勞働ノ協力ニ依ル生產增加ノ可能性ニ注意セラルヘシ

畢ニ原價問題ヲ取扱フニ當リテハ諸君ハ之ヲ組成スル各種要素ノ重要程度ノ比較ヲ明確ナラシメンコトヲ希望ス

特ニ希望ニ堪ヘサルハ原料供給ヲ得ルノ方法卽何人ヲ經由シテ供給セラレタリヤ在貨ノ實情如何及各市場ニ於ケル相場ノ變動ハ如何ナリシヤニ付諸君ノ調査アランコトナリ

賃銀ノ變動、勞働ノ生產力、各個勞働者ノ利用、現在行ハレ又ハ將來行ハルヘキ筋肉勞働ノ節約ハ凡テ以上ト同一方法ニ依リテ研究セラレサルヘカラス

吾人ハ又生產ノ一般費用トシテ負擔スル額何程ナリヤ租稅及國債ハ如何程增加シタリヤ又如何ニセハ此等ノ負擔ヲ輕減シ得ヘキヤヲ確メサルヘカラス

分配ノ問題モ右ト均シク廣般ナルモノナリ

內國市場向生產及輸出向生產ノ割合ハ何程ナリヤ

物價ハ如何ニシテ且如何ナル條件ニ從ヒテ定メラルルヤ右ハ如何ニシテ且如何ナル影響ニ依リテ變動スルヤ各市場ニ於ケル競爭ノ程度如何之ニ關シ目下ノ低落傾向ノ及ホス效果如何

仲介者ノ役目ハ如何其ノ仲介ノ性質ハ如何ナルモノナリヤ如何ナル程度ニ於テ右ハ眞ニ有用ナル目的ニ應スルヤ右ハ如何ナル任務ヲ有スヘキモノナリヤ

我國ノ製造品ノ在貨ノ量ハ何程ナリヤ投機及買占ノ效果如何

畢ニ貨物ハ事實如何ニシテ消費者ニ販賣セラルルヤ各種ノ店舗、小賣商人、生產組合ノ干涉ハ物價ニ如何ナル效果ヲ及ホスヤ』

右ノ多數ノ綱目――爾ク大臣自身ニ依リ定メラレタル――ハ之ヲ實行スルニ多クノ日時ヲ要スヘシ

目下委員會ハ休暇期ノ爲其ノ活動更ニ遲延シテ猶執務順序ヲ決定シ且方針ヲ定メツツアリ

委員會ノ細則ハ既ニ定メラレ（附錄第三）五箇ノ職業部ニ分タレタリ第一部鑛山業、金屬工業、電氣工業及運輸業、第二部紡織工業、第三部陶器製造工業、硝子並鏡製造工業及化學製造業、第四部雜種工業及製造業、第五部農業及食料品業ナリ

更ニ左ノ重要ナル三種ノ問題ノ一般的調査ヲ遂クル爲三箇ノ小委員會設ケラレタリ

(一)財政及課稅ニ關スル問題

(二)商業及輸出ニ關スル問題

(三)勞働問題

各部ハ各種ノ產業ニ關シ各專門ノ論文ヲ作成シ各小委員會ハ委員會總會ニ附託スヘキ概括調査ヲ作成スヘキモノトセラル

小委員會ハ未タ會議ヲ開キタルコトナク九月ノ初數日間會合スル樣招集セラレ居レリ各部ハ皆其ノ事務ヲ開始シタリ

右調査ハ統計表及其ノ他ノ公文書ヨリ拔萃ヲ作成スルニ限ラルヘキニ非ス又委員ノ供給スル報道ハ其ノ結論ヲ各部小各委員會共支持スルニ妥當ナル證據資料トシテハ均シク不適當ナルコトヲ認メタリ故ニ右ハ一切ノ直接利害關係者卽使用者ニモ勞働者ニモ質問書ヲ送リ進ンテハ其會議中證據資料ヲ與ヘント欲スル此等ノ者ニ質問シ以テ調査ヲ遂クルノ方法ヲ考量シツツアリ第三部所屬使用者「ヘニン」氏ハ關係者ヲシテ宣誓ノ下ニ證據資料ヲ供給セシムルニ必要ナル權限ヲ委員會ニ附與センコトヲ要求シ居レリ

質問書ハ凡テノ產業ニ對シテ同一項目ヲ有スル樣作成セラルヘキコトノ望マシキハ一般ノ認ムル處ナリ右提案ニ付審議ヲ完了スルト同時ニ各部ヨリ附託セラレタル質問書案ヲ審議スル爲總會開催セラルヘシ紡織工業部ハ既ニ其ノ草案ヲ決定シタリ（附錄第四）

又鑛山業、金屬工業、電氣工業及運輸業部ハ紡織工業部ノ作成セル草案ニ其ノ討議ノ基礎ヲ置キ且

之ニ戰前物價調査ノ爲「マハイム」氏ノ提出シタル質問書（附錄第五）及勞働生産ニ關スル決議ノ爲「ヅユ、ブルーケール」氏ノ立案セル計畫ヲ加フルコトヲ決議シタリ（附錄第六）

附錄第五

白耳義産業委員會議事規則

第一條　本委員會ハ左ノ五部ニ分タルヘシ

(一)鑛山業、金屬工業、電氣工業及運輸業
(二)紡織工業
(三)陶器製造工業、硝子製造工業及化學工業
(四)木材工業、皮革工業等ヲ含ム其ノ他ノ工業
(五)農業竝食料及飲料品業

委員會ハ又左ノ三小委員會ニ分タルヘシ

一、財政及租稅
二、商業及輸出
三、勞働

各部又ハ各小委員會ハ其ノ中ヨリ部長又ハ委員長、副部長又ハ副委員長竝書記ヲ任命スヘシ各部及各小委員會ハ本委員會委員ニ非サル者ヲ附屬書記ニ任命スルコトヲ得

第二條　本委員會ノ議長、副議長及書記ハ一切ノ部及小委員會ノ委員タルヘシ其ノ他ノ委員ハ一方ニ於テハ五部間ニ他方ニ於テハ三小委員會間ニ分タルヘシ委員ハ其ノ所屬セサル部及小委員會ノ會議ニ出席スルコトヲ得ルモ表決ヲ爲スノ權利ヲ有セス委員カ前以テ特定ノ討議ニ出席セントスル意思ヲ表示シタル時ハ當該委員ハ當該討議ノ行ハルヘキ會議ニ招待セラルヘシ

第三條　各部又ハ各小委員會ハ其ノ委員中ノ數名ニ當該事務ノ鞅掌ヲ委任スルニ依リ又ハ報道ヲ供給スルコトヲ得ル者ニ質問書ヲ送附スルニ依リ報道ヲ蒐集スルコトヲ得

第四條　二三部合意ノ上合同行爲又ハ合同委員會ニ依リ一個若ハ數個ノ特定問題ヲ審議スルコトヲ得

第五條　各部又ハ各小委員會ハ其ノ手續及事務ニ關スル規則ヲ設クヘク假決議ヲ爲スヘク且委員會總會ニ報告スヘシ委員會總會ハ政府ニ附託セラルヘキ提案ヲ決議スヘシ

第六條　總會ハ事務局之ヲ必要ト認ムルトキ若ハ小委員會其ノ事務ニ付總會ニ報告ヲ爲スヲ可トスル旨決議シタルトキニ於テ開催セラルヘシ右報告ハ決議ト同時ニ之ヲ事務局ニ移牒スヘシ

第七條　部及小委員會ニ依リ爲サレタル決議ハ之ヲ事務局ニ通告スヘシ事務局全體ノ利益ノ爲部又ハ小委員會ノ決議ヲ修正スルヲ可ナリト認ムルトキハ之ニ對スル理由ヲ當該部又ハ小委員會ニ陳述スヘシ意見ノ一致ニ到達スルコト能ハサルトキハ總會開催セラルヘシ

第八條　委員會、事務局、部及小委員會ノ決議ハ單純多數表決ニ依リ決セラルヘシ表決可否同數ナルトキハ議長、議長ナキトキハ副議長ハ表決決定權ヲ有スヘシ

第九條　委員會、部及小委員會ノ會議ニ付テハ議事錄ヲ採錄スヘシ委員會會議ノ整理報告ハ之ヲ作成スヘシ

附錄第六

一九二〇年ニ於ケル作業復舊ニ對スル主要障害

二十人以上ノ勞働者ヲ使用スル企業

原因	企業及企業ノ分科數	合計 一九一三年六月ニ於ケル使用數	合計 一九二〇年六月ニ於ケル使用數
物資ノ缺乏（獨逸ニ依リ持チ去ラレ又ハ破壞セラレタル）等	九〇〇	一七九、五七九	一二三、七四七
原料ノ缺乏	三〇一	四二、〇二七	三三、一〇一
石炭ノ缺乏	九二	一五、一八八	一四、四九八
原料及石炭ノ缺乏	三〇	二一、一四六	一七、六六一
筋肉勞働者ノ缺乏	二七五	五四、八二〇	四七、九五四
資本ノ缺乏——賠償金支拂ノ遲延	四一七	四六、八〇八	三一、四四三
注文ノ缺乏	三五〇	三一、二八五	二一、九四四
輸出禁止	七七	七、二六七	六、二四四
運輸機關ノ不定	二九	三、九七七	三、〇四二
原料價額ノ騰貴	一五六	一八、一七四	一三、八七一
勞働費ノ騰貴	八六	九、八三三	一一、六一九
清算又ハ强制管理中ノ工場	九一	九、八七三	二、一五〇
合計	二、八〇四	四三九、八五七	三二七、二七四
完全ナル作業復舊	一、一四三	二一一、〇三二	二四五、五一八
新規ノ企業	三二一	——	三四、一六八
總計	四、二六八	六五〇、八八九	六〇六、九六〇

附錄第七

質問書案

ヂャッカート氏立案

甲、原料

一、原料ハ何處ニテ得ラルルヤ

一九一四年以後變化アリタリヤ

二、右ハ容易ニ得ラルルヤ

市場ハ自由市場ナリヤ

三、右ハ直接生產者ヨリ買サルルヤ又ハ仲介者ヲ經由スルヤ

四、供給ハ何レナリヤ

(イ)外國ヨリナリヤ

(ロ)國內ニ於テナリヤ

五、不足アリトセハ其ノ理由如何

六、現在ノ價格ハ何程ナリヤ又一九一三年ニハ何程ナリシヤ

休戰以後如何ナル價格ノ變動起リシヤ

七、價格騰貴シタリトセハ其ノ原因如何

右ノ原因ハ引續キ働クヘキヤ

乙、生產

八、現在ノ生產如何　一九一三年ノ生產如何

九、減退アリトセハ其ノ原因如何　右ハ左項ノ何レニ基クヤ

(イ)供給ノ不足ナリヤ　之ニ付テノ將來ノ景況如何

(ロ)必要ナル機械設備ノ不備ナリヤ

右ノ不備ノ點ヲ補足スルノ方法

(ハ)勞働者ニ依ル生產額ノ減少ナリヤ

其ノ原因及對治策

(ニ)國內又ハ外國市場ノ喪失アリヤ

其ノ原因如何

(ホ)倉庫ノ滿貨アリヤ

右ノ一時的原因ハ何程繼續スル見込ナリヤ

丙、生産費

十、戰前ノ原價ノ諸働因ト現在ノ夫レトノ比較如何

(イ)原料

右ハ何程其ノ價格騰貴シ居ルヤ

(ロ)賃銀　右ハ何程昂騰シ居ルヤ

(ハ)勞力　右ノ價格ハ何程昂騰シ居ルヤ

(ニ)一般費用　右ハ何程增加シ居ルヤ

(ホ)資産費及會計費　右ハ何程增加シ居ルヤ

(ヘ)評價減損　右ハ何程增加シ居ルヤ

十一、如何ニセハ右ノ働因ハ減退セシメ得ヘキヤ

丁、販賣

十二、貴下ハ國內市場ニ仕向ケラルルヤ外國市場ニ仕向ケラルルヤ右双方ナリトセハ其ノ割合如何

十三、價格ハ何程ニシテ且如何ナル條件ニ依リテ定メラルルヤ

十四、右ハ何程ノ變動アリヤ且變動ノ理由ハ何ナリヤ

十五、競爭狀態如何

(イ)國內市場ニ於テ

(ロ)外國市場ニ於テ

十六、白耳義ノ生産ハ國內ノ必要ヲ充足スルヤ

十七、外國商品ノ侵潤アリヤ

其ノ理由如何

十八、戰前獨逸ノ供給シタル商品ニシテ我國自ラ製造シ得ルモノアリヤ

若シ製造シ得ストセハ其ノ理由如何

十九、賣上高ハ增加ノ傾向ナリヤ又ハ減退ノ傾向ナリヤ

若シ減退ナリトセハ其ノ產業及賃銀ニ對スル影響如何

二十、若シ店舗ヨリ直接販賣セラレストセハ仲介者ノ果ス職分如何